

2026(令和8)年度
リハビリテーション学部
シラバス

リハビリテーション学部 目次

学修成果 (到達目標)、カリキュラムマップ	5
カリキュラムツリー	9

<1年生>

年間予定表	15
理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス	17

開講科目	頁
日本語表現法	17
英語 I	18
英語 II	19
情報処理 I	20
情報処理 II	21
哲学	22
心理学	23
宗教と民族	24
人間関係論	25
法学入門	26
日本国憲法	27
経済と政策	28
社会学	29
社会保障論	30
物理学	31

開講科目	頁
生物学	32
健康スポーツ I	33
解剖学 I	34
解剖学 II	35
解剖学演習	36
解剖学実習	37
生理学 I	39
運動学総論	40
運動学演習 I	41
運動学演習 II	42
人間発達学	43
栄養学	44
救急救命学	45
リハビリテーション概論	46

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
理学療法学概論	49
トランスレーショナルセミナー I	50

.....	47
-------	----

開講科目	頁
臨床実習 I (体験実習)	51

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
作業療法学概論	55
基礎作業学	56
トランスレーショナルセミナー I	57

.....	53
-------	----

開講科目	頁
臨床実習 I (体験実習)	58
地域生活支援論	59

<2年生>

年間予定表	63
理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス	65

開講科目	頁
ICT 活用技術	65
教育心理学	66
教育学概論	67
自然環境と災害	68
統計学入門	69
健康スポーツ II	70
生理学 II	71
生理学実習	72
運動学実習	74
機能解剖学実習	76
臨床運動学	78

開講科目	頁
薬理学	79
病理学	80
小児科学	81
内科学	82
神経学	83
整形外科学	84
精神医学	85
臨床心理学	86
言語聴覚療法概論	87
チームアプローチ入門	88

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
トランスレーショナルセミナーⅡ	91
理学療法評価学	92
基礎理学療法評価学実習	93
運動器障害理学療法評価学実習	95

..... 89

開講科目	頁
物理療法学	97
物理療法学演習	98
日常生活活動学	99
日常生活活動学実習	100

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
精神医学演習	105
トランスレーショナルセミナーⅡ	106
作業療法評価学	107
身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	108

..... 103

開講科目	頁
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	109
精神障害作業療法評価学演習	110
高次脳機能障害作業療法評価学演習	111
生活環境論	112

<3年生>

年間予定表

理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス

開講科目	頁
生命倫理学	117
老年学	118

..... 115

..... 117

開講科目	頁
公衆衛生学	119
臨床検査・画像診断学	120

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
トランスレーショナルセミナーⅢ	123
神経障害理学療法評価学実習	124
内部障害理学療法評価学演習	126
理学療法評価学総合実習	127
運動器障害理学療法学	129
運動器障害理学療法学演習	130
神経障害理学療法学	132
神経障害理学療法学演習	133
高次脳機能障害学	135
内部障害理学療法学	136

..... 121

開講科目	頁
内部障害理学療法学演習	137
神経筋疾患理学療法学	139
小児理学療法学	140
義肢装具学	141
義肢装具学演習	142
臨床実習Ⅱ（評価実習）	143
地域リハビリテーション実習	144
地域理学療法学	145
地域理学療法学演習	146
理学療法学総合演習Ⅰ	147

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
基礎作業学演習Ⅰ	151
トランスレーショナルセミナーⅢ	152
作業療法研究法Ⅰ	153
作業療法理論	154
身体障害作業療法学Ⅰ	155
身体障害作業療法学Ⅱ	156
身体障害作業療法学演習	157
精神障害作業療法学	159
精神障害作業療法学演習	160
高齢期作業療法学	161

.....

開講科目	頁
高齢期作業療法学演習	162
発達障害作業療法学	163
高次脳機能障害作業療法学	164
日常生活活動学	165
義肢装具学	166
臨床実習Ⅱ（評価実習）	167
臨床実習Ⅲ（地域実習）	168
地域作業療法学	169
職業リハビリテーション論Ⅰ	170
作業療法学総合演習Ⅰ	171

ナンバリング

教員一覧

実務経験を有する教員一覧

オフィスアワー・成績評価

..... 175

..... 178

..... 179

..... 180

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻
カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

理学療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態に対して科学的根拠に基づく理学療法を実践できる力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、理学療法学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○							
	英語Ⅰ	1		8	●						○							
	英語Ⅱ	1		15	●						○							
	英語Ⅲ		1	15	●			●										○
	情報処理Ⅰ	1		15	●						○							
	情報処理Ⅱ	1		15	●						○							
	ICT活用技術		1	15	●			●				○						
選択科目から2単位以上を修得	哲学	1		8	●			●			○							
	生命倫理学	1		8	●	●		●						○				
	心理学	1		8	●	●		●			○							
	教育心理学	1		8	●			●			○							
	宗教と民族		1	8	●						○							
	人間関係論	1		8	●	●		●			○							
社会科学系	法学入門	1		8	●						○							
	日本国憲法		1	8	●						○							
	経済と政策	1		8	●						○							
	教育学概論	2		15	●			●					○					
	社会学		1	8	●			●			○							
自然科学系	物理学	1		8	●		●	●			○							
	生物学	1		8	●		●	●			○							
	自然環境と災害	1		8	●				●				○					
	統計学入門	1		8	●			●				○						
	健康スポーツⅠ		1	8	●						○							
	健康スポーツⅡ		1	15	●								○					
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	2		15	●		●				○							
	解剖学Ⅱ	2		15	●		●				○							
	解剖学演習	1		15	●		●				○							
	解剖学実習	1		20	●		●				○							
	生理学Ⅰ	2		15			●				○							
	生理学Ⅱ	2		15			●					○						
	生理学実習	1		20			●						○					
	運動学総論	1		8			●				○							
	運動学演習Ⅰ	1		15			●				○							
	運動学演習Ⅱ	1		15			●				○							
	運動学実習	1		20			●					○						
	機能解剖学実習	1		20			●						○					
	臨床運動学	2		15			●						○					
	人間発達学	1		8			●				○							

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	薬理学	1		8			●					○						
	病理学	1		8			●						○					
	小児科学	1		8			●						○					
	老年学	1		8			●							○				
	内科学	2		15			●						○					
	神経学	2		15			●							○				
	整形外科学	2		15			●						○					
	精神医学	2		15			●						○					
	臨床心理学	1		8			●							○				
	栄養学	1		8			●						○					
	救急救命学	1		8		●	●				○							
	公衆衛生学	1		8			●		●						○			
	言語聴覚療法概論	1		8		●	●							○				
	臨床検査・画像診断学	1		8			●								○			
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●		●			○						
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●					○				
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●		●									○
基礎理学療法学	理学療法学概論	2		15	●		●	●			○							
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○							
	トランスレーショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●				○						
	トランスレーショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●						○			
	トランスレーショナルセミナーⅣ	1		15	●	●	●	●	●									○
	理学療法研究法Ⅱ	2		30			●	●	●									○
理学療法管理学	理学療法管理学	2		15	●	●	●	●										○
理学療法評価学	理学療法評価学	1		8			●					○						
	基礎理学療法評価学実習	1		20			●					○						
	運動器障害理学療法評価学実習	1		20			●						○					
	神経障害理学療法評価学実習	1		20			●							○				
	内部障害理学療法評価学演習	1		15			●								○			
	理学療法評価学総合実習	1		20			●									○		
専門科目 選択科目から2単位以上を修得	運動器障害理学療法学	2		15			●							○				
	運動器障害理学療法学演習	2		30			●	●							○			
	神経障害理学療法学	2		15			●							○				
	神経障害理学療法学演習	2		30			●	●							○			
	高次脳機能障害学	1		8			●								○			
	内部障害理学療法学	2		15			●								○			
	内部障害理学療法学演習	2		30			●	●							○			
	神経筋疾患理学療法学	2		15			●								○			
	小児理学療法学	1		8			●								○			
	物理療法学	2		15			●						○					
	物理療法学演習	1		15			●	●					○					
	義肢装具学	2		15			●								○			
	義肢装具学演習	1		15			●	●								○		
	日常生活活動学	2		15			●						○					
	日常生活活動学実習	1		20			●	●						○				
	予防理学療法学	2		15		●		●	●									○
	スポーツ理学療法	2		30			●											○
	疼痛理学療法	1		8			●											○
先端理学療法	1		8			●	●	●									○	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	1		45h	●	●	●	●	●			○						
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	4		180h	●	●	●	●	●						○			
	臨床実習Ⅲ（総合実習）	7		315h	●	●	●	●	●									○
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	7		315h	●	●	●	●	●									○
	地域リハビリテーション実習	1		45h	●	●	●	●	●						○			
地域理学療法学	地域理学療法学	1		8			●	●	●					○				
	地域理学療法学演習	1		15			●	●	●						○			
	生活環境論	1		8			●	●	●									○
特別演習	理学療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●						○			
	理学療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●									○

卒業要件単位数 129単位以上

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻

カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

作業療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態や作業ニーズを捉え作業療法を実践できる力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、作業療法学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目	日本語表現法	1		15	●						○							
	英語Ⅰ	1		8	●						○							
	英語Ⅱ	1		15	●						○							
	英語Ⅲ		1	15	●			●										○
	情報処理Ⅰ	1		15	●						○							
	情報処理Ⅱ	1		15	●						○							
	ICT活用技術		1	15	●			●				○						
選択科目から2単位以上を修得	哲学	1		8	●			●		○								
	生命倫理学	1		8	●	●		●					○					
	心理学	1		8	●	●		●		○								
	教育心理学	1		8	●			●			○							
	宗教と民族		1	8	●					○								
	人間関係論	1		8	●	●		●		○								
社会科学系	法学入門	1		8	●					○								
	日本国憲法		1	8	●						○							
	経済と政策	1		8	●						○							
	教育学概論	2		15	●			●					○					
	社会学		1	8	●			●		○								
自然科学系	社会学		1	8	●			●		○								
	物理学	1		8	●		●	●		○								
	生物学	1		8	●		●	●		○								
	自然環境と災害	1		8	●				●				○					
	統計学入門	1		8	●			●			○							
	健康スポーツⅠ		1	8	●					○								
専門基礎科目	健康スポーツⅡ		1	15	●								○					
	解剖学Ⅰ	2		15	●		●			○								
	解剖学Ⅱ	2		15	●		●				○							
	解剖学演習	1		15	●		●			○								
	解剖学実習	1		20	●		●				○							
	生理学Ⅰ	2		15			●				○							
	生理学Ⅱ	2		15			●					○						
	生理学実習	1		20			●						○					
	運動学総論	1		8			●			○								
	運動学演習Ⅰ	1		15			●				○							
	運動学演習Ⅱ	1		15			●				○							
	運動学実習	1		20			●					○						
	機能解剖学実習	1		20			●						○					
	臨床運動学	2		15			●						○					
人間発達学	1		8			●				○								

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次										
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門基礎科目	薬理学	1		8			●													
	病理学	1		8			●						○							
	小児科学	1		8			●						○							
	老年学	1		8			●								○					
	内科学	2		15			●						○							
	神経学	2		15			●						○							
	整形外科学	2		15			●						○							
	精神医学	2		15			●						○							
	精神医学演習	1		15			●						○							
	臨床心理学	1		8			●						○							
	栄養学	1		8			●						○							
	救急救命学	1		8		●	●				○									
	公衆衛生学	1		8			●		●						○					
	言語聴覚療法概論	1		8		●	●								○					
	臨床検査・画像診断学	1		8			●								○					
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●		●			○								
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●					○						
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●		●											○
基礎作業療法学	作業療法学概論	1		8	●		●	●			○									
	基礎作業学	1		8			●	●				○								
	基礎作業学演習Ⅰ	1		15			●	●							○					
	基礎作業学演習Ⅱ		1	15					●											○
	トランスレショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○									
	トランスレショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●					○							
	トランスレショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●							○				
	トランスレショナルセミナーⅣ		1	15	●	●	●	●	●											○
	作業療法研究法Ⅰ	1		8			●	●	●											○
作業療法研究法Ⅱ		2	30			●	●	●											○	
作業療法管理学	作業療法管理学	2		15	●	●	●		●											○
作業療法評価学	作業療法評価学	1		8			●					○								
	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	1		15								○								
	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	1		15			●						○							
	精神障害作業療法評価学演習	1		15			●					○								
	高次脳機能障害作業療法評価学演習	1		15			●						○							
作業療法治療学	作業療法理論	2		15			●	●								○				
	身体障害作業療法Ⅰ	2		15			●									○				
	身体障害作業療法Ⅱ	2		15			●										○			
	身体障害作業療法演習	2		30			●		●								○			
	精神障害作業療法	2		15			●									○				
	精神障害作業療法演習	1		15			●		●								○			
	高齢期作業療法	1		8			●									○				
	高齢期作業療法演習	1		15			●		●								○			
	発達障害作業療法	1		8			●									○				
	高次脳機能障害作業療法	1		8			●										○			
	日常生活活動学	2		15			●										○			
	義肢装具学	2		15			●										○			
	福祉レクリエーション論		1	8		●	●													○
先端作業療法		1	8			●	●	●											○	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	2		90h	●	●	●	●	●			○								
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	5		225h	●	●	●	●	●								○			
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	1		45h	●	●	●	●	●								○			
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●											○
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●											○
地域作業療法学	地域生活支援論	1		8	●		●		●			○								
	地域作業療法学	1		8		●	●		●							○				
	職業リハビリテーション論Ⅰ	1		8		●	●		●								○			
	職業リハビリテーション論Ⅱ		1	8		●	●		●											○
	生活環境論	1		8		●	●		●					○						
	福祉住環境論		1	8	●		●		●											○
特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●										○	
	作業療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●											○

卒業要件単位数 129単位以上

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 カリキュラム・ツリー

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅱ(選)
	人文科学系	哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学	生命倫理学			
	社会科学系	法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保険論(選)		教育学概論				
	自然科学系	物理学 生物学 健康スポーツⅠ(選)		統計学入門	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)			
専門基礎科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論 人間発達学 解剖学実習	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ	生理学Ⅱ 運動学実習 生理学実習	機能解剖学実習 臨床運動学			
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 臨床心理学 言語聴覚療法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学		
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		チームアプローチ入門		保健医療福祉連携論	

理学療法学科	理学療法概論	トランスレシジョンナルセミナーⅠ	トランスレシジョンナルセミナーⅡ	トランスレシジョンナルセミナーⅢ	理学療法研究法Ⅰ
基礎理学療法学	トランスレシジョンナルセミナーⅠ				トランスレシジョンナルセミナーⅣ(選) 理学療法研究法Ⅱ(選)
理学療法管理学					理学療法管理学
理学療法評価学		理学療法評価学 基礎理学療法評価学実習	運動器障害理学療法評価学実習	神経障害理学療法評価学実習 理学療法評価学総合実習	
理学療法治療学		物理療法学 日常生活活動学	物理療法学演習 日常生活活動学実習	運動器障害理学療法学演習 神経障害理学療法学 内部障害理学療法学 小児理学療法学 義肢装具学	予防理学療法学 スポーツ理学療法(選)
地域理学療法学				地域理学療法学演習	生活環境論
特別演習				理学療法学総合演習Ⅰ	理学療法学総合演習Ⅱ
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)			臨床実習Ⅱ(評価実習) 地域リハビリテーション実習	臨床実習Ⅲ(総合実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習)

(選) …選択科目

専門科目

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法専攻 カリキュラム・ツリー

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 科 目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)
	人文科学系	哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学	生命倫理学			
	社会科学系	法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保障論(選)		教育学概論				
	自然科学系	物理学 生物学 健康スポーツⅠ(選)		統計学入門 自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)				
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 人間発達学 解剖学実習	生理学Ⅱ 運動学実習 生理学実習	機能解剖学実習 臨床運動学			
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 精神医学演習 臨床心理学 言語聴覚法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学		
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論					保健医療福祉連携論

基礎作業療法学	作業療法学概論 トランスレシヨナルセミナーI	基礎作業学 トランスレシヨナルセミナーI	トランスレシヨナルセミナーII	基礎作業学演習I トランスレシヨナルセミナーIII	作業療法研究法I トランスレシヨナルセミナーIII	基礎作業学演習II(選) トランスレシヨナルセミナーIV(選) 作業療法研究法II(選)
作業療法管理学						作業療法管理学
作業療法評価学			作業療法評価学 身体障害作業療法評価学演習I 身体障害作業療法評価学演習II 精神障害作業療法評価学演習			
作業療法治療学				作業療法理論 身体障害作業療法学I 精神障害作業療法学 高齢期作業療法学 高次認知機能障害作業療法学 発達障害作業療法学 日常生活動作 義肢装具学 身体障害作業療法学演習	身体障害作業療法学II 精神障害作業療法学演習 高齢期作業療法学演習 高次認知機能障害作業療法学	福祉レクリエシヨン論(選) 先端作業療法(選)
地域作業療法学		地域生活支援論	生活環境論	地域作業療法学	職業リハビリテシヨン論I	福祉住環境論(選) 職業リハビリテシヨン論II(選)
特別演習					作業療法学総合演習I	作業療法学総合演習II
臨床実習	臨床実習I(体験実習)	臨床実習II(体験実習)		臨床実習II(評価実習) 臨床実習III(地域実習)	臨床実習IV(総合実習) 臨床実習V(総合実習)	

(選) …選択科目

専門科目

リハビリテーション学部

1 年生

- 年間予定表
- 理学療法学専攻
作業療法学専攻
共通科目シラバス

2026年度 リハビリテーション学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2		
							3	入学式	
	5	6	オリエンテーション	7	オリエンテーション	8	オリエンテーション	9	オリエンテーション
	12	13		14		15	合同交流会	16	
	19	20		21	スポーツ大会	22	ワクチン	23	ワクチン
26	27		28		29		30	1	
5月	3	4		5		6		7	
	10	11		12		13		14	
	17	18		19		20	ワクチン	21	ワクチン
	24	25		26		27		28	
	31	1		2		3		4	
6月	7	8		9		10		11	
	14	15		16		17		18	
	21	22		23		24		25	
	28	29		30		1		2	
7月	5	6		7		8		9	
	12	13		14		15		16	
	19	20		21		22		23	
	26	27		28		29		30	
8月	2	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験
	9	10		11		12		13	
	16	17		18		19	不合格発表	20	
	23	24	再試験	25	再試験	26	再試験	27	再試験
	30	31		1		2		3	
9月	6	7		8		9		10	
	13	14		15		16		17	
	20	21		22		23		24	
	27	28	OT 臨床実習 I	29	OT 臨床実習 I	30	OT 臨床実習 I		

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 リハビリテーション学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土					
10月						1	OT 臨床実習 I	2	OT 臨床実習 I	3			
	4	5	PTOT 臨床実習 I	6	PTOT 臨床実習 I	7	PTOT 臨床実習 I	8	PTOT 臨床実習 I	9	PTOT 臨床実習 I	10	PT 臨床実習 I
	11	12		13		14		15		16		17	
	18	19		20		21		22		23		24	
	25	26		27		28	ワクチン	29	ワクチン	30		31	せいよう祭
11月	1	2		3		4		5		6		7	
	8	9		10		11		12		13		14	
	15	16		17		18		19		20		21	
	22	23		24		25		26		27		28	
	29	30		1	抗体検査	2		3		4		5	
12月	6	7		8		9		10		11		12	
	13	14		15		16		17		18		19	
	20	21		22		23		24		25		26	
	27	28		29		30		31		1		2	
1月	3	4		5		6		7		8		9	
	10	11		12		13		14		15		16	
	17	18		19		20		21		22		23	
	24	25		26		27		28		29		30	
	31	1		2		3		4		5		6	
2月	7	8		9		10		11		12		13	
	14	15	定期試験	16	定期試験	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21	22		23		24	不合格発表	25		26		27	
	28	1	再試験	2	再試験	3	再試験	4	再試験	5	再試験	6	
3月	7	8		9		10		11		12		13	
	14	15		16		17		18		19		20	
	21	22		23		24		25		26		27	
	28	29		30		31							

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa01			
	●								
科目名	日本語表現法				単位認定者	大泉 浩一		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。								
到達目標	◇ 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 ◇ 初対面の相手に対しても、情報や自分の考えを分かりやすく話せるようになること。								
学修者への期待等	国語や作文に自信がない人も、口頭で説明するのが苦手な人もご心配なく。「習うより慣れる」で少しずつ力をつけられるよう授業を進めますので、毎回の課題に全力で取り組んでください。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンスと作文練習				事前学修：高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる		60	0	
2	手順を説明する（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
3	情報を説明する（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
4	経験を報告する（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
5	経験に基づいて考える（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
6	伝える内容を工夫する（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
7	自分の考えをまとめる（書く・話す）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
8	要約する（読む・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
9	コミュニティとコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
10	他者理解とコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
11	想像力とコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
12	現代社会とコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
13	自分の未来とコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
14	表現・表記とコミュニケーション（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
15	まとめの課題（考える・書く）				事前学修：前回の授業内容の確認／事後学修：返却された作文を読み直し、書き直して音読する		30	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（作文実技、自己採点練習、発表練習）								
教科書	特に指定しない。資料を配付する。								
参考文献	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』（2018年／講談社現代新書）								
備考	1学年を2クラスに分けて実施します。作文実技として毎回作文を書いていただき、チェックして次回に返却します。事後学修として毎回自己採点練習、発表練習をしてください。遅刻・私語等には厳しく対応し、出席不良の場合は評価対象外とします。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で接する様々な話題を通じ英語表現を学び、実際に使えるようになる。 ・大学生として、身近な事柄が英語で表現できるようになる。 									
学修者への期待等	授業の事前に新出語彙を確認しておくこと。また、授業内で行うペアワークには積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	Introduction : 予習と復習、授業の進め方について				【事前学修】 シラバスを読む。 【事後学修】 次回授業の語彙を確認する。		30	30		
2	MODULE 1 : Introductions Unit 1				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
3	MODULE 1 : Introductions Unit 2 ペアワーク				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
4	MODULE 2 : Fashion Unit 1				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
5	MODULE 2 : Fashion Unit 2 ペアワーク				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
6	MODULE 3 : Food Unit 1				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
7	MODULE 3 : Food Unit 2 ペアワーク				【事前学修】 音声ダウンロードし発音を確認する。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
8	Review MODULE 1-3				【事前学修】 これまでの授業を振り返り、疑問点を把握しておく。 【事後学修】 語彙や表現を復習する。		30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり : キーワード (ペアワーク)									
教科書	Thompson, C., & Woolstencroft, T. (2024). <i>Framework English A (CEFR A1-A2)</i> 「CEFRの評価基準で学ぶ4技能 A (CEFR A1-A2)」 KINSEIDO (ISBN 978-4-7647-4200-0)									
参考文献	授業内、またはUNIPAで随時配布する。									
備考	PT・OT合同授業/毎回の授業で疑問点などをUNIPAに提出する。次回授業にフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa03				
	●									
科目名	英語 II			単位 認定者	高橋 未希		評価の方法	試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数		1 単位	授業内課題等	10 %
	O T	必修	1年		授業形態	演習		授業時間数	30 時間	受講態度
								授業回数	15 回	
授業の概要	<p>グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。</p> <p>英語 II では、英語 I で学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。</p>									
到達目標	医療系を専攻する学生として Medical English を通して英語の基礎力を培いながら、4 技能の内、特にコミュニケーション力の向上を可能にする。									
学修者への期待等	演習形式で相当量の問題をこなしていくので、しっかり予習をして授業に臨むこと。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	Unit 1. May I Help You? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
2	Unit 2. Where Do You Live? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
3	Unit 3. Do You Have an Insurance Card? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
4	Unit 4. What Department Do You Want to Visit? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
5	Unit 5. What Are Your Symptoms? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
6	Unit 6. Take One Tablet Three Times a Day Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
7	Unit 7. You're Suffering from Hay Fever Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
8	Unit 8. What Kind of Pain Is It? Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
9	Unit 9. Let's Check Your Daily Activities Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
10	Unit 10. Let's Check Your Pulse and Blood Pressure Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
11	Unit 11. It's Going to Be a Long Day! Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
12	Unit 12. You Have High Blood Sugar Levels Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
13	Unit 13. You Need to Control Your Diet Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
14	Unit 14. You Need to Be Hospitalized Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
15	Unit 15. Keep on Walking for Exercise Key Words / Conversation / More Expressions / Writing Challenge / Reading			事前学修：すべてのExerciseを事前にやっておくこと 事後学修：Reading の内容を再度確認し、Further Study を完成すること			60	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（各ユニットのConversationについては、ペアワークを用いる。）									
教科書	Check-Up! - Basic English for Nursing (基礎から学ぶやさしい看護英語) 金星堂 ISBN978-4-7647-4184-3C1082									
参考文献	授業内で指示									
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施する。授業内課題（小テスト）については採点して返却する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa05				
	●									
科目名	情報処理 I				単位認定者	杉崎 新一		授業内課題等	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。</p> <p>情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活に必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。</p>									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。</p> <p>◆Word: 書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。</p> <p>◆Excel: 書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。</p> <p>◆PowerPoint: プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。</p> <p>操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。</p> <p>操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。</p>									
回	授業計画				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作				<p>【事前学修】</p> <p>マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【事後学修】</p> <p>Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>		0	30		
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定						30	30		
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定						30	30		
4	Word:書式設定						30	30		
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成						30	30		
6	Word:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)						30	30		
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式						30	30		
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定						30	30		
9	Excel:グラフ作成						30	30		
10	Excel:基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)						30	30		
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数						30	30		
12	Excel:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)						30	30		
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入						30	30		
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施						30	30		
15	PowerPoint:課題作成(これまでに学んだ内容を活用)						30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード(練習、実技、課題作成等、その他の演習)									
教科書	「30時間アカデミック Office2024 Windows11対応」杉本くみ子, 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	<p>すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。</p> <p>課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。</p> <p>授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。</p> <p>1学年を2クラスに分けて実施する。</p>									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa06						
	●											
科目名	情報処理Ⅱ				単位 認定者	氏家 留美子		評価の 方法	試験(筆記)	40	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		課題	40	%	
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		受講態度	20	%	
				授業形態	演習	授業回数	15 回					
授業の概要	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。											
到達目標	①Excelを用いて、データベースの構造を深く理解する。関数やピボットテーブルを使いデータの集計と分析が行える。用途に合わせた適切なグラフを選択し、データを効果的に視覚的に表現できるようになる。 ②PowerPointを用いて、箇条書きでの表現を通じて言葉を簡潔にまとめ、情報を的確に伝える技術を身につける。図解表現を活用し、聞き手に対して情報を魅力的かつ理解しやすく伝えることができる。 ③グループワークを通じて、役割分担・意見調整・共同編集のスキルを身につける。 ④他者のプレゼンテーションを、構成・視覚表現・話し方の観点から適切に評価ができ改善点を具体的に指摘できる。他者から学び、自分のプレゼンテーションを振り返り改善する力を身につける。											
学修者への期待等	Excelとプレゼンテーションの知識を積極的に吸収し、情報の高度な活用能力を修得することを期待する。データの分析と表現において独自の洞察を發展させ、これらスキルを将来的に実践的な場面で応用できるよう自己成長に努めていただきたい。受講者間での相談やアドバイス等、お互いのスキルアップのための協力を大切にして、知識・技能の向上に意欲的に臨んでいただきたい。授業はパソコンが必須となる。必ず持参すること。パソコンは事前に充電・Windowsの更新を済ませておくこと。(授業中に充電や更新を行わない。) なお、授業1回目からはExcelの教科書(教科書①)を持参すること。プレゼンテーションの教科書(教科書②)は授業後半の回から使用するため、1回目の授業から持参する必要はない。											
回	授業計画・学修の主題					準備学修					事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1	使用データのコピー方法、UNIPAへのアップロード等基本事項の確認 Excel: 基本操作の復習					事前学修: 情報処理Ⅰで学んだExcelの表・数式作成(四則演算・SUMやAVERAGE関数など)を振り返り授業へ臨む 事後学修: 授業で指示したデータを完成させる					30	30
2	Excel: 数値を視覚化する(グラフ・スパークライン)					事前学修: 教科書①の第3章(104~117ページ)の操作手順を確認しておく 事後学修: 作成したグラフを再度作成できるように練習する					30	30
3	Excel: ルールに基づいた書式や規則を設定する(条件付き書式・入力規則)					事前学修: 教科書①の第2章で出てくる操作手順を確認しておく 事後学修: 操作した内容をスムーズにできるまで練習する					30	30
4	Excel: 関数を活用する(統計関数)					事前学修: 教科書①の第1章(21~32ページ)の関数の構造を確認しておく 事後学修: 授業で使った関数ができるように練習する					30	30
5	Excel: 関数を活用する(検索関数・日付関数)					事前学修: 教科書①の第1章(35~42ページ)の関数の構造を確認しておく 事後学修: 授業で使った関数ができるように練習する					30	30
6	Excel: データベースの集計と分析をする(ピボットテーブル)					事前学修: 教科書①の第5章の操作手順を確認しておく 事後学修: ピボットテーブルを使ってデータ集計ができるように練習する					30	30
7	Excel: データベースの活用・データの管理と整理をする(ピボットテーブルと関数のまとめ)					事前学修: 教科書①の第1章と第5章で操作した内容を復習しておく 事後学修: ピボットテーブルでの集計や関数の作成がスムーズにできるように練習する					30	30
8	PowerPoint: 訴求力の高い資料作成(書式の工夫・箇条書きによる表現・表の効果的な使い方・データに合うグラフの利用・図解で示す方法・色による表現方法)					事前学修: 教科書②の第4章を読んでおく 事後学修: 授業内で指示するデータを完成させる					30	30
9	プレゼンテーション(グループワーク): 目的の明確化・聞き手の分析・必要な情報を集めてまとめる・グループ内での役割分担					事前学修: 教科書②の第1・2章を読んでおく 事後学修: グループで決めたテーマの情報を収集する					30	30
10	プレゼンテーション(グループワーク): ストーリー構成・本論の組み立て・設計シート作成					事前学修: 教科書②の第3章を読んでおく 事後学修: プレゼンテーション資料をグループ内で分担して準備する					30	60
11	プレゼンテーション(グループワーク): 構成シート作成・発表資料や発表原稿作成					事前学修: 教科書②の第2~4章を再確認しておく 事後学修: プレゼンテーション資料をグループ内で分担して準備する					30	60
12	プレゼンテーション(グループワーク): 伝える技術・聞き手を引きつける話し方					事前学修: 教科書②の第5章を読んでおく 事後学修: プレゼンテーションの発表準備をする					30	60
13	プレゼンテーション(グループワーク): 発表①(前半)・評価シート作成					事前学修: 教科書②の第5章をもとに発表のリハーサルをしておく 事後学修: 他グループの発表についての評価シートを完成させて提出の準備を進める					30	30
14	プレゼンテーション(グループワーク): 発表②(後半)・評価シート作成					事前学修: 教科書②の第5章をもとに発表のリハーサルをしておく 事後学修: 他グループの発表についての評価シートを完成させて提出の準備を進める					30	30
15	プレゼンテーション(グループワーク): 他者からの評価をもとに改善点まとめ・振り返りシート作成					事前学修: 発表時の感想・反省点をまとめておく 事後学修: グループワーク・プレゼン実施を終えて、今後どう活かしていくかを考える					30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり: キーワード(グループワーク、プレゼンテーション、発表)											
教科書	①『よくわかる Microsoft Excel 2024 応用 Office 2024/Microsoft 365対応』富士通ラーニングメディア著、FOM出版 ②『よくわかる 改訂2版 自信がつくプレゼンテーション』富士通ラーニングメディア著、FOM出版											
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。											
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 「試験」は、Excelの操作やプレゼンテーションの知識についての筆記試験を行う。 「課題」は内容を確認し、今後の授業でフィードバックを行う。											
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)												

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb01				
	●			●						
科目名	哲学				単位認定者	池田 準		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	24 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	16 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。</p>									
到達目標	<p>1. 哲学の基本的な考え方を説明できる。 2. 哲学の基本的な考え方をを用いて日常生活に潜む哲学的な問題について、自己の考えを深める。</p>									
学修者への期待等	各回の授業に設定された「問い」に対する自分自身の考えをあらかじめメモしておき、あとで授業で学んだ哲学的な考え方と比較できるようにしておきましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	医療と哲学：何のために哲学を学ぶのか				事前学修：医療技術だけでは解決できない医療現場の問題を挙げてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
2	自我と身体：デカルトの心身二元論とメルロ・ポンティの身体論、病者・障がい者にとっての心と体				事前学修：身体の中の部位が「自分らしさ」に不可欠なのかを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
3	自我と心：カントの自我論とヘーゲルの相互承認論、記憶と自己意識、「認知症患者の自我」に関するPBL				事前学修：記憶がなくなったら「自分」は消えてしまうのか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
4	自我と他者：フッサールの間主観性とレヴィナスの他者論、ケアにおける応答関係				事前学修：患者を人間として尊重するとはどういうことか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
5	他者理解と共感：ヒュームの懐疑主義とモラル・センス学派の共感概念、「患者への共感」に関するPBL				事前学修：他人の考えや感情を本当に理解できるのか、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
6	社会と幸福：古代ギリシアのエウダイモニズムと近代の功利主義、QOLの基盤としての幸福観				事前学修：自分にとっての幸福とは何か、を考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
7	社会と自由：運命論、因果的決定論、自由意志論と責任概念、「難病患者の自由」に関するPBL				事前学修：病者・障がい者を例に自由とは何かを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
8	死と実存：ハイデガーの存在論、死の実存的意味とよく生きること(well-being)				事前学修：生きる意味・死の意味とは何かを考えてみましょう。 事後学修：配布資料の「考えるポイント」について自分の意見をまとめましょう。		60	60		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（PBL（課題解決型学修））									
教科書	教科書は特に使用しません。授業で毎回、資料を配付します。									
参考文献	各回の授業でテーマに関連する文献を紹介します。									
備考	PT・OT合同授業 授業内課題については次の授業回で回答の一部を取りあげて論評し、フィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)			
1	心理学とは(心理学と自然科学)	事前学修：資料を読んで、心を科学的に扱うための工夫について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
2	感覚・知覚・認知	事前学修：資料を読んで、感覚・知覚・認知について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
3	学習・記憶	事前学修：資料を読んで、随伴性学習、短期記憶と長期記憶の特徴について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
4	感情	事前学修：資料を読んで、基本的感情、表情について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
5	動機・欲求	事前学修：資料を読んで、内発的動機づけ、適応機制について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
6	性格	事前学修：資料を読んで、類型論と特性論について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
7	社会・集団	事前学修：資料を読んで、集団の種類、集団規範、リーダーシップについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
8	心理学の対象となる日常生活上の問題	事前学修：資料を読んで、ルッキズムと容貌についてのステレオタイプについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。				30	30			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(ペアディスカッション)									
教科書	特に指定しない。資料は事前にUNIPA上にアップします。									
参考文献	『新心理学ライブラリ1 心理学への招待 改訂版』サイエンス社									
備考	PT・OT合同授業 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb05				
	●									
科目名	宗教と民族				単位認定者	徳田 幸雄		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心を持ち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	古代イスラエルの宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
4	イスラーム：「服従する」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
6	仏教：「悟る」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
7	日本仏教（13宗）				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
8	神道：「清める」宗教				事前学修：ネット検索し、予備知識を得る 事後学修：チェックテストの復習			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位 認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者(対象者)によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1: 医療業務における人間関係の機能について説明できる。 2: 対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3: 医療職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	臨床における人間関係				事前学修: 資料を読んで、人間関係のとらえかたについて学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
2	対人認知①(対人印象の形成)				事前学修: 資料を読んで、対人印象の形成について学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
3	対人認知②(対人魅力にかかわる要因)				事前学修: 資料を読んで、対人魅力について学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
4	交流分析の理解				事前学修: 資料を読んで、自我状態について学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション				事前学修: 資料を読んで、ミスコミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
6	非言語コミュニケーションの理解				事前学修: 資料を読んで、非言語コミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
7	コミュニケーションのスキル①(話を聴くスキル)				事前学修: 資料を読んで、傾聴について学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
8	コミュニケーションのスキル②(アサーティブ・コミュニケーション)				事前学修: 資料を読んで、アサーティブコミュニケーションについて学修しておくこと。 事後学修: レスポンスシートを提出すること。		30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード(ペアディスカッション)									
教科書	特に指定しない。資料は事前にUNIPA上にアップします。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学: 看護場面の人間関係のすべて』 北大路書房									
備考	PT・OT合同授業 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc01				
	●									
科目名	法学入門				単位認定者	鈴木 一樹		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活上で必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	法律の意義と学ぶ意味		事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				0	30		
2	憲法（1）基本的人権		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
3	憲法（2）統治機構		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
4	民法（1）総則、物権		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
5	民法（2）債権		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
6	民法（3）親族・相続		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
7	刑法（1）総論		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
8	刑法（2）各論		事前学修：前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと 事後学修：レジュメの内容を復習し、要点をまとめて提出してください。				30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	特に指定しない。									
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進捗に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として企業等の会計監査、税理士として税務業務、不動産鑑定士として鑑定評価業務に従事

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc02				
	●									
科目名	日本国憲法				単位認定者	山口 はるか		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	選択	1年		授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。									
到達目標	憲法の基本的な用語や概念を正しく理解し、説明できる。修得した知識をもとに憲法と医療・福祉が交錯する問題について自分で考え、意見を述べるができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に取り組むこと。日頃から積極的に新聞やニュースに目を通すのが好ましい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	授業ガイダンスと導入—法律の種類と憲法の位置づけ—				事前学修：中学校や高校で学習した憲法の知識、及び、三権分立について復習すること。 事後学修：講義内容をレジメをもとに復習すること。			60	30	
2	憲法の役割と構造				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	30	
3	基本的人権				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	60	
4	幸福追求権・生存権				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	60	
5	精神的自由・経済的自由				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	60	
6	医療訴訟の事例検討—ディスカッションをふまえて事例について検討・解説を行う				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	60	
7	憲法改正と平和主義				事前学修：とくにありません 事後学修：前回の講義内容をレジメをもとに復習すること。			0	60	
8	立法権・行政権・司法権				事前学修：とくにありません 事後学修：これまで学習した内容を総復習すること。			0	90	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ディスカッション、討論）									
教科書	特に指定しない。毎回、教員が用意したレジメを使用する。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc03				
	●									
科目名	経済と政策				単位認定者	高橋 真		試験(レポート)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。</p>									
到達目標	<p>経済学の基礎概念をきちんと理解し、そのうえで一国全体の経済を理解するために必要なマクロ経済学の考え方をケインズ理論を中心に学ぶ。また、政府の経済政策、特に、財政政策、金融政策、制度改革(変更)についてその基礎的な知識を得ることで現実の経済状況を分析して経済問題への解決策を自分で提案できること。</p>									
学修者への期待等	<p>ふだんの生活の中で政治や経済についてのニュースや出来事に興味を持ち、つねに「なぜ?」という疑問とその疑問についての自分なりの回答を導き出せること。その回答が正しいか誤っているのかを授業で得た知識を通して自分自身で評価できること。</p>									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	経済学の考え方とマクロ経済学の概念				事前学修:「経済とは何か」また「経済学とはどのような学問か」を調べる。 事後学修:「経済」の意味と「経済学」の学問的内容を理解し、確認する。		30	30		
2	市場経済と経済政策の関係				事前学修:「市場経済」と呼ばれる国は、どのような国が含まれるかを調べる。 事後学修:「市場経済」がうまく機能しない場合に経済政策が関わってくることを理解し、確認する。		30	30		
3	ケインズの国民所得決定の理論				事前学修:経済学の歴史の中で、「ケインズ」がどのような位置づけにあるのかを調べる。 事後学修:「ケインズの有効需要」の概念を理解し、確認する。		30	30		
4	インフレ・ギャップと財政・金融政策の対応				事前学修:「インフレーション」とはどのような現象かを調べる。 事後学修:「インフレ・ギャップ」の意味とその対策を理解し、確認する。		30	30		
5	デフレ・ギャップと財政・金融政策の対応				事前学修:「デフレーション」とはどのような現象かを調べる。 事後学修:「デフレ・ギャップ」の意味と対策を理解し、確認する。		30	30		
6	制度改革(規制改革・制度変更)と日本経済				事前学修:「規制緩和や民営化」と何かについて調べる。 事後学修:「規制緩和や民営化」が市場経済化であることを理解し、確認する。		30	30		
7	国際経済と日本経済との関係性				事前学修:日本の「貿易依存度」について調べる。 事後学修:国際経済と日本経済の関係を理解し、日本だけでは経済が成立しないことを確認する。		30	30		
8	日本経済の現状とその課題				事前学修:日本の「経済成長率」や「物価動向」について調べる。 事後学修:日本経済の現状を理解し、将来の日本経済の方向性を自分で展望する。		30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード()									
教科書	高橋 真『経済学を歩く』税務経理協会									
参考文献	ジョセフ・スティグリッツ/ カール・ウォルシュ 『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済新報社									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
<p>担当教員は、宮城県公立高校教員として11年「地理歴史科」「公民科」科目を担当し、また岩手大学と尚絅学院大学の教職課程担当者として20年「社会科教育法」を担当してきた。その経験に基づき、大学における経済学教育の実践的な教育指導法についての経験を有している。担当教員は学生の理解を高める授業を行います。</p> <p>【免許・資格】中学校教諭一種・高等学校専修教員免許、大学設置審・教職課程設置担当科目合格教員</p>

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc05				
	●			●						
科目名	社会学				単位認定者	小野寺 修		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) 等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か。社会の変化や人々の生活を社会的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	社会は日々動いています。この授業を通して、みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめるきっかけにしてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	社会とは何か (基礎理論・用語)				事前学修：なし 事後学修：講義内容の復習			0	60	
2	多文化共生① (多民族国家日本の姿)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
3	多文化共生② (戦後日本の外国人政策)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
4	多文化共生③ (多文化社会の課題について考える) ～グループワーク～				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
5	ジェンダー① (男らしさ・女らしさ)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
6	ジェンダー② (多様な性のあり方)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
7	現代日本のすがた① (都市部と地方部)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
8	現代日本のすがた② (防災大国日本)				事前学修：前回提示したキーワードの下調べ 事後学修：講義内容の復習			30	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (グループワーク)									
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学 第3版』宇都宮京子・西澤晃彦編著、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫・栗田真樹編著、光洋書房 『社会学』奥井智之、東京大学出版会									
備考	PT・OT合同授業 ・受講者の理解度および授業の進度によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は授業内またはUNIPAにて個別もしくは全体にフィードバックします。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc06			
●				●					
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		試験(筆記)	70 %
対象学科必修・選択配当年次	P T	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題(小テスト等)	15 %
	O T	選択	1年			授業時間数	15 時間	授業後課題	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	<p>社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。</p>								
到達目標	<p>社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と社会保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。</p>								
学修者への期待等	<p>社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連生を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 私たちが社会保障とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かせることを期待する。</p>								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について				事前学修	シラバス〔授業概要、到達目標、学習者への期待等〕を確認して授業に臨む	30	30	
					事後学修	本時のレジュメを読み込む。当該単元の図表やデータを読む課題を完成させる			
2	社会保障制度1【健康と公衆衛生】 1.健康とは、2.公衆衛生とは、3.健康日本21 4.公衆衛生に関係する行政組織〔医療を取り巻く環境〕 1.国民の受療状況、2.社会保険給付費、3.平均在院日数				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
3	〔医療供給体制〕 医療法、医療圏、医療計画、病床の種類、保険医療機関(病院・診療所)、病院機能の分類、医療従事者				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
4	社会保障制度2【社会保険】 1.社会保険とは、2.公保険と私保険、(1)医療保険制度、医療給付、現金給付 本時の単元に関する医療系国試問題傾向				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
5	(2)労災保険制度、(3)雇用保険制度、(4)年金保険制度、(5)介護保険制度 社会保障制度3【老人保健】 高齢者保健医療(後期高齢者保健医療制度) 本時の単元に関する医療系国試問題傾向				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
6	社会保障制度4【社会福祉】 (1)児童福祉、(2)母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する医療系国試問題傾向				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
7	(3)障害者福祉、(4)高齢者福祉、〔地域包括ケアシステム〕ケアシステムのしくみ 本時の単元に関する医療系国試問題傾向				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
8	社会保障制度5【公的扶助】 1.貧困とは、2.生活保護法の実施体制、3.生活保護の種類と内容、4.生活保護の原理原則 本時の単元に関する医療系国試問題傾向				事前学修	資料を復習し授業に臨む	30	30	
					事後学修	図表やデータを読む課題を完成させる			
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書									
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。								
備考	テキストは使用しない。毎時 授業資料を配付する。 授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 小テストは適宜行う。小テストの解答・解説はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。								
※以下は該当者のみ記載する。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)									

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
	●		●	●	

科目ナンバリング
ReLd01

科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	OT	必修	1年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。									
到達目標	日常の生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。									
学修者への期待等	教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。また、授業後はよく復習して理解を深めてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	「力のつり合い」力のはたらき・つり合い				事前学修：第1章力のつり合いp.2～7を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
2	「力のつり合い」剛体にはたらく力				事前学修：とくにありません 事後学修：授業後に復習し理解を深める。			0	60	
3	運動の表し方と運動の法則				事前学修：第2章p.10～13、第3章p.18～23を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
4	圧力				事前学修：とくにありません 事後学修：別途資料を配布する。復習をして理解を深めること。			0	60	
5	熱とエネルギー				事前学修：第7章熱とエネルギーp.50～55を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
6	波の性質 音と光				事前学修：第10章音p.78～83、第11章音p.87～89を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
7	電磁気				事前学修：第12章音p.94～97を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
8	原子と放射線				事前学修：第15章音p.118～123を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			60	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著 共立出版									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を構成する細胞の構造と働きについて、特に生体膜・核・ミトコンドリアについて説明できるようになる。 ・タンパク質、核酸、糖類の構造を説明できるようになる。 ・生体の環境刺激応答に関わる神経伝達系及び免疫の仕組みを概説することが出来るようになる。 ・遺伝子発現の仕組みを説明できるようになる。 									
学修者への期待等	事前に配布した講義資料を必ず予習してください。講義中に要点をノートに記入しながら受講し、不明な点は、質問として配付する用紙に記入してください。質問に対しては、次の講義で回答します。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)			
1	生物とは？(自然分類・原核生物・真核生物)		事前学修：とくにありません 事後学修：配布資料(生物とは?)を復習する。			0	30			
2	細胞の構造と分裂(細胞小器官・体細胞分裂・減数分裂)		事前学修：前回配布した資料(細胞の構造と分裂)を予習する。 事後学修：資料(細胞の構造と分裂)を復習する。			30	30			
3	タンパク質の構造と機能(ペプチド結合・酵素・生体膜・能動輸送・受動輸送)		事前学修：前回配布した資料(タンパク質の構造と機能)を予習する。 事後学修：資料(タンパク質の構造と機能)を復習する。			30	30			
4	生体エネルギーと代謝(呼吸・糖・解糖系・クエン酸回路・化学浸透圧説)		事前学修：前回配布した資料(生体エネルギーと代謝)を予習する。 事後学修：資料(生体エネルギーと代謝)を復習する。			30	30			
5	神経伝達系(環境刺激・神経細胞・活動電位・神経伝達物質)		事前学修：前回配布した資料(神経伝達系)を予習する。 事後学修：資料(神経伝達系)を復習する。			30	30			
6	免疫及び細胞分化(自然免疫・適応免疫・抗体・幹細胞)		事前学修：前回配布した資料(免疫及び細胞分化)を予習する。 事後学修：資料(免疫及び細胞分化)を復習する。			30	30			
7	遺伝(メンデル遺伝・対立遺伝子・DNA・RNA)		事前学修：前回配布した資料(遺伝)を予習する。 事後学修：資料(遺伝)を復習する。			30	30			
8	遺伝情報の発現(DNAの複製・ゲノム・遺伝情報の中心教義・遺伝暗号表)		事前学修：前回配布した資料(遺伝情報の発現)を予習する。 事後学修：資料(遺伝情報の発現)を復習する。			30	30			
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	なし									
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料』長野敬他監、実教出版									
備考	授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期日内に提出して下さい。これとは別に、毎回講義の最後に課題(小テスト)を出します。その解答及び質問等は、毎回配布する用紙に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問等のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。 PT・OT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd05				
	●									
科目名	健康スポーツ I				単位認定者	菅原 一昭		試験 (筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	OT	選択	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動 (スポーツ) を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツ I では、健康を維持するために必要な食生活と運動 (スポーツ) の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	日頃から体調管理に努め、欠席・遅刻のないよう万全の態勢で授業に臨むことを期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	生活習慣病と健康 I (生活習慣病・健康寿命・食事)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
2	生活習慣病と健康 II (運動・喫煙・飲酒)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
3	スポーツの概念と歴史				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
4	文化としてのスポーツ				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
5	体力の概念 (行動体力・防衛体力)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
6	トレーニングの進め方 (トレーニングの原理・原則種類)				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
7	文部科学省 (スポーツ庁) 施策 主なスポーツ関係府省庁及び施策				事前学修：本時内容の予習 事後学修：本時プリント内容の復習			30	30	
8	総括、試験対策				事前学修：全プリントのまとめ 事後学修：全プリントの復習			30	90	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	授業時に資料を配布する。									
参考文献	特に指定しない。									
備考	第8回は第1回～第7回までの資料を持参すること。 PT・OT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスターズ陸上競技連盟理事長。JAAF公認ジュニアコーチ資格。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa01				
	●		●							
科目名	解剖学 I				単位 認定者	大和田 宏美		試験（筆記）	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題（小テスト）	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本科目では、人体の構造と機能に係る基礎知識となる運動器系の骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経を中心に学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格系・筋系の役割を説明できるようになる。 2. 骨格系では、骨の名称について説明できるようになる。 3. 筋系では、筋の名称・筋の起始・停止、筋の作用を説明できるようになる。 4. 末梢神経系では、各神経支配を理解し、どの筋がどの末梢神経によって支配されているかを説明できるようになる。 									
学修者への期待等	解剖学を学ぶことは、自分の体を知ることにつながります。骨格系・筋系・神経系を学び、基本的な基礎医学の知識を身につけてください。事前にUNIPAに講義資料を掲載しますので、予習として必ず講義資料を確認してください。									
回	授業計画・学修の主題	準備学修					事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	解剖学概論	事前学修：教科書①標準解剖学を開き目次を読んで、解剖学の全体像を把握してください。 事後学修：教科書①の第1章解剖学総論（P1～7、15～18）を読んでまとめておくこと。					30	30		
2	骨学 1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P232～234）、教科書②のC上肢（P250～255）を読んで理解しておくこと。					30	30		
3	骨学 2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P235～237）、教科書②のC上肢（P256～263）を読んで理解しておくこと。					30	30		
4	骨学 3：上肢骨③手部	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P237～238）、教科書②のC上肢（P264～269）を読んで理解しておくこと。					30	30		
5	骨学 4：胸部・脊柱（頭部）	事前学修：教科書①第5章背部（P203～205）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第5章背部P206～211、教科書②のB体幹P108～117を読んで理解しておくこと。					30	30		
6	骨学 5：脊柱（胸部・腰部）	事前学修：教科書①第2章胸部（P49～51）、第5章背部（P203～206）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第2章胸部（P52～58）、第5章背部（P211～214）、教科書②のB体幹（P118～123）を読んで理解しておくこと。					30	30		
7	骨学 6：下肢骨①骨盤、大腿骨	事前学修：教科書①第4章骨盤部（P155～157）、第7章下肢（P305～307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第4章骨盤部（P158～162）、第7章下肢（P308～314）、教科書②のD下肢（P420～431）を読んで理解しておくこと。					30	30		
8	骨学 7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部	事前学修：教科書①第7章下肢（P305～307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P308～314）、教科書②のD下肢（P432～439）を読んで理解しておくこと。					30	30		
9	筋学総論	事前学修：教科書①第1章解剖学総論（P21～27）を読んでおくこと。 事後学修：教科書②のA解剖学総論（P56～67）を読んでまとめておくこと。					30	30		
10	筋学 1：上肢の筋①上肢帯の筋	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P239～245）、教科書②のC上肢（P310～323）を読んで理解しておくこと。					30	30		
11	筋学 2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P246～269）、教科書②のC上肢（P324～337）を読んで理解しておくこと。					30	30		
12	筋学 3：体幹の筋	事前学修：教科書①第2章胸部（P49～51）、第3章腹部（P99～101）、第5章背部（P203～205）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第2章胸部の筋（P58～62）、第3章腹部の筋（P102～107）、第5章背部の筋（P219～225）、教科書②のB体幹（P152～187）を読んで理解しておくこと。					30	30		
13	筋学 4：下肢の筋①骨盤帯の筋	事前学修：教科書①第4章骨盤部（P155～157）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P314～314）、教科書②のD下肢（P492～497）を読んで理解しておくこと。					30	30		
14	筋学 5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋	事前学修：教科書①第7章下肢（P305～307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P319～334）、教科書②のD下肢（P498～513）を読んで理解しておくこと。					30	30		
15	頭蓋骨、中枢神経	事前学修：教科書①第8章頭部（P371～373）、第10章中枢神経（P503～505）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①第8章頭部（P374～385）、第10章中枢神経（P506～515）を読んでおくこと。					30	30		
アクティブ・ラーニング	□該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（能動的な学修課題として、骨と筋について系統立てて学修できるようマインドマップを作成する。）									
教科書	教科書①『標準解剖学』坂井建雄、第1版、医学書院、ISBN978-4-260-02473-0 教科書②『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』坂井建雄、松村譲児、第4版、医学書院、ISBN978-4-260-05630-4									
参考文献	デジタルアプリ「Visible Body Sute」 https://www.visiblebody.com/ja/ 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』									
備考	PT・OT合同授業 小テスト（骨学テスト）を実施後、後日、全体に向けてフィードバックを実施します。また、骨と筋のマインドマップ作成についてその課題の成果を確認します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が解剖学について理解を深め、理学療法学・作業療法学を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa02			
	●		●						
科目名	解剖学Ⅱ				単位認定者	山本 由似		試験(筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		
	O T	必修	1年		講義	授業時間数	30 時間		
					授業形態		授業回数	15 回	
授業の概要	本科目では、特に生命維持に必須の機能である植物性機能と、感覚と神経機能及び運動に関連する動物性機能について学ぶ。植物性機能では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の位置関係や構造について学修する。動物性機能では、中枢神経系、末梢神経系及び各種感覚器系について学修する。								
到達目標	1. 人体を構成する器官系の名称をあげて説明できる。 2. 各器官系を構成する器官の名称をあげて説明できる。 3. 各器官系を構成する器官の組織学的な特徴をあげて説明できる。 4. 各器官系とその主な機能を関連付けて説明できる。								
学修者への期待等	授業は教科書とレジュメをもとに行ないます。授業を行った日と次回の授業の前日に、教科書・レジュメを参考にしながら復習すること。わからないところ、疑問に思ったところがあれば積極的に質問して、暗記ではなく理解を深めて下さい。								
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	解剖学総論			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P4～6)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P4～6)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
2	細胞とは			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P6～9)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P6～9)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
3	組織とは			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P12～14)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P12～14)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
4	循環器系-1 (循環器系の構成)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P74～89)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P74～89)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
5	循環器系-2 (心臓の構造)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P89～97)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P89～97)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
6	消化器系-1 (口・咽頭・食道の構造と機能)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P100～110)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P100～110)」とレジュメ			30	90	
7	消化器系-2 (腹部消化管の構造と機能)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P111～131)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P111～131)」とレジュメ			30	90	
8	消化器系-3 (膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P132～154)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P132～154)」とレジュメ			30	90	
9	呼吸器系			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P50～74)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P50～74)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
10	泌尿器系			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P167～171)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P167～171)」とレジュメ			30	90	
11	生殖器系と発生-1 (男性生殖器の構造と機能)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P173～177)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P173～177)」とレジュメ			30	90	
12	生殖器系と発生-2 (女性生殖器の構造と機能)			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P178～194)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P178～194)」とレジュメ			30	90	
13	内分泌系			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P46～47)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P46～47)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
14	神経系			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P28～33)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P28～33)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
15	感覚器系			事前学修：教科書「解剖学の基礎 (P34～39)」を一読する。 事後学修：教科書「解剖学の基礎 (P34～39)」とレジュメにて授業内容を復習する。			30	90	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()								
教科書	『標準解剖学』 医学書院								
参考文献	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』 医学書院 『入門人体解剖学』 藤田恒夫著、第5版 南江堂 『解剖学講義』 第3版 南山堂 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論』 医学書院 『グレイ解剖学 原著第3版』 塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER								
備考	PT・OT合同授業								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa03	
●			●				
科目名	解剖学演習				単位 認定者	大和田宏美	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間
				授業形態	演習	授業回数	15 回
授業の概要	本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨及び筋の名称を実際の骨模型及び筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるようになるよう学修する。						
到達目標	1. 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、骨模型および筋模型を通してをイメージできるようになる。 2. 骨格系・筋系・末梢神経系の位置関係を学修し、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。						
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を 出題しあい復習を行ってください。理学療法及び作業療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。 課題の成果物作成用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）かカラーペンを準備してください。						
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	骨模型：骨の位置関係、連結	事前学修：骨格について調べておくこと。 事後学修：骨模型に触れ、骨の形状について復習する。			30	60	大和田 宏美
2	骨学演習1：上肢骨①鎖骨、肩 甲骨	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P232～234）、教科書②のC上肢 （P250～255）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
3	骨学演習2：上肢骨②上腕骨、 尺骨、橈骨	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P235～237）、教科書②のC上肢 （P256～263）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
4	骨学演習3：上肢骨③手部	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P237～238）、教科書②のC上肢 （P264～269）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
5	骨学演習4：胸郭・脊柱（頸 部）	事前学修：教科書①第5章背部（P203～205）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第5章背部P206～211、教科書②のB体幹P108～ 117を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美
6	骨学演習5：脊柱（胸部・腰 部）	事前学修：教科書①第2章胸部（P49～51）、第5章背部（P203～206） を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第2章胸部（P52～58）、第5章背部（P211～ 214）、教科書②のB体幹（P118～123）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美
7	骨学演習6：下肢骨①骨盤、大 腿骨	事前学修：教科書①第4章骨盤部（P155～157）、第7章下肢（P305～ 307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第4章骨盤部（P158～162）、第7章下肢（P308 ～314）、教科書②のD下肢（P420～431）を読んで理解しておくこ と。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
8	骨学演習7：下肢骨②脛骨、腓 骨、足部	事前学修：教科書①第7章下肢（P305～307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P308～314）、教科書②のD下肢 （P432～439）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
9	筋模型：筋の位置関係、浅層筋 および深層筋の位置関係	事前学修：筋について調べておくこと。 事後学修：筋模型に触れ、筋の形状について復習する。			30	60	大和田 宏美
10	筋学演習1：上肢の筋①上肢帯 の筋	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P239～245）、教科書②のC上肢 （P310～323）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
11	筋学演習2：上肢の筋②上腕・ 前腕・手部の筋	事前学修：教科書①第6章上肢（P229～231）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第6章上肢（P246～269）、教科書②のC上肢 （P324～337）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
12	筋学演習3：体幹の筋	事前学修：教科書①第2章胸部（P49～51）、第3章腹部（P99～ 101）、第5章背部（P203～205）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第2章胸部の筋（P58～62）、第3章腹部の筋 （P102～107）、第5章背部の筋（P219～225）、教科書②のB体幹 （P152～187）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美
13	筋学演習4：下肢の筋①骨盤帯 の筋	事前学修：教科書①第4章骨盤部（P155～157）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P314～314）、教科書②のD下肢 （P492～497）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
14	筋学演習5：下肢の筋②大腿・ 下腿・足部の筋	事前学修：教科書①第7章下肢（P305～307）を読んでおくこと。 事後学修：教科書①の第7章下肢（P319～334）、教科書②のD下肢 （P498～513）を読んで理解しておくこと。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
15	腕神経叢、腰神経叢の位置関係	事前学修：神経について調べておくこと。 事後学修：骨、筋、神経のつながりについて復習する。			30	60	大和田 宏美 大友 篤
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（骨模型、筋模型を用いたグループワークを実施する）						
教科書	教科書①『標準解剖学』坂井建雄、第1版、医学書院、ISBN978-4-260-02473-0 教科書②『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』坂井建雄、松村譲児、第4版、医学書院、ISBN978-4-260-05630-4						
参考文献	デジタルアプリ「Visible Body Sute」 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』						
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制 レポート課題（成果物）はスケッチブックを提出してください。スケッチブックには、骨と筋のスケッチと各部位の名称等の記載が必要です。 スケッチブックは、骨学・筋学の講義終了後に提出し、採点后にスケッチブックを返却します。 試験は、骨および筋について学修できているかについて口頭試験で評価します。						

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が解剖学について理解を深め、理学療法学・作業療法学を学んでいく上で必要な基礎医学の知識が身につくようグループワーク中心の演習を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa04			
●			●						
科目名	解剖学実習				単位 認定者	伊橋 光二		試験(実技)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	40 時間		
				授業形態	実習	授業回数	20 回		
授業の概要	理学療法及び作業療法における検査・測定及び治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法及び作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。								
到達目標	1. 身体各組織、器官の解剖学的名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。 2. 体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管など身体組織を触診できるようになる。 3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断・治療に正しく応用できるようになる。								
学修者への期待等	身体の構造や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体の形態的異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げることができるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学の内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、指定された担当部位の実技デモンストレーションを行い、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。								
回	授業計画	準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当	
1	解剖学実習概論と各組織の触診方法	事前学修：①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認 事後学修：指定された担当部位の実技デモの準備				30	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
2	骨・関節の触診①肩複合体	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
3	骨・関節の触診②上肢帯・上腕・前腕・手部	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の上肢帯・上腕・前腕・手部の復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
4	骨・関節の触診③骨盤・大腿	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の骨盤・大腿の復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
5	骨・関節の触診④下腿・足部	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の下腿・足部の復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
6	骨・関節の触診⑤体幹	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の体幹の復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
7	骨・関節の触診⑥全身	事前学修： 全ての骨関節の復習 (触診の実技練習・AL) 事後学修： 全ての骨関節の復習 (触診の実技練習・AL)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
8	軟部組織の触診①肩複合体・上肢帯・上腕	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の肩複合体・上肢帯・上腕の軟部組織復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	軟部組織の触診②前腕・手部	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の前腕・手部の軟部組織復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
10	軟部組織の触診③骨盤・大腿	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の骨盤・大腿の軟部組織復習 ②具体的到達目標の予習 (ICT反転授業・AL) 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習 (触診の実技練習)				60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
11	軟部組織の触診④下腿・足部	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の下腿・足部の軟部組織復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習（触診の実技練習）	60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治
12	軟部組織の触診⑤体幹	事前学修： ①解剖学 I および解剖学演習の体幹の軟部組織復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 事後学修： 授業の復習（触診の実技練習）	60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治
13	軟部組織の触診⑥全身	事前学修： 全ての軟部組織の復習（触診の実技練習・AL） 事後学修： 全ての軟部組織の復習（触診の実技練習・AL）	60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治
14	血管、神経、その他身体組織の触診	事前学修： ①解剖学の血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 事後学修： 授業の復習（触診の実技練習）	60	60	伊橋 光二 鈴木 裕治
15	触診の理学療法への応用	事前学修： 学習した触診部位、触診の流れの確認 事後学修： 検査・測定の復習	30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
16	解剖学実習における倫理	事前学修： 配布資料の確認 事後学修： 学修内容のまとめ	30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	人体解剖見学①上肢・神経系	事前学修： ①第16回（倫理）の確認 ②上肢の骨・関節・軟部組織の復習 事後学修： 人体解剖見学の課題を実施し提出	60	60	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
18	人体解剖見学②下肢・神経系	事前学修： ①第16回（倫理）の確認 ②下肢の骨・関節・軟部組織の復習 事後学修： 人体解剖見学の課題を実施し提出	60	60	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
19	人体解剖見学③体幹・臓器	事前学修： ①第16回（倫理）の確認 ②体幹・臓器の復習 事後学修： 人体解剖見学の課題を実施し提出	60	60	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
20	総復習	事前学修： 全ての骨・関節・軟部組織の復習（触診の実技練習・AL） 事後学修： 全ての骨・関節・軟部組織の復習（触診の実技練習・AL）	60	60	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ICT反転授業・学生による実技デモンストレーション）				
教科書	『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版』青木隆明監修、メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-2093-1 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版』青木隆明監修、メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-2094-8				
参考文献	『標準解剖学』坂井建雄、第1版、医学書院 『骨格筋の形と触察法』河上敬介・磯貝香、大峰閣 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版』坂井建雄・松村謙児監訳、医学書院 『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖 第3版』坂井建雄・河田光博監訳、医学書院 『触診機能解剖カラーアトラス 上』文光堂 『触診機能解剖カラーアトラス 下』文光堂 『カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』Donald A. Neumann著、有馬慶美・日高正巳監訳、医歯薬出版株式会社 『基礎運動学 第7版』中村隆一・齋藤宏・長崎浩著、医歯薬出版株式会社				
備考	PTA・PTB・OTの3クラス体制（16～19回は3クラス合同、うち17～19回は学外人体解剖見学実習） ICT教材を使用した反転授業およびALによる実技、担当箇所の学生デモにて実施。 触診を行えるよう、可能な限り裸出できる服装で授業に参加すること。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		

科目ナンバリング
ReFa05

科目名	生理学 I				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	試験(筆記)	33 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題(小テスト)	67 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要
生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞・組織・器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。生理学 I では、主に動物性機能について学ぶ。本科目では、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋系、感覚器系の構造(形態)機能について学修する。人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)についての基礎的な知識を身につける。

到達目標
1. 人体を構成する各要素(細胞・組織・器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。
2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態および生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のメカニズムについて構造(形態)機能を一体的に説明できる。

学修者への期待等
1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣に取り組むこと。
2. 臨床医学(内科学など)を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1	人体について	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
2	細胞と組織	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
3	皮膚と膜	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
4	骨格系：骨と関節	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
5	筋系：骨格筋の活動性	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
6	神経組織：神経細胞と支持細胞	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
7	中枢神経系：脳の構造と機能	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
8	中枢神経系：高次脳機能	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
9	末梢神経系	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
10	自律神経系	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
11	体性感覚	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
12	特殊感覚(1)：目と視覚	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
13	特殊感覚(2)：耳(聴覚と平衡覚)	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
14	運動制御	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
15	言語、発声構音機能	事前学修：教科書の該当項目の予習 事後学修：復習問題の見直し	30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()			
教科書	人体の構造と機能 エレインN. マリーブ著 医学書院(第5版)			
参考文献				
備考	PT・OT合同授業 授業内課題については授業内あるいはUNIPAでフィードバックを行います。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa08				
科目名	運動学総論				単位認定者	原 和彦		試験（筆記）	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 （小テスト）	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	運動学は、身体運動の仕組みについて学ぶ理学療法及び作業療法の基礎となる重要な学問である。人間の運動の科学と定義される運動学は、医学、物理学、心理学、社会学など多くの学問分野を統合したものに成り立つ応用学問であると言える。本科目では、力学の基礎や筋骨格系の構造と機能や関節運動、姿勢制御や歩行周期、運動の中樞神経機構、運動学習理論など運動学の基礎的な知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法・作業療法における運動学の位置づけを理解できる。 2. 一般的に用いられる単位系について説明できる。 3. 力学について説明できる。 4. 歩行や運動の仕組みを説明できる。 									
学修者への期待等	運動学では人の動作や運動をどのように行っているか骨、関節の動きや筋力の作用について知ることを目的としています。教科書やUNIPAにて講義の箇所について予習して講義に望んでください。またわからない箇所はそのままにせずに教員に質問してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	ニュートン力学の基礎、力学の分類、生体力学の一般的基礎			事前学修：教科書①P35～38を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
2	並進運動と回転運動、重心、床反力			事前学修：教科書①P19～35を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
3	位置、速度、加速度の関係、床反力と体重心加速度の関係、COPと支持基底面について			事前学修：教科書①P390～401を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
4	仕事、仕事率、エネルギー、関節モーメント			事前学修：教科書①P38～40、401～404を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
5	テコ、滑車、骨格筋の構造と機能			事前学修：教科書①P40～44を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
6	立位姿勢、歩行の観察、歩行周期の基礎			事前学修：教科書①P347～440を予習し、講義内容への理解を深める（概ね30分）。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習（概ね30分）。			30	30		
7	動作観察と運動の中樞神経機構			事前学修：教科書①P89～147、講義資料（UNIPA）を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
8	起居動作、動作介助における身体運動の観察分析			事前学修：講義資料（UNIPA）を予習し、講義内容への理解を深める。 事後学修：講義資料（UNIPA）、練習問題等の復習。			30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①『基礎運動学 第7版』医歯薬出版、ISBN978-4-263-26682-3 ②『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン、ISBN978-4-524-21839-4 									
参考文献	『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版、ISBN978-4-263-26581-9									
備考	PT・OT合同授業 小テストは各講義の中で事前にフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa09				
科目名	運動学演習 I				単位認定者	原和彦 坂上尚穂		試験(筆記)	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(小テスト)	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	運動学演習 I では、主に上肢と体幹の運動学について学ぶ。上肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用について学修する。解剖学・生理学の知識に基づき科学的にヒトの活動制御の仕組みを理解し、分析する力を身につける。また、分析により問題点を把握できるようになる。									
到達目標	1. 上肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 上肢の関節構造と靭帯による制動を説明できる。 3. 体幹の関節構造と筋による作用を説明できる。 4. 体幹の関節構造と靭帯による制動を説明できる。									
学修者への期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当		
1	上肢・体幹の関節構造の概要		事前学修：指定教科書①p193-180、②p213-216までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
2	肩関節複合体の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p49-88までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
3	肩関節複合体の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p89-134までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
4	肘関節・橈尺関節の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p89-134までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
5	肘関節・橈尺関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p135-149までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
6	手関節の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p150-169までを予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
7	手関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p171-188の該当箇所(頸椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
8	手指の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p171-188の該当箇所(頸椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
9	手指の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p171-188の該当箇所(頸椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
10	環椎後頭関節～頸椎の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p171-188の該当箇所(頸椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
11	環椎後頭関節～頸椎の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p359-371の該当箇所(換気)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
12	胸椎・胸郭の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p189-220の該当箇所(腰椎椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
13	胸椎・胸郭の構造の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p189-220の該当箇所(腰椎椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
14	腰椎・仙腸関節の構造(筋と靭帯)		事前学修：指定教科書①p189-220の該当箇所(腰椎椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
15	腰椎・仙腸関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)		事前学修：指定教科書①p189-220の該当箇所(腰椎椎)を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。			30	30	原 和彦 坂上 尚穂		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワーク)									
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 原書第4版 ー機能的運動学の基礎と臨床 』Paul Jackson Mansfieldら、エルゼビア・ジャパン、南江堂、ISBN978-4-524-21839-4 ②『基礎運動学 第7版』中村隆一ら、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26682-3									
参考文献	『図解 関節・運動器の機能解剖 上肢・脊柱編』J. Castaingら、協同医書出版社、ISBN978-4-763-91005-9									
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制 小テストは事前に各講義の中でフィードバックする。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa010				
学修成果			●							
科目名	運動学演習Ⅱ				単位認定者	原 和彦 大友 篤		試験(筆記)	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	運動学演習Ⅱでは、主に下肢の運動学について学ぶ。下肢の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靭帯及び筋の作用や実際の身体運動における役割・機能について学修する。また、姿勢・歩行における正常・異常、身体運動におけるエネルギー代謝などに関する基礎的な知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 下肢の関節構造と靭帯による制動を説明できる。 3. 下肢・体幹の運動と姿勢・歩行と知識の結びつけ、説明できる。 4. 身体運動におけるエネルギー代謝を説明できる。 									
学修者への期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当		
1	下肢の関節構造と移動の概要			事前学修：指定教科書②p363-364を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	原 和彦 坂上 尚穂 大友 篤		
2	股関節の構造(筋と靭帯)			事前学修：指定教科書①p220-264、②p228-237を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
3	股関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)			事前学修：指定教科書①p265-297、②p237-241を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
4	膝関節・橈尺関節の構造(筋と靭帯)			事前学修：指定教科書①p265-297、②p237-241を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
5	膝関節・橈尺関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)			事前学修：指定教科書①p299-335、②p242-252を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
6	足関節の構造(筋と靭帯)			事前学修：指定教科書①p299-335、②p242-252を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
7	足関節の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)			事前学修：指定教科書①p299-335、②p242-252を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
8	足部の構造(筋と靭帯)			事前学修：指定教科書①p299-335、②p242-252を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
9	足部の運動と機能(骨模型と触診を用いて演習)			事前学修：指定教科書①p299-335、②p242-252を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
10	姿勢(重心と支持基底面)			事前学修：指定教科書②p299-310を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
11	姿勢(バランス・平衡機能と運動)			事前学修：指定教科書②p310-332を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
12	正常歩行①歩行周期と各関節の運動			事前学修：指定教科書①p337-345、②p365-373を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
13	正常歩行②運動力学分析と筋活動			事前学修：指定教科書①p346-353、②p373-385、p388-398を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
14	姿勢・歩行総復習			事前学修：10回～13回までの授業資料を復習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
15	運動のためのエネルギー供給機構			事前学修：指定教科書②p385-388を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。		30	30	坂上 尚穂 大友 篤		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク)									
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 原書第4版 ー機能的運動学の基礎と臨床 』Paul Jackson Mansfieldら、エルゼビア・ジャパン、南江堂、ISBN978-4-524-21839-4 ②『基礎運動学 第7版』中村隆一ら、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26682-3									
参考文献	『図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編』J. Castaingら、協同医書出版社、ISBN978-4-763-91006-6									
備考	PTA・PTB・OT 3クラス体制 小テスト問題は各講義の中でフィードバックを行う。									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が人体の構造と機能について理解を深め、日常生活や臨床現場に繋げることができるような授業を行います。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa014					
			●								
科目名	人間発達学				単位認定者	外里 富佐江		試験(筆記)	50	%	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	50	%
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間				
				授業形態	講義	授業回数	8 回				
授業の概要	本科目では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達段階の視点で学修する。それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人間発達の概要を理解できるようになる。 各発達領域が相互に関連しながら発達することを理解する。 胎児期から老年期の各発達段階の特徴を理解できるようになる。 										
学修者への期待等	人間発達学は、社会制度や社会情勢と密接に関連している。新聞記事、ニュースなど最新の社会的な課題や知見に触れ、積極的に議論でき、課題に取り組むように知見をひろげて、授業に臨むこと。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)			
1	人間発達学の概要 胎児期・新生児期・乳児期の特徴			事前学修：兄弟・両親・祖母などの生活について観察しておくこと 事後学修：課題① ライブチャートを作成する			30	30			
2	運動発達と姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)の関係			事前学修：教科書 p 38-61まで読み込んでおくこと 事後学修：課題② 動画によるキーワードについて、復習する。			30	30			
3	上肢機能の発達 視覚機能の発達 目と手の協調性			事前学修：ユニバにアップされた上肢機能に関する配付資料を読み込んでおくこと 事後学修：課題③ 動画によるキーワードを復習する。			30	30			
4	認知機能の発達			事前学修：教科書 p 62-88の認知機能を読み込んでおくこと 事後学修：課題④ 認知の発達			30	30			
5	社会性の発達 言語の発達			事前学修：ユニバにアップされた社会性と言語発達に関する配付資料を読み込んでおくこと 事後学修：課題⑤ 社会性・言語について			30	30			
6	遊びと日常生活活動の発達			事前学修：教科書p198-211の遊びを読み込んでおくこと 事後学修：課題⑥ 遊びについて			30	30			
7	幼児期と児童期の特徴			事前学修：ユニバにアップされた幼児期と児童期に関する配付資料を読み込んでおくこと 事後学修：課題⑦ 幼児期の特徴の復習			30	30			
8	青年期・成人期・老年期の特徴			事前学修：ユニバにアップされた各期の特徴に関する配付資料を読み込んでおくこと 事後学修：課題⑧ 高齢期の特徴			30	30			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク・実技・課題フィードバック)										
教科書	リハビリテーションテキスト「人間発達学」 浅野大喜 メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-2062-7										
参考文献	『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂7版』福田恵美子編、中外医学社 978-4498076938										
備考	PT・OT合同授業										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は15年以上の地域、病院、施設で作業療法士としての臨床経験を有し、人間発達学の教育経験は、8年以上有している。具体的に人間発達学の事例紹介が可能であり、わかりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		

科目ナンバリング
ReFb10

科目名	栄養学				単位認定者	岩間正典 高泉佳苗		試験(筆記)	70 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。</p>									
学修者への期待等	リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当	
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について			事前学修：教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0	岩間 正典	
2	栄養素の消化と吸収			事前学修：教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。 事後学修：とくにありません			30	0	岩間 正典	
3	エネルギー代謝、食事摂取基準【反転授業】			事前学修：第3回資料「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解し、学修しておくこと。授業の最初に理解度を確認するテストを行い、それに基づいて授業を進める。 事後学修：とくにありません			60	0	岩間 正典	
4	運動時の栄養			事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。			0	60	高泉 佳苗	
5	栄養補給法、栄養評価			事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。			0	60	高泉 佳苗	
6	病態別の栄養管理(1)：低栄養			事前学修：とくにありません 事後学修：授業資料で提示したまとめを用いて復習する。			0	60	高泉 佳苗	
7	病態別の栄養管理(2)：摂食嚥下障害、フレイル			事前学修：とくにありません 事後学修：授業資料で提示したまとめを用いて復習する。			0	60	高泉 佳苗	
8	病態別の栄養管理(3)：過栄養、メタボリックシンドローム			事前学修：とくにありません 事後学修：授業中のワークと授業資料で提示したまとめを用いて復習する。			0	60	高泉 佳苗	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業）									
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』若林秀隆著、医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

【高泉】管理栄養士として病院に勤務した実務経験を有する。授業では病院での栄養管理業務の経験を活かした授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb11				
		●	●							
科目名	救急救命学				単位認定者	堀口 雅司		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理などをいう。本科目では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急医療における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命学の知識・技術を修得し、実践できるように努めてください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	CHAPTER 1 必ず学びたい安全管理学・救急医療学 LECTURE 1-1 なぜ安全管理学を学ぶのか				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
2	CHAPTER 1 必ず学びたい安全管理学・救急医療学 LECTURE 1-2 なぜ救急医療学を学ぶのか LECTURE 1-3 リハビリテーションに活かす安全管理学・救急医療学(インシデント・アクシデント)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
3	CHAPTER 1 必ず学びたい安全管理学・救急医療学 LECTURE 1-3 リハビリテーションに活かす安全管理学・救急医療学(心肺停止・転倒) LECTURE 8-1 救急医療とは (ABCDEアプローチ)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
4	CHAPTER 8 救急医療学総論 LECTURE 8-1 救急医療とは(救急医療システム) LECTURE 8-2 緊急を要する病態・臨床所見(一次ABCDE評価)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
5	CHAPTER 8 救急医療学総論 LECTURE 8-2 緊急を要する病態・臨床所見(二次ABCDE評価) LECTURE 8-3 バイタルサインの特徴(意識レベル)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
6	CHAPTER 8 救急医療学総論 LECTURE 8-3 バイタルサインの特徴(呼吸等) LECTURE 13-3 緊急時の判断基準				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
7	CHAPTER 13 在宅での安全管理と緊急時の対応 LECTURE 13-4 緊急時の対応 LECTURE 14-1 一次救命処置の適応(実践) 簡易訓練人形(紙)による実技(2人1組)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
8	CHAPTER 14 一次救命処置(basic life support) LECTURE 14-2 一次救命処置の手順(実践) LECTURE 14-3 自動体外式除細動器(AED)の原理と使用方法(実践) 簡易訓練人形とAED(紙)による実技(2人1組)				事前学修：各回の授業前に教科書・資料の指定範囲を読み、基礎的内容を整理したうえで授業に臨むことを求める。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。		30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(実技)									
教科書	『リハベーシック 安全管理学・救急医療学』医歯薬出版株式会社									
参考文献	『改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
備考	PT・OT合同授業。進捗状況や理解度に応じて順序等を変更する可能性がある。授業内課題は授業後感想等(10%)で評価する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- 救急救命士としての25年以上の実務経験を活用して、医療人の基礎となる安全管理・救急医療の重要性を教授する。
- 医療人の基本となる人間愛と思いやりの心を持った救急対応時の知識と技術を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFc01				
		●	●		●					
科目名	リハビリテーション概論				単位認定者	佐直 信彦		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数	15 回		
授業の概要	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害と関わって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害の正しい理解を目指す。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「リハビリテーション」の多義性―理念、科学、サービス提供―について説明できる。 健康、疾病、障害と「国際生活機能分類 ICF」について理解でき、リハビリテーションの諸領域において展開できる。 リハビリテーションにおける専門職連携及びチームアプローチモデルに基づいて説明でき、療法士として実践できる。 リハビリテーション過程について説明でき、理学療法・作業療法のなかで展開できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) 上の授業資料(事前に配付)とコメントをもとに準備すること。 授業後は、課題の解答で復習し、ノートやUNIPA資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。 									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	リハビリテーションとは (1) 障害者とリハビリテーションをめぐって 教科書1p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
2	リハビリテーションとは (2) 「障害者」諸外国の対応と我が国の変遷 教科書17p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
3	リハビリテーションとは (3) 我が国における「リハビリテーション」の語義の用例				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
4	リハビリテーションとは (4) 健康と生活の質 教科書21p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
5	病気と障害 (1) I 病気とは、障害とは、そしてICF 教科書29p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
6	病気と障害 (2) II 慢性疾患モデルと障害予防 III リハビリテーションと心理：心理的適応の過程と障害受容 教科書54p～、109p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
7	リハビリテーションの諸領域 I 医学的リハビリテーション 教科書115p～、121p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
8	II 障害児教育、III職業リハビリテーション IV 社会リハビリテーションと地域リハビリテーション 教科書127p～、137p～、150p～、215p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
9	V 障害福祉サービスと補装具/日常生活用具 教科書318p～、353p～、215p～、3962p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
10	VI 高齢者サービス (1) 教科書154p～、359p～、 高齢者対策の理念と推移、高齢者リハビリテーション				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
11	VI 高齢者サービス (2) 教科書155p～ 高齢者リハビリテーションの特殊問題と介護制度				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
12	リハビリテーションの過程 教科書167p～ I 評価とプログラム ～評価・測定～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
13	II チームアプローチと専門職 教科書183p、186p～				事前学修：UNIPAの配付資料、教科書で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
14	III 疾病治療とリハビリテーション医療 IV 廃用症候群 (1) 総論 参考文献「入門リハ医学」193p～、432p～				事前学修：UNIPAの配付資料で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
15	IV 廃用症候群 (2) 各論 参考文献「入門リハ医学」432p～				事前学修：UNIPAの配付資料で予習 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	『入門リハビリテーション概論』中村隆一・佐直信彦編、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修、岩谷力・佐直信彦他編、医歯薬出版株式会社(図書館蔵)									
備考	<ul style="list-style-type: none"> PT・OT合同授業 ・授業資料等はUNIPAに投稿する。 ・教科書の頁数は版、刷の改訂で変わります。 授業内課題の解答は次の授業資料の末尾に提示する。定期試験(筆記試験)の結果の講評はUNIPAに掲載する。 									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得、教科書作成にも関わった。その後、4年制大学及び短期大学でリハビリテーション概論及びリハビリテーション医学の講義を20年余にわたり担当した。

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
1年生

- 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMa01			
	●		●	●					
科目名	理学療法学概論				単位認定者	網本 和		授業内課題 (レポート等)	20 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	授業内課題 (小テスト)	30 %
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	試験 (筆記)
							授業回数	15 回	
授業の概要	本科目は、理学療法の基軸を理解するための科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度および世界の理学療法の現状と課題について学修する。								
到達目標	1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる								
学修者への期待等	理学療法は様々な疾病・障害領域の評価と治療を担当することになるので、広く関心を持って予習し、講義後には当該領域について復習をし、今後の理学療法の基盤を形成することが期待されている。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当				
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学	事前学習：第1章・8章・9章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること	30	30	網本 和				
2	理学療法の歴史	事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること	30	30	網本 和				
3	理学療法士を取り巻く法制度	事前学修：第11章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること	30	30	伊橋 光二				
4	理学療法の基盤 理学療法モデル	事前学修：第2章・7章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること	30	30	伊橋 光二				
5	理学療法の学問的体系化と研究法	事前学修：第10章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること	30	30	伊橋 光二				
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ①呼吸器疾患	事前学修：第5章・6章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること	30	30	伊橋 光二				
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ②循環器疾患	事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	網本 和				
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ③神経系疾患 (脳卒中)	事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	網本 和				
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ④運動器疾患	事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	網本 和				
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ⑤小児疾患	事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	網本 和				
11	理学療法組織と部門管理	事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	金谷さとみ				
12	理学療法と心理・メンタルヘルス	事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	金谷さとみ				
13	理学療法と地域包括ケア、災害への対応	事前学習：第11章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	金谷さとみ				
14	理学療法士の組織とその活動	事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	金谷さとみ				
15	世界の理学療法 ～先進諸国の理学療法、発展途上国への援助	事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。	30	30	網本 和				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()								
教科書	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW								
参考文献									
備考	PTA・PTBクラス合同体制 授業内課題および小テストについては、当日または次回までにフィードバックを行う。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01			
	●	●	●	●					
科目名	トランスレーショナルセミナー I				単位認定者	大和田宏美 伊藤大亮		授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	トランスレーショナルセミナーI～トランスレーショナルセミナーIVは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。トランスレーショナルセミナーIでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることに重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。								
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルが身につけられるようになる 2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とすることができる								
学修者への期待等	大学生活を有意義に過ごし、自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待します。さらに多くの仲間をつくり、教員や先輩の話の聞いたりといろいろな考えに触れて、自分の知らなかった理学療法を見つけてください。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	【1～2年生合同】理学療法を学ぶ意義				事前学修：理学療法について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
2	【1～2年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：理学療法を学ぶことについて自分の考えも含めてまとめておく。 事後学修：討論した内容をまとめる。		30	30	
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				事前学修：教育方針とポリシーについて目を通しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには				事前学修：学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは				事前学修：自己紹介をまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場				事前学修：理学療法士の活躍に関する情報をまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)				事前学修：理学療法士と作業療法士について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール				事前学修：学生便覧とシラバスを読んで学則などについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
9	大学生活での学び②講義の受け方				事前学修：学生便覧とシラバスを読んで講義内容などについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力				事前学修：これからの自分の学修計画について考えてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
11	大学生活での学び④情報リテラシー				事前学修：情報リテラシーについてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法				事前学修：文献検索を自分なりにやってみておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
13	大学生活での学び⑥心の相談室				事前学修：ストレスや心の病などについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
14	大学生活での学び⑦ハラスメント				事前学修：ハラスメントについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活				事前学修：先輩に聞きたいことをまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワークや先輩との意見交換で自らの主張や議論を展開する)								
教科書	『わたし』を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房 ISBN978-4-7710-3822-6								
参考文献	必要に応じて紹介する。								
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、大友 篤 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治 PTA・PTBクラス合同体制(第7回のみPT・OT合同授業) 授業内で担当教員から課題内容についてフィードバックを行います。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法教育が可能である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPM01			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習 I (体験実習)				単位認定者	大和田宏美		実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	本科目では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などリハビリテーションチームとは何かを体験する。								
到達目標	1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成することができる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれるようになる。 3) 基本的な理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を形成することができる。								
学修者への期待等	学内での臨床実習オリエンテーションは、実技を含む授業ですので、動きやすい服装で参加してください。また、グループで学修する機会が多いので、学生間で積極的にコミュニケーションをとってください。はじめての学外臨床実習ですので、実習施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動をとること、実習記録の作成・提出は期限を厳守すること、利用者として積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けてください。								
授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1. 実習期間 【10月第1週～10月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					事前学修： ①感染対策について正しい知識と予防方法を身につけておくこと。 ②医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身につけておくこと。 ③実習先の施設情報や理学療法の特色などについて調べておくこと。 事後学修： ①見学実習後に体験したことや実習先で得られた知識などをまとめておくこと。 ②見学実習の成果をスライドでまとめ、成果発表をすること。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次の評価実習に繋げられるようまとめておくこと。		60	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技練習などのグループワーク、スライド作成、スライド発表）								
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』、相澤純也、他編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8								
参考文献	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW								
備考	『臨床実習の手引き』（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、小関 友記 実習に関するスライド発表の成果については、実習発表会でフィードバックを行います。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が理学療法についての理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
1年生

- 専門科目シラバス

科目ナンバリング
ROMa01

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
	●		●	●	

科目名	作業療法学概論				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の 方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	<p>本科目では、医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国および諸外国における作業療法の歴史の変遷や現状を概観しながら、その独自性と専門性について考えていく。また、さまざまな事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。</p>									
到達目標	<p>1. 作業療法とはなにかを説明することができる 2. 作業療法の普遍的な目的および手段の多様性について言語化することができる</p>									
学修者への 期待等	作業療法士になるための基盤となる学問です。積極的な参加態度を期待します。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1	作業療法の定義、倫理綱領、関連法規				事前学修：教科書P29-44を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
2	作業療法の歴史：ピネルの道徳療法、アーツ&クラフツ運動、プラグマティズム、我が国の作業療法の歴史				事前学修：教科書P45-56を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
3	世界の作業療法の現状				事前学修：教科書P57-70を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
4	作業療法の領域と対象				事前学修：教科書P71-80を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
5	作業療法の実践過程（プロセス）				事前学修：教科書P81-102を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
6	作業療法を観る：あきらめていた病前の趣味を再開、認知症者に対する社会資源の利用				事前学修：1-5回の内容を復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				60	30
7	作業療法士と一緒に働く関連職種、多職種				事前学修：教科書P149-154を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				30	30
8	作業療法の普遍性（まとめ）				事前学修：1-7回の内容を復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること				60	30
アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：理解を深める目的でペアワーク・グループワークを実施する。									
教科書	東登志夫（監）『シンプル作業療法シリーズ、作業療法学概論テキスト』、南江堂 ISBN：978-4-524-23271-0									
参考文献	適宜紹介します									
備考	科目専用のノートを準備してください。 ICT活用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かして、作業療法になるための基礎的知識を修得できるよう、実践的な授業を行う。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa02			
			●	●					
科目名	基礎作業学				単位 認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間
						授業回数	8 回		
授業の概要	本科目では、作業や作業活動を治療的に用いる際に必要となる基礎的な知識を修得する。また、代表的な作業や作業活動の分析的視点および分析方法について学ぶ。加えて、作業を治療的に用いることができるよう、作業と心理機能、環境因子、個人因子との関係性についても学んでいく。								
到達目標	1. 作業がひとに与える影響を説明できる 2. 作業療法士が作業や作業活動をどのように治療に活用するのか説明できる 3. 基本的な作業の分析ができるようになる								
学修者への 期待等	作業療法概論と並び、作業療法士になるうえでの基盤となる科目になります。作業は日常に当たり前の存在する人の経験を指す概念です。何気ない日常を改めて考察する機会がたくさんあります。主体的な参加を期待します。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)			
1	作業の意味・形態・機能	事前学修：教科書①の1章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
2	ライフステージと作業、作業の文脈	事前学修：教科書①の3章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
3	作業バランス	事前学修：教科書①の3章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
4	作業的存在としての諸次元 (Doing Being Belonging Becoming)、作業機能障害	事前学修：教科書①の4章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
5	作業を用いる意義(目的、手段、実存的)	事前学修：教科書①の5章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
6	包括的作業分析①：作業分析の視点	事前学修：教科書①の9章読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
7	包括的作業分析②：作業分析を言語化する	事前学修：教科書①の9章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
8	作業のもつ力(まとめ)	事前学修：教科書①の13章を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30			
アクティブ・ ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：理解を深める目的でペアワーク・グループワークを実施する。								
教科書	①齋藤佑樹 編『シンプル作業療法シリーズ、基礎作業学テキスト』南江堂 ISBN：978-4-524-21045-9 ②齋藤佑樹 編『作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方 第2版』医学書院 ISBN：978-4-260-05025-8								
参考文献	『「作業」ってなんだろう 作業科学入門』医歯薬出版株式会社								
備考	ICT利活用教育(UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う)。回収した成果物は後日フィードバックを行う。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、作業療法の中核概念である作業について、科学的知見を踏まえて授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01			
	●	●	●	●					
科目名	トランスレーショナルセミナー I				単位認定者	外里 富佐江		授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態		演習		授業時間数
						授業回数	15 回		
授業の概要	トランスレーショナルセミナー I～トランスレーショナルセミナーIVは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。トランスレーショナルセミナー Iでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、作業療法を知ることとに重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。								
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける 2. 作業療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする								
学修者への期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義				事前学修：作業療法について調べてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：作業療法を学ぶことについて自分の考えも含めてまとめる。 事後学修：討論した内容をまとめる。		30	30	
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて				事前学修：教育方針とポリシーについて目を通しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
4	カリキュラムについて 作業療法士になるには				事前学修：学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
5	グループワーク①自己紹介 作業療法とは				事前学修：自己紹介をまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
6	グループワーク②作業療法士の活躍の場				事前学修：作業療法士の活躍に関する情報をまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)				事前学修：理学療法士と作業療法士について調べてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール				事前学修：学生便覧とシラバスを読んでルールなどについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
9	大学生活での学び②講義の受け方				事前学修：学生便覧とシラバスを読んで講義内容などについて確認しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力				事前学修：これからの自分の学修計画について考えてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
11	大学生活での学び④情報リテラシー				事前学修：情報リテラシーについてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法				事前学修：文献検索を自分なりにやってみておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
13	大学生活での学び⑥心の相談室				事前学修：ストレスや心の病などについて調べてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
14	大学生活での学び⑦ハラスメント				事前学修：ハラスメントについて調べてまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活				事前学修：先輩に聞きたいことをまとめる。 事後学修：学んだ内容をまとめる。		30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワークや先輩との意見交換で自らの主張や議論をする）								
教科書	『わたし』を伝えるコミュニケーションワークブック』 湯口 恭子 晃洋書房								
参考文献	宮沢賢治の童話でまなぶココロの寄り添い方 外里 富佐江著 CBR出版								
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 第7回のみPT・OT合同授業 課題のフィードバックは授業内で行う。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員はいずれも、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、より実践的な教育が可能である

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMe01			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習 I (体験実習)				単位認定者	外里 富佐江		実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	90 時間		
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	<p>実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携など、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習施設の役割と機能を理解する 2. 実際の作業療法場面を見学し、作業療法の業務内容を理解する 3. 見学・体験した内容をまとめ、表現する能力を養う 4. 作業療法士の適性はどのようなものかを見学を通して認識し、今後の学修に対する動機付けとする 								
学修者への期待等	<p>臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。</p>								
授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 【9月28日(月)～10月9日(金)】 2. 実習計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや作業療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録(自己学修内容も含む) ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。 					<p>事前学修：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①感染対策について正しい知識と予防方法を身につけておくこと。 ②医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身につけておくこと。 ③実習先の施設情報や作業療法の特色などについて調べておくこと。 <p>事後学修：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①見学実習後に体験したことや実習先で得られた知識などをまとめておくこと。 ②見学実習の成果をスライドでまとめ、成果発表をすること。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次の評価実習に繋げられるようまとめておくこと。 		60	60	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(実技や体験を含むグループワーク、スライド作成、スライド発表)								
教科書	適時、資料を配付する。								
参考文献	東登志夫(監)：『シンプル作業療法シリーズ、作業療法学概論テキスト』、南江堂								
備考	<p>臨床実習の手引き(配付資料)</p> <p>【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 実習に関するスライド作成。発表の成果については実習発表会にてフィードバックを行います。</p>								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が作業療法についての理解を深め、臨床現場につなげることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf01				
	●		●		●					
科目名	地域生活支援論				単位認定者	外里富佐江 戸田祐子		試験(レポート)	30 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(レポート等)	60 %
						授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	地域で作業療法を実践していくため、基礎となる身近な地域について理解を深める。車椅子利用者等の具体的な生活をイメージし、住み慣れた地域で安全に生活するためには何が必要であるのかを検討する。また、出身地域の現在の社会資源について調べ、リハビリテーションサービスが必要な対象者の生活について考える。									
到達目標	地域の人々の生活、環境、社会資源など、地域の特性を捉え説明できる。障害者(児)・高齢者の住みよい環境について学び、不自由を軽減するために、自らできることについて考え、説明できる。									
学修者への期待等	授業ではグループ学修やディスカッションを行います。他者の意見を聞く耳と、相手に届く言葉を選択し、意見を伝えることができるよう、柔軟な思考をもって授業に臨むこと。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当		
1	「地域」とは何か 身近な地域(仙台市)を調べる (地域における障害者(障害児を含む)・高齢者に目を向ける)			事前学修:ユニパにアップした資料をよく読んでおくこと 事後学修:課題①「地域」について学修した内容を復習すること		30	30	外里富佐江		
2	学生の出身地と仙台市の地域の違いを学ぶ(歴史・地理・地域資源サービスなど)			事前学修 地域について制度的な内容も含めてまとめる。 事後学修 課題②を提出する		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
3	地域作業療法学における連携と協働について OTと連携する多職種の業種について調べる			事前学修 地域作業療法を展開するうえで連携・協業が必要な職種とその役割について調べるための資料やPCを準備しておくこと。 事後学修 課題③事後学修でまとめておくこと		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
4	ノーマライゼーションとは (バリアフリー、ユニバーサルデザイン、車椅子利用者の移動)			事前学修 グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題④を提出する。		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
5	車椅子の構造、操作及び介助方法を学ぶ			事前学修 提示された課題を考えておくこと 事後学修 課題⑤を提出する		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
6	車椅子利用者の視点から地域(公共施設・商業施設)の社会資源を知る			事前学修 提示された課題を考えておくこと 事後学修 課題⑥を提出する		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
7	地域(学生の出身地と仙台市)の違いを踏まえた生活支援について検討する			事前学修 ディスカッションするための準備をして授業に臨むこと 事後学修 課題⑦を提出すること		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
8	社会資源の利用、社会的環境整備への働きかけについて学ぶ			事前学修 グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 最終レポートを提出すること		30	30	戸田 祐子 高橋 慧		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(反転授業、グループワーク、ディスカッション、発表)									
教科書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 地域作業療法学 ISBN978-4-7583-2049-8									
参考文献	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』医学書院									
備考	ニュースや新聞などの社会情報に目を通して、障害者制度、老人介護保険制度などの情報の更新に務めること。課題のフィードバックは授業内で行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 担当する教員全員が、10年以上の臨床経験を有し訪問リハビリテーション、施設での作業療法を経験している。地域で作業療法を実践していくため、必要な基礎知識について教授する実務能力がある。

リハビリテーション学部

2年生

- 年間予定表
- 理学療法学専攻
作業療法学専攻
共通科目シラバス

2026年度 リハビリテーション学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2		
	5	6	オリエンテーション	7	8	9	健康診断	10	
	12	13		14	15	合同交流会	16	17	
	19	20		21	スポーツ大会	22	23	24	
	26	27		28	29		30	1	
5月	3	4	5	6	7	8	9	10	
	10	11	12	13	14	15	16	17	
	17	18	19	20	21	22	23	24	
	24	25	26	27	28	29	30	31	
	31	1	2	3	4	5	6	7	
6月	7	8	9	10	11	12	13	14	
	14	15	16	17	18	19	20	21	
	21	22	23	24	25	26	27	28	
	28	29	30	1	2	3	4	5	
7月	5	6	7	8	9	10	11	12	
	12	13	14	15	16	17	18	19	
	19	20	21	22	23	24	25	26	
	26	27	28	29	30	31	1	2	
8月	2	3	4	5	6	7	8	9	
	9	10	11	12	13	14	15	16	
	16	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験
	23	24		25		26	不合格発表	27	
	30	31	再試験	1	再試験	2	再試験	3	再試験
9月	6	7	8	9	10	11	12	13	
	13	14	15	16	17	18	19	20	
	20	21	22	23	24	25	26	27	
	27	28	29	30					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 リハビリテーション学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土	
10月						1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31	せいよう祭	
11月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	1	2	3	4	5		
12月	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31	1	2		
1月	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31	1	定期試験	2	定期試験	3	定期試験	4	定期試験
2月	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	不合格発表	16	17	18	再試験	19	再試験
	21	22	再試験	23	24	再試験	25	26	27
	28	1	2	3	4	5	6		
3月	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa07		
	●			●				
科目名	ICT活用技術				単位認定者	佐々木 仁		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	O T	選択	2年			授業時間数	30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回	
授業の概要	<p>情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。</p> <p>ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報の特徴と種類について説明できる。 電子カルテを中心とした病院情報システムの意義と役割を説明できる。 医療機関における個人情報保護・情報セキュリティを理解し、医療従事者としての情報倫理を身につける。 医療福祉分野におけるICTの活用について説明できる。 							
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 主体性・協調性・マナーを重要視しており、積極的にペア・グループワークに取り組む姿勢に期待する。 毎回レジュメを配布するので、A4ポケットファイルを準備すること（授業内で指示） レポート等の課題提出は期限を厳守し、欠席時の資料・課題はTeamsより各自出力し、取りくむこと。 							
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス 情報の概念 保健医療情報システムの発達 				事前学修：シラバスをよく読んでおくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
2	<ul style="list-style-type: none"> 医療資源（物的資源、人的資源、財的資源、情報資源） 				事前学修：「医療資源」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
3	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報の特徴と種類 診療情報の一次利用と二次利用 				事前学修：「医療情報と診療情報」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
4	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療と多職種連携の情報管理 医療機関の組織と情報 				事前学修：「医療機関の組織」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
5	<ul style="list-style-type: none"> 行政が求める保健医療の情報化政策 保健医療の情報化政策の歴史と関連法令 				事前学修：「行政で扱う医療情報」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
6	<ul style="list-style-type: none"> 病院情報システムの概要と院内ネットワーク 部門業務を支えるシステム 医療費の仕組み 				事前学修：「医療費の仕組み」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
7	<ul style="list-style-type: none"> その他の診療部門システム オーダリングシステムと電子カルテシステム 電子カルテシステムのメリット・デメリット 				事前学修：「電子カルテ」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
8	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療情報システムと遠隔医療システム 個人番号制度と医療等ID、HPKI 				事前学修：「遠隔医療システム」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
9	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報の二次利用 データウェアハウスと医療ビッグデータ 				事前学修：「医療情報の一次利用と二次利用」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
10	<ul style="list-style-type: none"> 次世代医療基盤法 EHRとPHRの実装の動向、電子版お薬手帳等 				事前学修：「お薬手帳」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
11	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法 個人情報の定義と取り扱い 個人情報漏洩・流失の原因 				事前学修：「個人情報漏洩のニュース」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
12	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ 医療情報システムにおけるセキュリティ対策 医療情報システムの安全管理 				事前学修：「身近なセキュリティシステム」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
13	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関における情報倫理 ペア・グループワーク 				事前学修：「第11、12回の授業」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
14	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における情報管理 				事前学修：「医療機関と災害に関するニュース」について調べておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
15	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り ペア・グループワーク 				事前学修：「第14回までの授業」について復習しておくこと 事後学修：講義内容の復習		30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク、グループワーク）							
教科書	なし（毎回レジュメを配布）							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報 第8版 医療情報システム編（篠原出版新社） 新 医療秘書実務シリーズ 3 三訂 医療情報管理（建帛社） 							
備考	<ul style="list-style-type: none"> 選択者数や、理解度により授業内容の一部や順番を変更する場合がある。 授業内課題（70%）はレポート・小テスト（3回予定）で評価し、次回授業内でフィードバックする。 授業内課題は指示したプリント、又はファイル等のデータ形式で提出（授業内で指示） 							
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）								

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb04				
	●			●						
科目名	教育心理学				単位認定者	真覚 健		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間			%
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。</p> <p>人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかなものとし、効果的な教育方法の検討をする。</p>									
到達目標	<p>1：心身の発達過程と特徴について説明できる。</p> <p>2：学習にかかわる要因について説明できる。</p> <p>3：パーソナリティについて説明できる。</p> <p>4：教育における測定と評価について説明できる</p>									
学修者への期待等	<p>資料をあらかじめUNIPA上にアップするので事前に読んで学修すること。</p> <p>これまでの学校教育での経験、日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。</p>									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)			
1	教育心理学とは		事前学修：資料を読んで、教育心理学の対象について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
2	発達の理解（遺伝と環境、発達と教育）		事前学修：資料を読んで、発達における遺伝説と環境説について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
3	発達の諸相		事前学修：資料を読んで、幼児期・児童期・思春期の発達の特徴について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
4	学習と記憶		事前学修：資料を読んで、学習と記憶について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
5	学習指導法		事前学修：資料を読んで、適性処遇交互作用について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
6	学習と動機づけ		事前学修：資料を読んで、内発的動機づけについて学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
7	パーソナリティの形成		事前学修：資料を読んで、パーソナリティの形成について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
8	測定と評価		事前学修：資料を読んで、診断的評価・形成的評価・総括的評価について学修しておくこと。 事後学修：レスポンスシートを提出すること。			30	30			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアディスカッション）									
教科書	特に指定しない。資料は事前にUNIPA上にアップします。									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 毎回事後学修としてUNIPAでのレスポンスシートの提出を求め、次の授業でフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc04				
	●			●						
科目名	教育学概論				単位 認定者	神山 真由		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画(目標)の設定方法や教育活動(内容)を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。									
到達目標	1. 教育という営みやその基本概念について、自分自身の経験も踏まえながら理解する。 2. 生涯学習の理念を理解し、今後の自分自身の教育のあり方を考えることができる。									
学修者への期待等	個人ワーク、グループワークを行います。積極的に参加してください。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	教育とは何か?		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第1回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
2	幼児期の学び・教育		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第2回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
3	学校教育の機能		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第3回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
4	近年の学校教育		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第4回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
5	多様な子どもと教育①ー家庭環境・言語ー		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第5回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
6	多様な子どもと教育②ー障害ー		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第6回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
7	子どもの発達と生涯発達		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第7回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
8	生涯学習の理念と実際		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第8回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
9	学校教育と教育方法		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第9回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
10	生涯学習とその方法		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第10回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
11	教育評価の基本原則		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第11回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
12	教育評価の実践		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第12回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
13	ティーチングとコーチング		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第13回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
14	ファシリテーション		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第14回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
15	講義のまとめと確認		事前学修: 配布資料を読んでくる 事後学修: 第15回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する				30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード(グループワーク)									
教科書	特に指定しません。									
参考文献	適宜提示します。									
備考	PT・OT合同授業。課題については授業内でフィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd03			
	●				●				
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	事前課題	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間	受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	<p>自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起し、災害となって新たな問題を引き起こす。</p> <p>この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生メカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。</p>								
到達目標	<p>さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べるができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイデアを述べるができる。</p>								
学修者への期待等	<p>災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わることができるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。</p>								
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	災害医学の基礎知識	事前学修：事前に教科書35章を読んでくること。 事後学修：授業終了時に概要レポートを提出すること。				60	30		
2	東日本大震災とは何だったのか？	事前学修：報告会を行うので学籍番号下1桁と同じ下1桁の章からの学びと課題発見をスライドで授業前日の決められた時間までに提出すること。(学籍番号〇〇〇7の学生は17章、27章、37章、47章から選ぶ) 事後学修：選ばなかった他の章を少なくとも2つ読む				60	30		
3	気候変動	事前学修：事前に気候変動に起因する災害について予習 事後学修：授業後に能登半島地震・豪雨災害に関する資料についてレポートを作成すること				30	60		
4	避難所運営ゲーム(HUG)(参加型カード演習)	事前学修：ロールプレイ、グループワークを行うので、避難所のあり方について予習してくる。 事後学修：自治体の避難所運営マニュアルを読む				60	30		
5	災害リスクと仙台防災枠組	事前学修：事前に災害リスクの振り返りを行ってくる 事後学修：講義終了後に「高齢化社会のレジリエンス」についてレポートを作成すること				30	60		
6	災害と向き合ってきた歴史と伝承	事前学修：教科書第14-34章のうち2つ読んでくる。 事後学修：さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例についてレポートを作成すること。				30	60		
7	Psychological First Aid (ロールプレイ)	事前学修：ロールプレイングを行うので、サイコロジカルファーストエイド日本語版で災害におけるメンタルヘルスの問題について予習してくる。 事後学修：教科書第36章を読む。				60	30		
8	学修成果発表会	事前学修：保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド3枚以内でまとめてくること。(1時間程度) 事後学修：提出分をまとめた資料(配布)を読む				60	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ロールプレイング、グループワーク、成果発表、課題発見）								
教科書	『東日本大震災からのスタート ―災害を考える51のアプローチ―』東北大学災害科学国際研究所編 大学出版部協会								
参考文献	サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) 未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)								
備考	提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。 なお、3回目・5回目・6回目はオンデマンド形式にて実施します。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd04					
	●			●							
科目名	統計学入門				単位 認定者	森坂 太一		評価の方法	試験(筆記)	50	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	50	%
	O T	必修	2年			授業形態	講義		授業時間数	15 時間	
				授業回数	8 回						
授業の概要	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基本的な知識（量的データの特徴、代表値、ばらつきの指標、推測統計の基礎）がわかる 2. 医学文献等を読むにあたり、統計学的見地から批判的吟味を行うことができる 3. 実際のデータから、代表値やばらつきの指標など、簡単な分析ができる 										
学修者への期待等	統計学は今後の生活・仕事を進める上で大変有用な学問です。一方で数学理論は初学者にとっては簡単ではないので、学習を始める際の障壁になるかと思います。そこでこの授業では具体的な例を中心に説明しつつ、Excel等を用いて手を動かしながら理解をしていただきたいと思います。一緒に頑張りましょう。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	イントロダクション：統計学の概要				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
2	統計データの基礎				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
3	データの記述（1）：度数分布・ヒストグラム				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
4	データの記述（2）：代表値の種類と特性				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
5	データの記述（3）：ばらつきの指標				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
6	推測統計学の基礎				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
7	統計データの活用：論文における統計の解釈				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
8	まとめ：授業内容の総括				事前学修：とくにありません 事後学修：講義資料を見直し、内容を整理する。			0	60		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	なし、資料を配付する										
参考文献	『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会										
備考	PT・OT合同授業。 本授業では課題として、毎回授業で学習した内容に関する演習問題を課します。解説については次の回で行います。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd06				
	●									
科目名	健康スポーツⅡ				単位認定者	菅原 一昭		試験(実技)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
	O T	選択	2年				授業時間数		30 時間	
				授業形態	実技	授業回数			15 回	
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動(スポーツ)を生活に取り入れることが重要である。健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動(スポーツ)の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。									
到達目標	日常生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	チームの一員としてチームプレーを心掛けると共に、ルールを守ることの大切さを理解し、公正なプレーを心掛けること。実技の上手い、下手での評価ではなく、個々の取り組み姿勢、審判・準備・片付け等を積極的に行うことを評価対象とする。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	体育館での授業についての説明。アンケート				事前学修：健康・体力についての理解 事後学修：体操・ストレッチを習慣化				60	30
2	体育館 準備運動(ペアストレッチⅠ)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
3	①ドッジビー ②バレーボール									
4	体育館 準備運動(ペアストレッチⅡ)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
5	①ミニソフトバレー ②インディアカ									
6	体育館 準備運動(ペアボールランニング)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
7	①ユニホック ②バドミントン									
8	体育館 準備運動(スポーツ競技ストレッチ)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
9	①ゴールボール(視覚体験) ②ソフトバレーボール									
10	体育館 準備運動(ランニングドリル)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
11	①ポッチャ ②ソフトバレーボール									
12	体育館 準備運動				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
13	①フットサル ②卓球									
14	体育館 準備運動(各自)				事前学修：競技の歴史とルールについて理解 事後学修：就寝前のストレッチを実施				30	30
15	①実技試験(ハンマー投げ) ②バスケットボール									
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	なし。									
参考文献	授業時に資料を配付する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目には出席しないとバスの乗車時間・場所等が分からなくなりますので必ず出席すること。 ・第2回目以降は体育館にて実施。(上下運動着、上靴持参、タオル持参)。 ・土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。 ・授業内課題は適宜フィードバックする。 ・PT・OT合同授業 									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

高等学校・専門学校教諭30年。保健体育科専修免許。宮城県マスターズ陸上競技連盟理事長。JAAF公認ジュニアコーチ資格。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa06				
			●							
科目名	生理学Ⅱ				単位認定者	鈴木 裕一		試験(筆記)	33 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題(小テスト)	67 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	生理学Ⅱでは、主に植物性機能について学ぶ。本科目では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の機能について学修する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのようにつながり、どのような機能を担っているのかを系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解するために必要な基礎的な知識を身につける。									
到達目標	1. 人体を構成する各要素(細胞-組織-器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を理解し、人体の生命現象の恒常性(ホメオスタシス)と運動・活動時の適応(運動生理)について構造(形態)機能を説明できる。									
学修者への期待等	臨床医学(内科学など)を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	血液の組成と機能：止血機構				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
2	内分泌系(1)：内分泌系とホルモンの機能				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
3	内分泌系(2)：主な内分泌腺				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
4	循環器系(1)：心臓				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
5	循環器系(2)：血管とリンパ管				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
6	呼吸器系(1)：機能解剖				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
7	呼吸器系(2)：呼吸生理学				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
8	消化器系と代謝(1)：消化器系の構造				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
9	消化器系と代謝(2)：口腔・咽頭・食道のはたらき				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
10	消化器系と代謝(3)：胃・小腸・大腸のはたらき				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
11	消化器系と代謝(4)：栄養と代謝；体温調節				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
12	泌尿器系(1)：腎臓・尿管・膀胱・尿道				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
13	泌尿器系(2)：水・電解質と酸塩基平衡				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
14	生殖器系(1)：男性生殖器				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
15	生殖器系(2)：女性生殖器；妊娠と胎の発育				【事前学修】教科書の該当項目の予習 【事後学修】復習問題の見直し		30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	リハビリテーション基礎講座『生理学』行友聖子他著 医師薬出版株式会社									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。課題については適宜フィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa07				
			●							
科目名	生理学実習				単位認定者	鈴木 裕一		授業内課題 (レポート等)	55 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	試験(筆記)	45 %
	O T	必修	2年			授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	20 回			
授業の概要	<p>本科目では、生理学Ⅰ・生理学Ⅱで学修した内容について、実際の測定・実験を通し、身体の各機能についてさらに理解を深め、その生理学的メカニズムについて学修する。主に反射、筋電図、感覚検査、体組成計測、血圧測定、心電図、肺機能測定、尿組成、神経伝導速度、重心動揺計による測定などを実施する。</p>									
到達目標	<p>①生理学実習の意義を説明でき、計測機器の取扱いができるようになる。 ②腱反射を誘発、体験し、神経の興奮発生と伝導、脊髄反射の機構について説明できるようになる。 ③誘発筋電図を観察し、筋収縮の仕組みとM波、H波の発生する機構について説明できるようになる。 ④体性感覚と特殊感覚の特徴について説明できるようになる。 ⑤身体組成を計測し、筋量と筋力の関係を説明できるようになる。 ⑥脳活動と運動、感覚の関係を説明できるようになる。 ⑦血圧測定が実施でき、血圧と循環調節について説明できるようになる。 ⑧心電図の計測方法と意義と、異常波形を説明できるようになる。 ⑨呼吸機能の測定が実施でき、呼吸機能と調節について説明できるようになる。 ⑩最大酸素摂取量計測の意義と運動負荷について説明できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>理学療法・作業療法を学ぶのに、また将来現場で力をつけていくために基礎となる知識を得ることを目的としているので、自分自身が直接参加して知識を得るように努力してほしい。</p>									
回	授業計画・学修の主題		準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当			
1	細胞、顕微鏡観察		事前学修：細胞に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
2	骨と骨髄、関節		事前学修：骨と関節に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
3	血液、細胞膜と物質透過		事前学修：血液、及び細胞膜に関する生理学Ⅰの復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
4	筋系、表面筋電図		事前学修：骨格筋に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
5	神経系①運動神経伝導速度		事前学修：神経系に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
6	神経系②腱反射(伸張反射)、脳波		事前学修：伸張反射、及び脳波に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
7	体性感覚①触覚		事前学修：触覚に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			
8	体性感覚②温冷覚、順応		事前学修：温・冷覚に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習		30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮			

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当
9	特殊感覚①視覚	事前学修：視覚に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
10	特殊感覚②聴覚と平衡覚	事前学修：聴覚と平衡覚に関する生理学Ⅰの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
11	身体組成、筋肉量と筋力、体温	事前学修：身体組成、筋力、体温等に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
12	循環器①脈拍、血圧、静脈	事前学修：血液循環に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
13	循環器②心音、心電図	事前学修：心臓に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
14	運動生理学①エネルギー代謝（呼吸ガス分析）	事前学修：運動とエネルギー代謝に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
15	運動生理学②循環機能の調節	事前学修：運動と循環機能に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
16	消化器系①口腔機能（咀嚼と嚥下）	事前学修：口腔機能に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
17	消化器系②感覚（味覚・嗅覚）	事前学修：味覚・嗅覚に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
18	呼吸器系、呼吸機能（スパイロメトリ）	事前学修：呼吸に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
19	内分泌系、血糖値測定	事前学修：内分泌に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
20	泌尿器系、生殖器系、尿組成測定	事前学修：泌尿器系・生殖器系に関する生理学Ⅱの講義内容の復習 事後学修：実習内容の復習	30	30	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）				
教科書	リハビリテーション基礎講座『生理学』行友聖子他著 医師薬出版株式会社				
参考文献					
備考	PTA・PTB・OT 3クラスに分けて実施する。課題については適宜フィードバックを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa011				
			●							
科目名	運動学実習				単位認定者	原 和彦 森永 雄		授業内課題 (プレゼンテーション)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表)	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	40 時間		受講態度	30 %
				授業形態	実習	授業回数	20 回			
授業の概要	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学において学修した知識を応用し、筋力・重力、身体とてこ・モーメント・骨関節運動についてそのメカニズムを理解する。 2. 測定機器を用いて、姿勢と筋活動について計測、筋力測定を実施し、分析・解釈できる。 3. 測定機器を用いて、姿勢バランスを計測、動作解析を実施し、分析・解釈できる。 4. 測定機器を用いて、歩行および歩行時の筋活動を計測し、分析・解釈できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習では、身体運動や基本姿勢動作を計測対象とするため、動きやすい服装で参加してください。 ・データ分析やプレゼンテーション作成のために、Excel、Power Point、Wordの基礎的な操作ができることを求めます。これらのツールを積極的に活用し、初歩的な分析スキルを身につけてください。 ・課題遂行にあたっては、グループ活動を行います。他者と協力し、多角的な視点から課題に取り組む姿勢を期待します。 									
回	授業計画・学修の主題		準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当			
1	運動学実習の概要、生体力学の実習① (筋力、重力など)		事前学修：基礎運動学p19-46を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。		30	30	原 和彦 森永 雄			
2	生体力学の实習② (身体とてこ、モーメント、骨関節運動)		事前学修：基礎運動学p82-88、p125-138を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。		30	30	原 和彦 森永 雄			
3	実習1 (姿勢と筋活動：計測)		事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄			
4	実習1 (姿勢と筋活動：グループワーク)				30	30	原 和彦 森永 雄			
5	発表1 (姿勢と筋活動)				90	30	原 和彦 森永 雄			
6	実習2 (筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：計測)		事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄			
7	実習2 (筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：グループワーク)				30	30	原 和彦 森永 雄			
8	発表2 (筋力測定)				90	30	原 和彦 森永 雄			
9	実習3 (姿勢バランス：計測)		事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄			
10	実習3 (姿勢バランス：グループワーク)				30	30	原 和彦 森永 雄			
11	発表3 (姿勢バランス)				90	30	原 和彦 森永 雄			
12	実習4 (動作解析：計測)		事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備		30	30	原 和彦 森永 雄			
13	実習4 (動作解析：グループワーク)				30	30	原 和彦 森永 雄			
14	発表4 (動作解析)				90	30	原 和彦 森永 雄			

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当
15	実習5 (歩行計測：計測)	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
16	実習5 (歩行計測：グループワーク)		30	30	原 和彦 森永 雄
17	発表5 (歩行計測)		90	30	原 和彦 森永 雄
18	実習6 (歩行時の筋活動：計測)	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
19	実習6 (歩行時の筋活動：グループワーク)		30	30	原 和彦 森永 雄
20	発表6 (歩行時の筋活動)		90	30	原 和彦 森永 雄
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (実習実施、グループワーク、ディスカッション)				
教科書	「基礎運動学 第7版」医歯薬出版、ISBN 978-4-263-26682-3 *1年次購入済、 「エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 機能的運動学の基礎と臨床」 南江堂、ISBN 978-4-524-22653-5 *1年次購入済				
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」 メジカルビュー社、ISBN 978-4-758-1712-2				
備考	PTA・PTB・OT 3クラスで実施する。 ・授業内課題は、講義の中でその都度フィードバックを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

原…理学療法士として急性期、回復期医療施設にて5年以上の臨床経験を有している。主に運動器、中枢疾患、切断のリハの臨床理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。
森永…理学療法士として医療福祉関連施設(大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設)にて5年以上の臨床経験を有している。

学修成果	1	2	3	4	5						
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力						
			●								
科目名	機能解剖学実習				単位認定者	伊橋 光二		評価の方法	試験(実技)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位				
	O T	必修	2年			授業時間数	40 時間				
				授業形態	実習	授業回数	20 回				
授業の概要	理学療法及び作業療法では運動器疾患を評価・治療する機会も多く、運動器に関する解剖学として骨・関節・筋・靭帯等の構造を理解しておく必要がある。また、運動学では筋作用による関節運動や、靭帯による関節運動の制動を理解しておく必要がある。本科目では、解剖学や運動学から修得した知識をもとに、触診を通して身体構造と身体運動の知識を結びつけ、正常な関節構成体の構造と機能について学修する。										
到達目標	1. 骨・関節・筋・靭帯等の構造および関節運動とその制動を、触診を通して理解する。 2. 上肢、下肢、体幹それぞれの正常な関節構成体の構造と機能について説明できるようになる。										
学修者への期待等	機能解剖学は臨床と密接に結びついており、運動器系解剖学の知識を身につけるとともに、実際に触診や徒手的操作が行えるようになることが重要である。したがって事前の知識の復習・確認を授業での実技練習に活かし、さらに授業後の自主実技練習を十分行い実践力をつけることが期待される。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当			
1	運動面と運動軸、関節の副運動と治療面、筋の起始・停止と主作用と補助作用について			事前学修：配付資料（UNIPA）の予習 事後学修：学修内容をまとめる。		30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
2	肩関節複合体の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診			事前学修：該当部位の解剖学・運動学の復習 教科書の該当箇所（動画含む）の予習 UNIPA配付資料の予習 事後学修：実技復習練習		30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
3	肩関節複合体の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
4	肘関節・橈尺関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
5	肘関節・橈尺関節の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
6	手関節・手指の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
7	手関節・手指の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
8	上肢復習					事前学修：復習する技術の確認 事後学修：実技復習練習		30	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	股関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診			事前学修：該当部位の解剖学・運動学の復習 教科書の該当箇所（動画含む）の予習 UNIPA配付資料の予習 事後学修：実技復習練習		30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
10	股関節の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
11	膝関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
12	膝関節の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
13	足関節・足部の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
14	足関節・足部の靭帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション					30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治			
15	下肢復習					事前学修：復習する技術の確認 事後学修：実技復習練習		30	60	伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
16	頭頸部筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション	事前学修：該当部位の解剖学・運動学の復習 教科書の該当箇所（動画含む）の予習 UNIPA配付資料の予習 事後学修：実技復習練習	30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	胸部・胸郭筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション		30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
18	腰仙部筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション		30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
19	体幹復習	事前学修：復習する技術の確認 事後学修：実技復習練習	30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
20	総復習	事前学修：復習する技術の確認 事後学修：実技復習練習	30	30	伊橋 光二 鈴木 裕治
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技練習、自主実技練習）				
教科書	「整形徒手理学療法」医歯薬出版 ISBN978-4-21387-2-C3047 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」メジカルビュー社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」メジカルビュー社				
参考文献	「触診機能解剖カラーアトラス 上」文光堂 「触診機能解剖カラーアトラス 下」文光堂 「骨格筋の形と触察法」大峰閣 「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系」医学書院 「カラー版 筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版株式会社 「基礎運動学」医歯薬出版株式会社				
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 触診や徒手的操作の実技練習を行うので、各身体部位を露出できる服装で参加すること。 臨床実践に直結するので真剣に取り組むこと。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa013				
			●							
科目名	臨床運動学				単位認定者	網本 和		筆記試験	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	40 %
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	整形外科、神経内科、脳神経外科などの臨床医学分野のリハビリテーションを行う場合に、神経系、運動器系の疾患に由来する運動障害をきたした症例を経験することが多い。運動学は人間の運動の科学として位置づけられ、人間の正常運動に関するものは基礎運動学として扱われる。本科目では、基礎運動学の知識を身につけた上で、様々な疾患によって生ずる運動機能障害、正常運動からの逸脱、疾患特有の姿勢や動作と病態・障害像及び疾患別の異常歩行などについて学修する。									
到達目標	疾患特有の姿勢や動作、病態・障害像および疾患別の異常歩行などについて理解することができる。									
学修者への期待等	1年時に学修した「解剖学」「運動学」を基盤として講義するのでそれらの科目の復習をしてください。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当		
1	臨床運動学の総論		事前学習：教科書第1章p4-24を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
2	生体力学の基礎		事前学習：教科書第2章p25-76を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
3	基本動作の観察と分析		事前学習：教科書第2章p25-76を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
4	臨床における動作分析の進め方		事前学習：教科書第3章p78-91、第6章p159-169を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
5	股関節障害に対する理学療法の考え方(事例含む)		事前学習：教科書第8章p253-252を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
6	膝関節障害に対する理学療法の考え方(事例含む)		事前学習：教科書第8章p244-252を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
7	足関節障害に対する理学療法の考え方(事例含む)		事前学習：教科書第8章p267-274を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	原 和彦		
8	姿勢歩行の加齢変化		事前学習：教科書第17章を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
9	運動失調患者の姿勢と歩行		事前学習：教科書p306-315を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
10	片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作		事前学習：教科書p286-297を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
11	片麻痺患者の起立着座・移乗動作		事前学習：教科書p286-297を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
12	片麻痺患者の姿勢と歩行①(立脚期中心)		事前学習：教科書p286-297を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
13	片麻痺患者の姿勢と歩行②(遊脚期中心)		事前学習：教科書p286-297を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
14	パーキンソン病患者の姿勢と歩行		事前学習：教科書p298-305を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
15	動作分析とクリニカルリーズニング		事前学習：配付資料を予習してください。事後学習として復習をする			30	30	網本 和		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	「標準理学療法学 専門分野 病態運動学」医学書院									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。小テストを複数回実施する。実施日または次回までに正解を示しフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
原・網本…医療福祉関連施設(大学病院、一般病院)での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb01				
			●							
科目名	薬理学				単位認定者	根本 互		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2年	授業形態	講義	授業時間数	16 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	薬理学とは薬物の作用メカニズムを学ぶ学問である。本科目では、薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、体にもたらす効果、副作用が起こるメカニズム等を学修し、疾病の治療や予防において使用される薬物についての知識を身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学の基礎的概念(薬力学、薬物動態、薬物相互作用)を説明できるようになる。 神経系および循環器系に作用する薬物ならびに抗炎症・鎮痛薬の分類と主な作用を説明できるようになる。 									
学修者への期待等	事前に教科書に目を通し、疑問点を意識した上で授業に臨んでください。また、本科目の学修には、これまでに学修した解剖学・生理学の復習が効果的です。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	薬理学の基礎知識			事前学修：教科書第2章を読み薬力学と薬物動態学について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った薬理学の基礎概念(薬力学および薬物動態学の基本事項)を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
2	末梢での神経活動に作用する薬物(交感神経系作用薬)			事前学修：教科書第7章を読み、交感神経系の働きと交感神経系作用薬の基本的作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
3	末梢での神経活動に作用する薬物(副交感神経作用薬)			事前学修：教科書第7章を読み、副交感神経系の働きと副交感神経系作用薬の基本的作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
4	中枢神経系に作用する薬物(催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬)			事前学修：教科書第8章を事前に読み、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
5	中枢神経系に作用する薬物(抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬)			事前学修：教科書第8章を事前に読み、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
6	循環器系に作用する薬物(高血圧治療薬、狭心症治療薬、心不全治療薬)			事前学修：教科書第9章を事前に読み、高血圧治療薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
7	循環器系に作用する薬物(抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬)			事前学修：教科書第9章を事前に読み、抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
8	抗炎症薬・鎮痛薬			事前学修：教科書第6章を事前に読み、抗炎症薬・鎮痛薬の主な作用と副作用について概要を把握しておく。 事後学修：講義で扱った各薬物の名称、作用機序および薬理学的特徴を整理し、説明できるよう復習する。			60	60		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	『系統看護学講座 薬理学』第15版、吉岡充弘 他、医学書院									
参考文献	なし									
備考	PT・OT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb02				
			●							
科目名	病理学				単位認定者	三木 康宏		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	病理学とは、「やまい(病)」の「ことわり(理)」を学ぶ学問である。種々の疾患(腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など)によって、組織・細胞は様々な適応(環境変化に対する適応)をしているが、本科目ではその意味と疾患の関わりについて学修する。また、内因・外因を含む疾患や障害の病因論、感染症や腫瘍の病理的变化などについても学修する。									
到達目標	身体の構図と機能を基本とし、病態におけるその変化について学び、そこから、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。									
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから病態における変化について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次回の講義に備えてもらいたい。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	疾患の病因と病理学/細胞の増殖と傷害			事前学修:教科書第1章、第2章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			90	30		
2	環境に対する細胞、組織の適応			事前学修:教科書第3章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
3	生体防御反応としての炎症			事前学修:教科書第5章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
4	免疫の基礎と疾患			事前学修:教科書第7章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
5	腫瘍とは:その発生と良性と悪性の鑑別			事前学修:教科書第9章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
6	遺伝と疾患			事前学修:教科書第8章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
7	循環障害:局所的循環障害と全身性循環不全			事前学修:教科書第4章を読む。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
8	これまでの講義を振り返り、病理学を再考する			事前学修:日本人の死因の年次推移に関する資料から、その病因を考える。 事後学修:プリントを復習する。			60	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード()									
教科書	シンプル病理学(改定第8版)・笹野他・南江堂									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb03			
			●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題等	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間	受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	本科目では、小児疾患の原因・病態と、受胎から思春期に至る身体・精神・言語の成長発達段階の理解を通し、小児に認められる代表的な症候とその原因疾患について学修する。特に、小児における疾病と障害、発達過程や回復過程を学ぶ中で、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を修得する。								
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。								
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現(他人に知らせる)することが出来るように努力すること。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病	【事前学修】小児が大人(成人)とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
2	免疫・アレルギー疾患	【事前学修】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
3	感染症	【事前学修】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
4	新生児疾患・呼吸器・循環器疾患	【事前学修】新生児特有の生態を理解しておく。小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
5	消化器・内分泌疾患	【事前学修】消化器の構造、機能および内分泌の仕組み(特にフィードバック)について理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
6	血液・腫瘍疾患	【事前学修】血液の役割、成分について理解しておく。腫瘍とは何か(悪性と良性の相違)を理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
7	腎・泌尿器疾患	【事前学修】腎臓の構造と機能を理解しておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害	【事前学修】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。 【事後学修】とくにありません				40	0		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』前垣 義弘、小倉 加恵子 編、医学書院								
参考文献	特になし								
備考	P T・O T合同授業 課題については適宜フィードバックを行います。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb05				
●										
科目名	内科学				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	内科学では、主に身体の臓器(内臓)を対象とし、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候、症状、原因、特徴、治療などについて学ぶ。循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、血液疾患などの様々な疾患についての理解を深め、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝性疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 循環器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 3. 消化器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 4. 腎泌尿器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 5. 呼吸器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 6. 内分泌疾患の病態と診断・治療について説明できる。 7. 血液疾患の病態と診断・治療について説明できる。 8. 免疫疾患の病態と診断・治療について説明できる。 									
学修者への期待等	第2回から15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1~2日目に講義内容を30分間復習してください。代謝性疾患では前回の講義内容について復習小テストを実施します。									
回	授業計画	準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当			
1	医学への関心度(一般的な医学情報に関する質問)【反転授業】	事前学修:第1回講義資料の予習 事後学修:第1回講義内容の復習			30	30	田林暁一			
2	代謝性疾患Ⅰ:肥満、メタボリック症候群、糖質代謝	事前学修:第2回講義資料の予習 事後学修:第2回講義内容の復習			30	30	田林暁一			
3	代謝性疾患Ⅱ:糖尿病、脂質代謝	事前学修:第3回講義資料の予習 事後学修:第3回講義内容の復習			30	30	田林暁一			
4	循環器疾患1:総論・循環器疾患の病態	事前学修:講義前、授業計画に該当する部分の教科書を一読する。 事後学修:講義後、教科書の該当箇所とレジュメを読んで理解し、内容を復習する。			30	30	西條芳文			
5	循環器疾患2:心不全の診断や治療				30	30	西條芳文			
6	循環器疾患3:虚血性心疾患の診断や治療				30	30	西條芳文			
7	循環器疾患4:末梢動脈疾患の診断や治療				30	30	西條芳文			
8	呼吸器疾患1:総論・呼吸器疾患の病態				30	30	西條芳文			
9	呼吸器疾患2:慢性閉塞性肺疾患の診断や治療				30	30	西條芳文			
10	呼吸器疾患3:間質性肺炎、誤嚥性肺炎の診断や治療				30	30	西條芳文			
11	内分泌疾患(病態・診断・治療)				30	30	西條芳文			
12	消化器疾患(病態・診断・治療)、臓器移植	事前学修:講義前後、該当する部分を予習復習する。特に肝硬変、肝癌 事後学修:同上			30	30	宮城重人			
13	血液疾患(病態・診断・治療)	事前学修:講義前、授業計画に該当する部分の教科書を一読する。 事後学修:講義後、教科書の該当箇所とレジュメを読んで理解し、内容を復習する。			30	30	西條芳文			
14	免疫疾患(病態・診断・治療)				30	30	西條芳文			
15	臓器移植・腎泌尿器疾患(病態・診断・治療)	事前学修:講義前後、該当する部分を予習復習する。特に移植、腎疾患 事後学修:同上			30	30	宮城重人			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり:キーワード(反転授業)									
教科書	『Crosslink basic リハビリテーションテキスト内科学』メジカルビュー社									
参考文献										
備考	P T・O T合同授業 UNIPA上に送信された資料は各自、コンピューターにダウンロードしてきてください。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
(田林) 医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて代謝、呼吸器、循環器、消化器、及び免疫疾患の病態、治療について講義する。 (西條) 医師として5年以上の臨床経験があり、それに基づいて循環、呼吸、内分泌、血液、免疫の病態・診断・治療について講義する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb06			
			●						
科目名	神経学				単位 認定者	平山 和美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		評価の方法
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患を中心に、その病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能、様々な障害やその予後について学修する。特に、脳血管障害、変性疾患や神経筋疾患など神経に障害をきたす疾患についての理解を深め、病理的な知識だけでなく、画像所見も含めた評価や検査及び治療法について学修し、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。								
到達目標	1. 神経系の構造・機能、神経系の各種の障害の病態機序、神経学的診察、診断の方法、各神経疾患の病因、症状、診断、リハビリテーションについて、実演や図を用いて説明できる。 2. MRI、CTなどの脳画像を見て、病変部位を説明できる。								
学修者への期待等	教科書、配付資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。								
回	授業計画				準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1	神経疾患の特徴・神経系の構造				事前学修：教科書14-27ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
2	神経疾患の特徴・神経系の機能				事前学修：教科書23-31ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
3	脳画像の見方				事前学修：事前に配付する資料に目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
4	診察①：意識・脳神経				事前学修：教科書71-74ページおよび事前に配付する資料に目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
5	診察②：筋力・筋緊張・筋萎縮・不随意運動・反射				事前学修：教科書79-93ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
6	診察③：体性感覚・平衡・協調運動・構音・嚥下障害				事前学修：教科書94-98ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
7	高次脳機能障害①：総論、失語(症)				事前学修：教科書107-118ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
8	高次脳機能障害②：失認(症)、失行(症)、記憶障害				事前学修：教科書120-143ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
9	疾患とリハビリテーション①：脳血管障害				事前学修：教科書173-202ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
10	疾患とリハビリテーション②：腫瘍・外傷・脊髄疾患				事前学修：教科書224-231ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
11	疾患とリハビリテーション③：変性疾患				事前学修：教科書253-274ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
12	疾患とリハビリテーション④：脱髄疾患・感染症				事前学修：教科書302-309ページおよび事前に配付する資料に目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
13	疾患とリハビリテーション⑤：中毒栄養欠乏疾患・末梢神経疾患				事前学修：教科書311-315ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
14	疾患とリハビリテーション⑥：筋疾患・神経筋接合部疾患				事前学修：教科書288-300ページに目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
15	神経学の総合的な考え方				事前学修：事前に配付する資料に目を通しておくこと。 事後学修：とくにありません			30	0
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院 ISBN978-260-05667-0								
参考文献									
備考	PT・OT合同授業								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

脳神経内科の医師としての30年以上の臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb07			
			●						
科目名	整形外科学				単位認定者	秋 貴史		試験(筆記)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	運動器には、脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、血管、皮下組織、脊髄および末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態には、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害などの病態と、先天性障害や変形、骨・関節の外傷などの運動器に特徴的な病態がある。本科目では、運動器疾患に関する基礎的な知識を身につけ、運動器疾患の診断、治療について学修する。								
到達目標	1. 整形外科で扱う疾病や外傷、先天性障害の特徴、病態が理解できる。 2. 整形外科疾患に対する診断や治療、リハビリテーションの位置づけについて説明できる。								
学修者への期待	整形外科学の外傷や疾患について学び、予習と復習をおこなってください。また、運動学、機能解剖学、運動学実習および3年次に学ぶ運動器障害理学療法学などの科目と繋がりも意識しながら、整形外科学を学んでください。								
回	授業計画			準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当	
1	整形外科の基礎科学(骨構造と成長、修復と再生)			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
2	診断と検査、治療(保存療法と手術療法)			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
3	感染症と関節リウマチ			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
4	変形性関節症とその類縁疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
5	四肢循環障害と阻血壊死性疾患、先天性疾患、切断			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	石川 圭祐	
6	代謝性骨疾患と骨・軟骨腫瘍			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	石川 圭祐	
7	肩関節疾患・肘関節疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	福嶋 勝大	
8	手疾患・頸椎疾患・胸郭疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
9	胸椎・腰椎疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	秋 貴史	
10	股関節疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	鯉淵 優介	
11	膝関節疾患、足関節と足疾患			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	鯉淵 優介	
12	外傷(骨折、靭帯損傷、脱臼)			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	鯉淵 優介	
13	熱傷・創傷、スポーツ傷害			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	鯉淵 優介	
14	脊髄損傷			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	石川 圭祐	
15	神経筋疾患、末梢神経損傷			講義資料の予習復習をしておくこと(30分程度)		30	30	石川 圭祐	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	「標準整形外科学」医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb08			
科目名	精神医学				単位 認定者	三輪 真也		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	精神医学は、精神機能あるいは精神活動の障害(精神障害)についての医学である。精神機能あるいは精神活動は、一方では脳の高次機能、他方では性格や状況などと関連している。また、現代の疾病構造を理解する上でも、精神疾患の理解は重要である。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療などについて学び、その障害を持つ対象者の理解に必要な基本的事項や、臨床で必要とされる精神医学の知識を修得する。								
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できると共に、実地の対応に活用できる。								
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	こころ(精神)とは何かを学修する(心の構造について理解する)				事前学修:教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
2	こころ(精神)とは何かを学修する(心と環境のかかわりについて理解する)				事前学修:教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する				事前学修:教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める				事前学修:教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
5	神経症性障害について学修する				事前学修:教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	60	
6	心身症について学修する				事前学修:教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する				事前学修:教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	60	
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する				事前学修:教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
9	統合失調症の病態について学修する				事前学修:教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
10	統合失調症の経過と治療について学修する				事前学修:教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	60	
11	気分障害について学修する				事前学修:教科書10章(気分(感情)障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
12	注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について学修する				事前学修:教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
13	器質性精神障害全般について学修する				事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
14	認知症を呈する脳疾患について学修する				事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	60	
15	補足、まとめ				事前学修:第14回に指定のあった教科書範囲を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる		60	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード()								
教科書	『標準心理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』 奈良勲著、医学書院								
参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb09				
			●							
科目名	臨床心理学				単位認定者	村椿 智彦		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	15 %
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		15 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人を対象とする実践的な学問である。心理学の知識と技術を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、問題の解決や改善を目指す。本科目では、臨床心理学の基礎的な理解を目的に、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理アセスメントや代表的理論、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士及び作業療法士として対象者と関わる中で、対象者の心理を理解し、心理的適応援助につながる基礎的な知識を学修する。									
到達目標	臨床心理学の知識を習得して支援を必要とする対象の心理行動的側面を理解できるようになること、そしてそれに基づいて適切な支援をできるようになること。									
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 毎回、小テストを実施するため予習を行うとともに、真摯な態度で受講すること。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	臨床心理学とは		事前学修：教科書p.12～15、66～73を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
2	障害の受容、治療者-患者関係		事前学修：教科書p.76～81を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
3	心理アセスメント		事前学修：教科書p.82～89を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
4	心理検査（人格検査、知能検査、発達検査、認知機能検査）		事前学修：教科書p.90～97を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
5	心理療法の理論と技法（1）精神分析、防衛機制		事前学修：教科書p.74～75、106～107を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
6	心理療法の理論と技法（2）行動療法		事前学修：教科書p.46～49、98～101を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
7	心理療法の理論と技法（3）認知行動療法		事前学修：教科書p.34～35、102～105を通読する。 事後学修：教科書と配付資料を用いて振り返る。				30	30		
8	心理療法の理論と技法（4）来談者中心療法、その他		事前学修：教科書p.108～121を通読する。 事後学修：教科書と配付資料、ノートを用いて振り返る。				30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版』内山靖 他 編 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業時に随時紹介する。									
備考	P T・O T合同授業 課題については適宜フィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb13					
		●	●								
科目名	言語聴覚療法概論				単位認定者	櫻庭 ゆかり		試験(筆記)	70	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	10	%
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間		受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業回数	8 回				
授業の概要	<p>リハビリテーションを行う上で、様々な障害を抱えた対象者に対して、多数の医療関連職種が連携し、対象者の障害にあわせた支援を提供している。特に、理学療法士及び作業療法士が、言語療法について学修する意義は大きい。言語聴覚障害では、コミュニケーションに必要な言語や聴覚の機能が低下し、当事者が自分の問題を訴えることが難しいことが多い。本科目では、言語聴覚障害や、障害に付随して生じる問題の理解と専門的な対応について学ぶ。また、全ての障害領域に共通した診療理念、評価や治療を含む、臨床の進め方、その他の医療関連職種との連携について学修する。</p>										
到達目標	臨床現場で出会う可能性の高い言語聴覚障害について理解し、対象者にとって望ましいコミュニケーション方法を選択できる。										
学修者への期待等	専門科目の一領域という気持ちで積極的に学んでください。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)			
1	失語症とは何か			事前学習 テキスト「失語症」の解説部分に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
2	失語症者とのコミュニケーション グループワークによる体験学習			事前学習 配付資料に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
3	運動障害性構音障害とはなにか グループワークによる体験学習			事前学習 テキスト「運動障害性構音障害」の解説部分に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
4	運動障害性構音障害者とのコミュニケーション グループワークを含む			事前学習 配付資料に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
5	聴覚障害と聴覚補償 グループワークを含む			事前学習 テキスト「聴覚障害」の解説部分に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
6	摂食嚥下障害 グループによる体験学習			事前学習 テキスト「摂食嚥下障害」の解説部分に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
7	摂食嚥下障害②グループワーク を含む			事前学習 配付資料に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
8	学習障害について グループワークを含む			事前学習 テキスト「学習障害」の解説部分に目を通しておくこと。 事後学習 再読して説明できるようにすること。			30	30			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）										
教科書	『図解 やさしくわかる言語聴覚障害』 ナツメ社 小嶋知幸編著										
参考文献											
備考	PT・OT合同授業。課題については授業内・UNIPA等でフィードバックを行います。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当者は言語聴覚士として30年以上の臨床経験を有する

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFc02			
科目名	チームアプローチ入門				単位認定者	外里 富佐江 高橋 由美 金谷 さとみ 由美		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	OT	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	包括的なりハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療とは何かを説明できる チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる 自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する 								
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当				
1	チーム医療・患者中心の医療とは	事前課題:教科書 第1章 (p1-6) を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江				
2	チーム医療におけるコミュニケーション	事前課題:教科書 第1章 (p7-17) を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江				
3	看護師の役割・専門性について	事前学修:教科書3章A~Fを読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	高橋 由美				
4	理学療法士の役割・専門性について	事前学修:教科書 第1章 (p21~38) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	金谷 さとみ				
5	作業療法士の役割・専門性について	事前課題:教科書第3章 (p103-119) を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江				
6	チーム医療の実際①:看護師からの視点	事前課題:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	高橋 由美				
7	チーム医療の実際②:理学療法士からの視点	事前課題:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	金谷 さとみ				
8	チーム医療の実際③:病院	事前課題:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	金谷 さとみ				
9	チーム医療の実際④:作業療法士からの視点	事前課題:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江				
10	チーム医療の実際⑤:在宅、地域医療	事前課題:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後課題:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江				
11	事例検討 [1] 事例提示		30	30	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江				
12	事例検討 [2] グループワーク	事前・事後課題:これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む	30	30	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江				
13	事例検討 [3] 発表準備		30	30	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江				
14	事例検討 [4] 発表1		30	30	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江				
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ	事前課題:グループワーク・発表内容を振り返る 事後課題:グループワーク・発表からの学びについてレポート提出	30	60	高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江				
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり:キーワード(グループワーク、課題解決型学習)								
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂 ISBN:978-4-524-26802-3								
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベリック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版								
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 第1~6回、第11~15回は五橋キャンパス、第7~10回は長町キャンパスで実施する予定です。 本科目は看護学科と合同で実施します。・PT・OT合同授業。 								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師、理学療法士、作業療法士(病院等に5年以上勤務)として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
2年生

- 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02				
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位 認定者	大和田 宏美		授業内課題 (レポート等)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題 (発表)	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる 									
学修者への期待等	入学時の理学療法士像と1年間理学療法を学んでからの理学療法士像の違いについて改めて考えてください。コミュニケーション能力の向上は理学療法士への第一歩です。コミュニケーションスキルを学び、対話の重要性について積極的に学ぶことを期待します。									
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)				
1	【1～2年生合同】理学療法を学ぶ意義	事前学修：1年次に学んだ理学療法についてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
2	【1～2年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション	事前学修：理学療法を学ぶことの意義について自分の考えも含めてまとめておく。 事後学修：討論した内容をまとめる。			30	30				
3	理学療法とは何か 理学療法の種類①グループワーク	事前学修：理学療法の種類について調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
4	理学療法とは何か 理学療法の種類②発表	事前学修：理学療法の種類についてまとめて発表の準備をしておく。 事後学修：他の発表の内容をまとめる。			30	30				
5	理想とする理学療法像は何か①グループワーク	事前学修：自分の理想の理学療法像について考えをまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
6	理想とする理学療法像は何か②発表	事前学修：理想の理学療法像についてまとめて発表の準備をしておく。 事後学修：他の発表の内容をまとめる。			30	30				
7	コミュニケーションとは何か	事前学修：コミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
10	コミュニケーション能力③(伝える力)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミラーリング、ペーシング、質問の仕方)	事前学修：左記のコミュニケーションについて調べてまとめておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる。			30	30				
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワークやディスカッションで自らの主張や議論を展開する)									
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房 ISBN978-4-7710-3822-6									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	【担当教員】 網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、大友 篤 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治 授業内で担当教員から課題内容についてフィードバックを行います。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、いずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、理学療法をおこなう上での実践的なコミュニケーションスキルを教授することが可能である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMc01				
			●							
科目名	理学療法評価学				単位認定者	原 和彦		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
						授業時間数	15 時間		授業内課題 (レポート等)	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	適切な理学療法が提供されるためには、正確な評価方法に関する知識と技術を身につける必要がある。本科目では、理学療法評価における検査・測定に関する知識を修得し、理学療法評価の目的と意義および評価方法と評価の流れについて学修する。									
到達目標	1. 理学療法評価の意義、目的について理解すること。 2. 各評価項目についての基本的な方法や解釈について説明・実施できるようになること。									
学修者への期待等	その人の自立生活再建のための治療介入を行う上での目標設定、効果検証、治療計画、目標の再修正などをダイナミックな環境で行い、かつ与えられた時間内で実施することを想定して、各評価項目の実施イメージを持つ基本的な学習態度があることを期待している。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)			
1	評価の基礎、構成要素		事前学習：指定教科書、第1章p18-28までを予習すること。 事後学習：UNIPA提示した講義資料を復習すること。			30	30			
2	評価の意義、目的		事前学習：指定教科書、第1章p18-28まで、UNIPAに提示資料を予習すること。 事後学習：UNIPA提示した講義資料を復習すること。			30	30			
3	評価に必要な基本情報、評価の進め方		事前学習：指定教科書、第2章p29-78まで予習すること。 事後学習：UNIPA提示した講義資料を復習すること。			30	30			
4	医療面接と情報収集		事前学習：指定教科書、第2章p37-52まで予習すること。 事後学習：UNIPA提示した講義資料を復習すること。			30	30			
5	症例に基づく評価の進め方① 検査項目列挙まで(検査の意義含む)		事前学習：指定教科書、第8章p432-444まで予習すること。 事後学習：UNIPA提示した講義資料を復習すること。その他教科書、参考文献より抜粋した資料、出典を確認すること			30	30			
6	症例に基づく評価の進め方② 検査測定の流れ、判断・解釈まで					30	30			
7	症例に基づく評価の進め方③ 統合と解釈まで(問題点抽出を含む)					30	30			
8	症例に基づく評価の進め方④ 治療プログラム立案まで(ゴール設定含む)					30	30			
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」羊土社、ISBN 978-4-7581-0245-2									
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学第3版」標準理学療法学 医学書院、ISBN978-4-26 0-03639-9									
備考	授業中または次回講義時に適宜授業内で課題を課し、解説を行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は医療福祉関連施設(大学病院、一般病院)での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入や予後予測、治療効果判定を行う上で必要となる基本的な理学療法評価の考え方を講義する。

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
			●		

科目名	基礎理学療法評価学実習				単位 認定者	坂上 尚穂		評価の 方法	試験（実技）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆記）	40 %
						授業時間数	40 時間		授業内課題 （小テスト）	10 %
				授業形態	実習	授業回数	20 回			

授業の概要 本科目では、臨床現場で求められる、安全かつ正確で迅速な検査・測定について、実習を通して学修する。理学療法の臨床において最も一般的である関節可動域検査と、徒手筋力検査の目的や意義、方法に関する基礎知識を修得するとともに、その基本技術を身につけ、判断解釈についても学ぶ。

到達目標
 1. 検査・測定の目的・意義を説明でき、検査・測定を実践できるようになる。
 2. 検査・測定の実践の中で丁寧な対処（声がけ・触れ方・動かし方）ができるようになる。

学修者への期待等 基本的な検査・測定の技法を修得するために、自主的に練習する必要がある。理学療法にとって必須の検査であり、3年次の臨床実習の際に、最低限のことが実施できるよう、予習・復習を学生同士で行うこと。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	形態測定① 四肢長	事前学修 「リハビリテーション基礎評価学」 該当箇所を予習し、計測方法を覚えて 授業に臨んでください。	30	30	坂上 尚穂 小関 友記
2	形態測定② 四肢周径	事後学修 検査の意義・方法について振り返り を行ってください。	30	30	坂上 尚穂 小関 友記
3	関節可動域検査① 総論	事前学修 「リハビリテーション基礎評価学」 P 237を読んで運動の方向、基本軸、 移動軸、参考可動域を覚えて授業に 臨んでください。	30	30	坂上 尚穂 小関 友記
4	関節可動域検査② 股関節	事後学修 検査の意義・方法について振り返り を行ってください。	30	30	坂上 尚穂 小関 友記
5	関節可動域検査③ 膝関節、足関節		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
6	関節可動域検査④ 肩関節		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
7	関節可動域検査⑤ 肩甲帯、肘関節、前腕		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
8	関節可動域検査⑥ 手関節、手指		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
9	関節可動域検査⑦ 頸部		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
10	関節可動域検査⑧ 体幹		30	30	坂上 尚穂 小関 友記
11	徒手筋力検査① 総論	事前学修 「新・徒手筋力検査法」の該当箇所 を予習し、各検査の運動の方向、主 動作筋とその起始停止、支配神経、 神経レベルを覚えて授業に臨んでく ださい。	30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
12	徒手筋力検査② 股関節	事後学修 検査の意義・方法について振り返り を行ってください。	30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
13	徒手筋力検査③ 膝関節、足関節		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
14	徒手筋力検査④ 肩甲骨		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
15	徒手筋力検査⑤ 肩関節		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
16	徒手筋力検査⑥ 肘関節、前腕	事前学修 「新・徒手筋力検査法」の該当箇所を予習し、各検査の運動の方向、主動作筋とその起始停止、支配神経、神経レベルを覚えて授業に臨んでください。 事後学修 検査の意義・方法について振り返りを行ってください。	30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
17	徒手筋力検査⑦ 手関節		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
18	徒手筋力検査⑧ 手指、母指		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
19	徒手筋力検査⑨ 頭頸部、体幹		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
20	徒手筋力検査⑩ 顔面		30	30	佐々木 広人 伊藤 大亮
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ペアワーク）				
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」潮見泰蔵ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0245-2 「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版、ISBN 978-4-7639-0041-8				
参考文献	「図解理学療法検査・測定ガイド 第3版」内山靖編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4704-8 「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版」内山靖編、医学書院、ISBN 978-4-260-26676-5				
備考	AB別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 講義により、小テストや課題を課す場合がある。その場合は、次回講義時に返却・解説する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし理学療法評価の意義を理解し、基礎的な評価技術を修得することで、臨床実習に繋げることができるような授業を行います。

1	2	3	4	5
人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
		●		

科目名	運動器障害理学療法評価学実習				単位認定者	伊藤 大亮 大友 篤		評価の方法	試験(実技)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験(筆記)	40 %
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間	授業内課題 (レポート等)
							授業回数		20 回	

授業の概要
 本科目では、主として整形外科疾患の病態を把握するための検査手技や運動器障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、運動器障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、運動器障害における理学療法評価について学修する。

- 到達目標**
1. 運動器障害に対する各種評価の意義、方法、結果の解釈ができるようになる。
 2. 各運動器系の検査を実践できるようになる。

- 学修者への期待等**
- ・本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。
 - ・講義内でのグループ学修を主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。
 - ・講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	運動器障害における理学療法評価総論	事前学修：配付資料「総論」の予習 事後学修：配付資料「総論」の復習	30	30	佐々木 広人
2	疼痛の評価(運動器に関連した疼痛評価)	事前学修：配付資料「疼痛評価」の予習 事後学修：配付資料「疼痛評価」の復習	30	30	佐々木 広人
3	筋力の評価	事前学修：配付資料「筋力の評価」の予習 事後学修：配付資料「筋力の評価」の復習	30	30	佐々木 広人
4	持久力の評価	事前学修：配付資料「持久力評価」の予習 事後学修：配付資料「持久力評価」の復習	30	30	佐々木 広人
5	姿勢評価の意義、異常姿勢	事前学修：配付資料「姿勢の評価」の予習 事後学修：配付資料「姿勢の評価」の復習	30	30	佐々木 広人
6	アライメント評価 静的アライメント	事前学修：配付資料「アライメント評価」の予習 事後学修：配付資料「アライメント評価」の復習	30	30	佐々木 広人 大友 篤
7	アライメント評価 動的アライメント	事前学修：配付資料「アライメント評価」の予習 事後学修：配付資料「アライメント評価」の復習	30	30	佐々木 広人 大友 篤
8	アライメント評価の症例検討 グループワーク	事前学修：グループワーク・発表準備 事後学修：発表のまとめ	30	30	佐々木 広人 大友 篤
9	上肢運動器系の検査 肩関節	事前学修：配付資料「上肢運動器検査・肩関節」の予習 事後学修：配付資料「上肢運動器検査・肩関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
10	上肢運動器系の検査 肘関節	事前学修：配付資料「上肢運動器検査・肘関節」の予習 事後学修：配付資料「上肢運動器検査・肘関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
11	上肢運動器系の検査 手関節	事前学修：配付資料「上肢運動器検査・手関節」の予習 事後学修：配付資料「上肢運動器検査・手関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
12	下肢運動器系の検査 股関節	事前学修：配付資料「下肢運動器検査・股関節」の予習 事後学修：配付資料「下肢運動器検査・股関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
13	下肢運動器系の検査 股関節・膝関節	事前学修：配付資料「下肢運動器検査・膝関節」の予習 事後学修：配付資料「下肢運動器検査・膝関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
14	下肢運動器系の検査 膝関節	事前学修：配付資料「下肢運動器検査・膝関節」の予習 事後学修：配付資料「下肢運動器検査・膝関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当
15	下肢運動器系の検査 足関節	事前学修：配付資料「下肢運動器検査・足関節」の予習 事後学修：配付資料「下肢運動器検査・足関節」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
16	脊柱・骨盤の検査 頸部	事前学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 頸部」の予習 事後学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 頸部」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
17	脊柱・骨盤の検査 腰部	事前学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習 事後学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 腰部」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
18	脊柱・骨盤の検査 骨盤	事前学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 骨盤」の予習 事後学修：配付資料「脊柱・骨盤の検査 骨盤」の復習	30	30	伊藤 大亮 大友 篤
19	医用画像を含む症例検討（臨床推論 評価）	事前学修：配付資料「まとめ」の予習 事後学修：配付資料「まとめ」の復習	30	30	佐々木 広人 大友 篤
20	医用画像を含む症例検討（臨床推論 まとめ）	事前学修：配付資料「まとめ」の予習 事後学修：配付資料「まとめ」の復習	30	30	佐々木 広人 大友 篤
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ 症例検討グループワークで自らの主張や議論をする ）				
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第2版」下田信明他編、羊土社 ※基礎理学療法評価学実習と同じ教科書を使用する。				
参考文献	「PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査」伊藤俊一監修、三輪書店 「運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ・Ⅱ」David J. Magee、エルゼビア・ジャパン 「図解理学療法検査・測定ガイド」第2版 奈良勲、内山靖、文光堂 「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」市橋則明、文光堂 「理学療法評価学」改訂第6版 松澤正、江口勝彦、金原出版株式会社				
備考	AB別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課すことがある。 その場合は、次回講義時に返却・解説する。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において運動器障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd10				
			●							
科目名	物理療法学				単位認定者	網本 和		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	理学療法において物理療法は、運動療法と同様に有効な治療法の一つである。本科目では、物理療法の基本知識である物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌について学修する。物理療法の各機器と生理学的作用を理解することで、各疾患や障害に適した物理療法を選択し、正しく使用するための方法とその効果判定についても学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各物理療法の生理的効果・作用および禁忌を物理的特性に基づいて説明できるようになる。 理学療法対象者に対し、適応疾患と禁忌・効果を考慮し、適切な物理療法を選択できるようになる。 									
学修者への期待	使用するテキストには、適宜WEB動画が配置されているので予習時に見ておくことが望ましい。									
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当			
1	物理療法と温熱療法の概要	事前学修：テキスト2ページから10ページ、30ページから44ページを予習すること。			30	30	網本 和			
2	温熱療法(ホットパック・パルフィン浴)	事後学修として復習すること			30	30	網本 和			
3	電磁波療法の概要	事前学修：テキスト45ページから51ページを予習すること 事後学修：事後学修として復習すること			30	30	伊橋 光二			
4	超音波療法(超短波・極超短波・ダイアサーミー)	事前学修：テキスト52ページから61ページを予習すること 事後学修：事後学修として復習すること			30	30	伊橋 光二			
5	光線療法(赤外線・紫外線・レーザー)	事前学修：テキスト204～233を予習すること。 事後学修として復習すること。			30	30	網本 和			
6	寒冷療法(コールドパック・コールドバッグ・アイスクリッカー)	事前学修：テキスト74ページ～89ページを予習すること。 事後学修として復習すること。			30	30	網本 和			
7	水治療法(過流浴・気泡浴)	事前学修：テキスト90ページから105ページを予習すること。 事後学修として復習すること。			30	30	網本 和			
8	牽引療法	事前学修：テキスト256ページから269ページを予習すること。 事後学修として復習すること。			30	30	網本 和			
9	電気刺激療法の概要				30	30	伊橋 光二			
10	電気刺激療法①(TES・EMS・TENS)	事前学修：テキスト106ページから185ページを予習すること 事後学修：事後学修として復習すること			30	30	伊橋 光二			
11	電気刺激療法②(干渉波・SSP・PHV・MCR・FES)				30	30	伊橋 光二			
12	骨折に対する物理療法				30	30	網本 和			
13	LBPに対する物理療法	事前学修：UNIPAに事前に資料を配布するので予習すること。 事後学修として復習すること。			30	30	網本 和			
14	OAに対する物理療法				30	30	網本 和			
15	スポーツ外傷に対する物理療法				30	30	網本 和			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(症例情報をもとに適切な物理療法を選択する)									
教科書	標準理学療法学「専門分野」物理療法学 第6版 医学書院									
参考文献										
備考	適宜授業内で振り返りの課題(授業内レポート)を課すので、その都度フィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd11				
科目名	物理療法学演習				単位 認定者	伊橋光二 小関友記		試験(実技)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	10 %
					演習	授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、物理療法学で学修した知識をもとに、実際の物理療法機器の使用法や治療の実際について学修する。また、症例基盤型学習(CBL: Case Based Learning)を実施し、実際の患者に対して実施することを想定した演習を行うことで、使用法、注意事項を含め実践的な技術を身につけることを目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各物理療法の生理的効果・作用、実施上の注意点を踏まえ適切に実施できるようになる。 各物理療法の禁忌を踏まえリスク管理を行うことができるようになる。 患者さんに対する治療を実施する際の説明や患者に合わせた説明ができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 演習の各項目について事前に手引きを確認し、時間内に実施できるように準備する。 実施した物理療法に対する生体の反応を計測し、客観的に把握できるようになる。 実際に臨床で実践できるように授業以外の時間も利用して繰り返し練習すること。 									
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当		
1	物理療法を実施する際の注意			事前学修: 配付資料 (UNIPA) を予習する 事後学修: 実施要項を確認して次回からの実技に備える		30	30	網本 和		
2	温熱療法 (ホットパック・パラフィン浴) の実践			事前学修: 各項目をグループごとに毎週順番に実施するので、手引きの該当部分を予習する。 事後学修: 実施した項目のレポートを作成し提出する。		30	30	大友 篤		
3	電磁波療法 (超短波・極超短波) の実践					30	30	大友 篤		
4	超音波療法 (超短波・極超短波・ダイアサーミー) の実践					30	30	大友 篤		
5	光線療法 (赤外線・紫外線・レーザー) の実践					30	30	小関 友記		
6	寒冷療法 (コールドパック・アイスリッカー) の実践					30	30	小関 友記		
7	水治療法 (過流浴・気泡浴) の実践					30	30	小関 友記		
8	牽引療法の実践					30	30	小関 友記		
9	電気刺激療法① (NMES・FES) の実践					30	30	伊橋 光二		
10	電気刺激療法② (TENS・SSP) の実践					30	30	大友 篤		
11	電気刺激療法③ (干渉波・PHV・MCR) の実践					30	30	大友 篤		
12	骨折に対する物理療法の実践					事前学修: 物理療法学 (前期) 第12回を復習する 事後学修: 症例検討を行う。	30	60	大友 篤	
13	OAに対する物理療法の実践			事前学修: 物理療法学 (前期) 第13回を復習する 事後学修: 症例検討を行う。	30	60	大友 篤			
14	LBPに対する物理療法の実践			事前学修: 物理療法学 (前期) 第14回を復習する 事後学修: 症例検討を行う。	30	60	小関 友記			
15	スポーツ外傷に対する物理療法の実践			事前学修: 物理療法学 (前期) 第15回を復習する 事後学修: 症例検討を行う。	30	60	小関 友記			
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり: キーワード (物理療法機器の体験ならびに実技練習を通じて、手技体得を目指します。)									
教科書	標準理学療法学「専門分野」物理療法学 第6版 医学書院									
参考文献	演習の手引きを配付する (UNIPA)									
備考	A B別2クラス 各物理療法の実践においては実施記録を作成する。作成した記録に対し適宜フィードバックを講義内にて実施する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と、理学療法士資格を有しており、その経験を活かして学生が物理療法学について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd14				
			●							
科目名	日常生活活動学				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM (Functional Independence Measure) やBI (Barthel Index) などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具(クッション、移乗補助器具)などの基本的な知識について学修する。</p>									
到達目標	<p>1. 日常生活活動学 (ADL) の概念や範囲、ADLと生活の質 (QOL) の関係性を理解することができる。 2. 標準化された評価 (FIMやBI) の採点基準を理解し、ある程度の助言下で利用することができる。 3. ADLを支援する機器や環境についての視野を広げることができる。</p>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしい。 日常生活活動学は、他の科目と非常に関連性のある科目である。他科目との関連性を考慮した予習・復習を期待あしたい。 									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	ADLの概念や範囲、ADLとQOLの関係性			教科書P1～P19を読んでまとめる			30	30		
2	ADLと障害 (ICIDHとICF)			教科書P21～P36を読んでまとめる			30	30		
3	できるADL (BI) の評価 IADL評価とその重要性			教科書P37～P43を読んでまとめる			30	30		
4	しているADL (FIMセルフケア・排泄管理・移乗) の評価			教科書P45～P54のセルフケア・排泄管理・移乗の部分を読んでまとめる			30	30		
5	しているADL (FIM移動・コミュニケーション・社会的認知) の評価とその他ADL評価法			教科書P55～P69のFIMの部分を読んでまとめる			30	30		
6	ADLの運動学的分析に必要なバイオメカニクス			教科書P71～P83の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30		
7	姿勢の名称と姿勢分析のポイントと介入			教科書P85～P91の基本動作1の部分を読んでまとめる			30	30		
8	ADLを支援する機器 (食事・整容・更衣・入浴動作関連)			教科書P93～P104の基本動作2の部分を読んでまとめる			30	30		
9	ADLを支援する機器 (トイレ・起居・移乗動作関連)			教科書P107～P104の基本動作3の部分を読んでまとめる			30	30		
10	歩行の重要性と歩行補助具の名称と役割			教科書P107～P114の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30		
11	車いす (名称、分類、基本寸法、周辺用具)			車いすについて調べる (30分程度)			30	30		
12	福祉用具支給制度とその他支援機器 (ECS、意思伝達装置、介護ロボットなど)			教科書P125～P146のセルフケア、ADLを支援する機器の部分を読んでまとめる			30	30		
13	生活環境とADL、QOLの関係性			教科書P149～P156の住環境整備の部分を読んでまとめる			30	30		
14	生活環境と法的諸制度			教科書P157～P173の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30		
15	生活環境としての住宅と住宅改修			教科書P174～P184の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()									
教科書	南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 ISBN : 978-4-524-24578-9									
参考文献										
備考	授業内課題は、次回の授業時に返却・解説する。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、経験に基づく実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●	●	

科目ナンバリング
RPMd15

科目名	日常生活活動学実習				単位 認定者	金谷さとみ 小関友記		評価の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（実技）	30 %
						授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	20 回			

授業の概要
ADLはリハビリテーション専門職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。本科目は、日常生活活動学で学んだ知識を活かし、日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解し、より実践的な疾患別のADL介助やADL指導方法について学修する。寝返り動作や起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、歩行補助具である杖・松葉杖・車いすにおける選び方や使用方法の実際を実践する。

到達目標
1. 基本動作を中心とした各動作の介助・指導を行うことができる。
2. 日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解できる。

学修者への期待等
・基本的介助誘導の講義では、動きやすい服装で参加してください。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	日常生活活動学の必要性	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	金谷 さとみ
2	寝返り・起き上がり動作の基本的介助・誘導	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：実技修得できるよう練習する	30	60	森永 雄
3	起立・移乗動作の基本的介助・誘導		30	60	森永 雄
4	ベッド上移動・車いす移動の基本的介助・誘導		30	60	森永 雄
5	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（T-cane、Q-cane）		30	60	小関 友記 森永 雄
6	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（松葉杖）の基本的介助・誘導		30	60	小関 友記 森永 雄
7	車いす上移動の基本的介助・誘導		30	60	森永 雄
8	脳血管疾患におけるADL指導の実際（基本動作中心）		事前学習：指定教科書p38-95をよく読み、予習する 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する	30	30
9	脳血管疾患におけるADL指導の実際（生活関連動作中心）	30		30	小関 友記
10	神経筋疾患におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	坂上 尚穂
11	神経難病におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	坂上 尚穂
12	呼吸器・循環器疾患におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	未定

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当
13	関節リウマチにおけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	鈴木 裕治
14	人工股関節全置換術後におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する。 事後学習：授業内容を復習する。	30	30	未定
15	脊髄損傷（四肢麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p96-159をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
16	脊髄損傷（対麻痺）におけるADL指導の実際	事前学習：指定教科書p160-173をよく読み、予習する。 事後学習：講義内容を復習し、実技修得できるよう練習する。	30	30	小関 友記
17	症例検討（整形外科疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
18	グループワーク（整形外科疾患）		30	30	小関 友記
19	症例検討（脳血管疾患）	事前学習：UNIPAに投稿された事前資料を予習する 事後学習：講義内容を復習し、症例に応じたADLを立案できるようにする	30	30	小関 友記
20	グループワーク（脳血管疾患）		30	30	小関 友記
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	羊土社 PT・OTビジュアルテキストADL 第2版 ISBN：978-4-524-24578-9				
参考文献					
備考	A B別2クラス 【評価】試験（実技）30%は随時試験であり、「2-7回の基本的介助・誘導（森永）」から出題し、態度・技能・表現の3要素から採点を行う。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は医療機関等で理学療法士として35年以上の実務経験を有しており、経験を生かして実践的な指導が可能です。

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
2年生

- 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROFb01			
			●						
科目名	精神医学演習				単位認定者	三輪 真也		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	精神医学で学修した内容をもとに、作業療法士の対象疾患について、疾患別の病因、病態、診断、治療などを系統的に学修する。精神障害は行為を制限し、生活の質(QOL)の低下をもたらすことから、疾病の診断・医学的治療や作業療法のみならず、生活支援も含む内容を学修する。								
到達目標	各疾患に罹患した患者の姿が具体的にイメージできること、患者が主観的にどのような体験をしているのか推測できること								
学修者への期待等	作業療法の現場に出ても戸惑うことのないように、実際の患者のイメージが持てるよう、集中して受講してください。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	こころ(精神)とは何かを学修する(心の構造と環境への適応について復習し理解を深める)		事前学修:教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
2	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態における心の機能水準の違いを復習し、各病態の理解を深める。		事前学修:教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
3	統合失調症の病態・経過・治療について概観し、理解を深める。		事前学修:教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
4	統合失調症患者の具体像が理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	60		
5	統合失調症患者の具体像が理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	60		
6	気分障害について概観し、理解を深める。		事前学修:教科書10章(気分(感情)障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
7	気分障害患者の具体像が理解できるよう、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書10章(気分(感情)障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	60		
8	器質性精神障害全般について概観し、理解を深める。		事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
9	認知症を呈する脳疾患について概観し、理解を深める。		事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
10	認知症患者の具体像が理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
11	認知症患者の具体像が理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
12	発達特性に関する理解を深め、注意欠如多動症や自閉スペクトラム症を理解する。		事前学修:教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
13	特異な発達特性を有する患者の具体像を理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
14	特異な発達特性を有する患者の具体像を理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。		事前学修:教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達障害)を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	30		
15	補足、まとめ		事前学修:第14回に指定のあった教科書範囲を読む 事後学修:配布資料を再読し、理解を深め定着させる			60	60		
アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード()								
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』 奈良 勲 著、医学書院								
参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02					
	●	●	●	●							
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位認定者	酒井 弘美		授業内課題 (レポート等)	60	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表)	40	%
						授業形態	演習		授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回				
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。										
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる 6. 学生間、学年間でお互いに助け合い、円滑に議論を進めることができる										
学修者への期待等	自分と他者の考えやその表現方法の違いなどについて、できるだけ理解しようと心がけながら参加してほしい。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)			
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
3	作業療法とは何か 作業療法の種類①グループワーク				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
4	作業療法とは何か 作業療法の種類②発表				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
5	理想とする作業療法像は何か①グループワーク				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
6	理想とする作業療法像は何か②発表				事前学修：特になし 事後学修：課題がある場合、提示された課題を行う。		0	30			
7	コミュニケーションとは何か				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
10	コミュニケーション能力③(伝える力)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミーティング、ペーシング、質問の仕方)				事前学修：特になし 事後学修：学んだことを日常のコミュニケーションで意識する。		0	0			
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループワーク、ディスカッション、発表)										
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 湯口 恭子 晃洋書房										
参考文献	適宜、紹介する。										
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、酒井 弘美、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 授業内課題の発表については授業内で講評を行う。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員はいずれも、作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、豊かな臨床経験をもとに、より実践的な教育が可能である

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc01				
			●							
科目名	作業療法評価学				単位 認定者	酒井 弘美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	作業療法 (Occupational Therapy;OT) にとって評価は重要とされている。対象者の障害や予後予測を踏まえた上で、対象者の生活課題を明らかにするための評価の実践が行えるよう、評価の目的と概要について学ぶ。また、各領域で実施する、医用画像を含む情報収集、面接、観察、効果判定、記録・報告など一連の流れと手法について理解する。									
到達目標	1. 作業療法評価の意義や目的を説明できる 2. 作業療法評価の進め方について説明できる 3. 面接、観察、検査・測定それぞれの要点について説明できる									
学修者への期待等	作業療法評価の学修にあたり、各回に予習・復習を行うことで内容を十分理解し、作業療法評価の演習授業につながるよう、積極的に授業に取り組むことを期待する。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)		
1	作業療法評価の意義、目的について			事前学修：1年次に学修した作業療法概論の授業資料を見直し、作業療法について再確認しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
2	作業療法評価のプロセス			事前学修：1年次に学修した作業療法概論の授業資料を見直し、作業療法評価について再確認しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
3	面接評価、作業プロフィール			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
4	観察評価（動作分析、活動分析、作業遂行分析）			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
5	検査・測定（医用画像評価含む）			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
6	クリニカルリーズニング（臨床的推論）			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
7	生活行為向上マネジメント（MTDLP）			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
8	評価記録の作成			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：ノート、配布資料を用いて、授業内容の復習をすること			30	30		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、シュミレーション演習）									
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト、リハビリテーション評価学」羊土社									
参考文献	適宜紹介する									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合リハビリテーションセンター等で20年以上の臨床経験がある。また、40年間、地域での作業療法にも関わってきたため、実務的な現場で求められる作業療法評価について教育することが可能である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc02	
			●				
科目名	身体障害作業療法評価学演習 I				単位 認定者	酒井弘美 戸田祐子	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位
					授業形態		演習
授業の概要	対象者の身体機能障害を評価するために必要な基礎的な知識と実践的な技術を学修する。バイタルサインの測定に加え、身体障害作業療法の臨床で広く用いられる、形態計測や関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、筋緊張検査、反射検査等について、評価の意義や目的、方法、記録、結果の解釈について学修、修得する。また、評価手技の実習を通して、対象者が安心・安楽に評価を受けるためのコミュニケーションについても学ぶ。						
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる						
学修者への期待等	対象者の身体機能における課題と強みを知るために正確な評価は欠かせません。評価の目的を知ったうえで授業に臨んでください。授業開始前に事前学習について質問しますので準備し臨みましょう。また、復習も行い評価の技能の習得を心がけてください。この授業は実技になりますので、動きやすい服装で参加ください。						
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	全身確認、バイタル測定：呼吸・血圧・意識障害	事前学修：教科書第3章 P79～95を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	酒井 弘美 齋藤 佑樹
2	形態計測：四肢長、周径、体格指標	事前学修：教科書第5章 P162～176を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
3	関節可動域測定①：上肢	事前学修：教科書第5章 P218～222、P226～232、P237を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
4	関節可動域測定②：下肢	事前学修：教科書第5章 P233～240を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
5	関節可動域測定③：体幹	事前学修：教科書第5章 P233～225、P237、P240を読んで授業に臨むこと (30分程度) 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
6	関節可動域測定④：まとめ	事前学修：これまでの復習をして授業に臨むこと 事後学修：理解の不十分なところの資料、ノートを見直すこと			60	30	戸田 祐子 高橋 慧
7	筋力検査①：上肢	事前学修：教科書第5章 P242～P254、P260～269を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
8	筋力検査②：下肢	事前学修：教科書第5章 P269～278を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
9	筋力検査③：体幹	事前学修：教科書第5章 P255～259を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
10	筋力検査④：まとめ	事前学修：これまでの復習をして授業に臨むこと 事後学修：理解の不十分なところの資料、ノートを見直すこと			60	30	戸田 祐子 高橋 慧
11	感覚検査①：表在感覚	事前学修：教科書第5章 P177～187を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
12	感覚検査②：深部感覚	事前学修：教科書第5章 P187～194を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
13	筋緊張検査	事前学修：教科書第5章 P213～217を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
14	深部腱反射	事前学修：教科書第5章 P203～212を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
15	姿勢反射	事前学修：教科書第5章 P279～307を読んで授業に臨むこと 事後学修：授業内容の確認をし、学修した評価手技を練習すること			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (実技、実習)						
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版」潮見泰藏、下田信明 編集 羊土社 「新・徒手筋力検査法」Dale Avers 著 Marybeth Brown 著 津山直一 訳 中村耕三 訳 協同医書出版						
参考文献							
備考	授業内で実技 (技術) 確認テストを行い、フィードバックします。						

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 担当教員は全員作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、評価手技についての授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc03		
●								
科目名	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ				単位 認定者	齋藤 佑樹		
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	
					授業形態	演習	授業時間数	30 時間
							授業回数	15 回
授業の概要	身体障害作業療法評価学演習Ⅰに引き続き、対象者の身体機能障害を評価するために必要な基礎的な知識と実践的な技術を学修する。本科目では、片麻痺機能検査（BRS、上田式、FMA）、上肢機能検査（STEF、MFT）、協調性検査、脳神経検査等に加え、対象者の大切な作業を特定するための面接評価、作業遂行の質を評価するための観察評価について、評価手技の実施を通して、対象者が安心・安楽に評価を受けるためのコミュニケーションについても学ぶ。							
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる							
学修者への期待等	臨床場面で使用頻度の高い評価について学びます。積極的な参加態度および十分な予習復習を期待します。							
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	片麻痺機能検査①：BRS、上田式			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
2	片麻痺機能検査②：BRS、上田式、まとめ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
3	片麻痺機能検査①：FMA			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
4	片麻痺機能検査②：FMA、まとめ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
5	上肢機能検査①：STEF			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
6	上肢機能検査②：MFT			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
7	協調性検査①：SARA			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
8	協調性検査②：SARA、まとめ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
9	脳神経検査①：Ⅰ～Ⅵ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
10	脳神経検査②：Ⅶ～Ⅻ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	戸田 祐子 高橋 慧
11	面接評価①：ADOC、COPM			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 高橋 慧
12	面接評価②：ADOC、COPM、まとめ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 高橋 慧
13	観察評価①：AMPS			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 高橋 慧
14	観察評価②：AMPS、まとめ			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 高橋 慧
15	評価結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 高橋 慧
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（評価手技の体得のため、ペアで実技練習を行います。）							
教科書	潮見泰蔵、下田信明 編集：PT・OTビジュアルテキスト、リハビリテーション評価学、羊土社							
参考文献	適宜紹介します							
備考	ICT利活用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。							

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、作業療法実践に不可欠な評価手技についての授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc04			
			●						
科目名	精神障害作業療法評価学演習				単位認定者	平山和美 須藤あゆみ		授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	精神障害領域の作業療法評価で用いる面接・観察・検査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、技術、態度を学修する。また、各種評価法の実施結果から得られた情報を記述し、その要約を発表することを通し、情報収集から分析、統合に必要な思考力と問題解決能力を高める。								
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる								
学修者への期待等	・この科目はグループ学習が多いため、各自積極的な参加を期待する。								
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当	
1	オリエンテーション 精神障害作業療法の評価の全体像			事前学修：シラバスを確認すること 事後学修：授業内課題を提出すること		30	30	平山 和美	
2	自己理解①：エゴグラム			事前学修：特にありません 事後学修：授業内課題を提出すること		0	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
3	自己理解②：職業適応検査			事前学修：特にありません 事後学修：資料を確認し理解すること		0	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
4	パーソナルスペースの測定			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
5	パーソナルスペースの分析			事前学修：第4回の振り返りを行うこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
6	情報収集の種類と概要			事前学修：UNIPAの資料を確認すること 事後学修：教科書P171～179を読んで理解しておくこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
7	面接 質問項目の作成			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
8	面接 実施と振り返り			事前学修：第7回の振り返りを行うこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
9	生活機能 精神障害者ケアマネジメント、ISDA、SMSF			事前学修：UNIPAの資料を確認すること 事後学修：授業内課題を提出すること		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
10	生活機能 LASMI、REHAB			事前学修：UNIPAの資料を確認すること 事後学修：授業内課題を提出すること		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
11	精神機能、知能検査について (GAF、BPRS、WAIS)			事前学修：UNIPAの資料を確認すること 事後学修：授業内課題を提出すること		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
12	観察評価の種類と概要			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
13	作業遂行機能 ～作品作りの場面から～			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
14	作業遂行機能 ～スポーツ場面から～			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
15	社会生活技能			事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：授業の振り返りを行うこと		30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク 発表）								
教科書	「精神障害と作業療法 病を生きる、病と生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 新版」三輪書店								
参考文献	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」医学書院								
備考	回収した成果物は後日フィードバックを行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc05			
			●						
科目名	高次脳機能障害作業療法評価学演習				単位 認定者	齋藤 佑樹		授業内課題 (技術)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題 (レポート等)	50 %
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	失語、失認、注意障害、半側空間無視、失行、遂行機能障害等の高次脳機能障害を持つ対象者に対する作業療法評価について、演習を通して適切な評価が行えるよう学修する。高次脳機能障害は、自動性・意図性により症状が変化する場合が多いため、評価時の声掛けの方法や観察の視点、解釈の方法等についても実践的な知識と態度を修得する。								
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる								
学修者への期待等	難易度の高い内容を多く含みます。毎回の十分な予習復習と積極的な参加を期待します。								
回	授業計画・学修の主題			準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当	
1	高次脳機能の評価と治療の流れ (医用画像評価を含む)			事前学修：特にありません 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		0	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
2	意識・見当識の評価 (スクリーニング評価)			事前学修：教科書 Lecture 10を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
3	失語に対する評価			事前学修：教科書 Lecture 8を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
4	失認に対する評価			事前学修：教科書 Lecture 4を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
5	注意障害に対する評価 (TMT、PASAT、CAT)			事前学修：教科書 Lecture 9を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
6	注意障害に対する評価結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	60	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
7	半側空間無視に対する評価 (BIT)			事前学修：教科書 Lecture 3を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
8	半側空間無視に対する評価結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
9	失行、行為の障害に対する評価 (SPTA)			事前学修：教科書 Lecture 6を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
10	失行、行為の障害に対する評価結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		0	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
11	遂行機能障害に対する評価 (BADS)			事前学修：教科書 Lecture 11を読んでおくこと 事後学修：実技の内容をクラスメイトと復習してください		30	60	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
12	遂行機能障害に対する評価結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		0	60	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
13	記憶障害に対する評価 (リバーミード行動記憶検査)			事前学修：教科書 Lecture 10を読んでおくこと 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
14	記憶障害に対する評価の結果の解釈			事前学修：特にありません 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		0	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
15	知能障害に対する評価			事前学修：特にありません 事後学修：授業の内容をノートにまとめてください		0	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：理解を深めるべく、授業の途中でペア・ワーク、グループワークを行います。								
教科書	石川朗 責任編集：15レクチャーシリーズ作業療法テキスト、高次脳機能障害・実習								
参考文献	適宜紹介します								
備考	ICT活用教育 (UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う)。回収した成果物は後日フィードバックを行う。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は作業療法士の資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。その経験を活かし、高次脳機能障害の作業療法に必要な評価の知識・手技について授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf05			
		●	●		●				
科目名	生活環境論				単位認定者	外里 富佐江		試験（レポート）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間		
						授業回数	8 回		
授業の概要	障害者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL維持・向上の上で重要である。作業療法は、対象者が抱える心身の障害だけでなく、地域や職場・学校環境、住環境を考慮した支援が必要である。本科目では、対象者への適切な支援のため、住環境整備に関する基礎知識を学修する。								
到達目標	1. 福祉のまちづくりに必要な生活環境整備について説明できる 2. 対象者のQOL維持・向上に寄与する住環境の要素について説明できる								
学修者への期待等	生活環境について障害者、高齢者の地域生活を調べ、どのような環境や支援、制度があるのか、グループワークにより調査し発表し討議する。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	オリエンテーション 生活環境の概念		事前学修 教科書 p1-14を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題①を提出する。				30	30	
2	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状		事前学修 教科書 p 127-135を読み、生活と福祉の施策について調べておくこと。グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題②を提出する。				30	30	
3	地域における生活環境整備①～障害者、高齢者の住みよい街づくり～		事前学修 教科書 p 16-27を読んでおくこと。グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題③を提出する。				30	30	
4	地域における生活環境整備②～ケアマネジメントにおける生活環境整備～		事前課題 教科書 p 30-79を読んでおくこと。グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題④を提出する。				30	30	
5	住環境の整備①～介助・移動（移乗）を前提とした居住環境～		事前学修 教科書 p 81-100を読んでおくこと 事後学修 課題⑤を提出する。				30	30	
6	住環境の整備②～ADL自立者を前提にする場合～		事前学修 教科書 p 101-126を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べ、それについて情報の共有し、課題を整理し発表する。 事後学修 課題⑥を提出する。				30	30	
7	住環境の整備③～高齢者・障害者配慮住宅～		事前学修 グループワークで提示された課題について調べておくこと。 事後学修 課題⑦を整理する。				30	30	
8	福祉用具・社会生活用具等による生活支援		事前学修 前回の課題を整理し、パワポにまとめて発表する。質疑応答を含めて考察を深める。 事後学修 課題⑧を提出する。				30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業、課題解決型学修（PBL）、グループワーク、ディスカッション、発表）								
教科書	「生活環境学」リハビリテーションテキスト 白田滋 編 メディカルビュー社								
参考文献	随時紹介する。								
備考	介護支援制度や障害者の支援制度、自治体IP、福祉用具メーカーのIPなどから最新情報を得ておくこと。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
作業療法士の資格をもち、地域リハビリテーションの経験を有し、わかりやすく生活環境について伝えることができる。

リハビリテーション学部 3年生

- 年間予定表
- 理学療法学専攻
作業療法学専攻
共通科目シラバス

2026年度 リハビリテーション学科3年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土	
4月					1		2		
		5	6	オリエンテーション	7	8	9	健康診断	
		12	13		14	15	合同交流会	16	
		19	20		21	スポーツ大会	22	23	
		26	27		28	29		30	
5月		3	4	5	6	7	8	9	
		10	11	12	13	14	15	16	
		17	18	19	20	21	22	23	
		24	25	26	27	28	29	30	
		31	1	2	3	4	5	6	
6月		7	8	9	10	11	12	13	
		14	15	16	17	18	19	20	
		21	22	23	24	25	26	27	
		28	29	30	1	2	3	4	
7月		5	6	7	8	9	10	11	
		12	13	14	15	16	17	18	
		19	20	21	定期試験	22	定期試験	23	定期試験
		26	27	28	29	不合格発表	30	31	
8月		2	3	再試験	4	再試験	5	再試験	
		9	10		11		12		
		16	17		18		19		
		23	24		25		26		
		30	31	PT地域実習 OT臨床実習Ⅲ	1	PT地域実習 OT臨床実習Ⅲ	2	PT地域実習 OT臨床実習Ⅲ	
9月		6	7	8	9	10	11	12	
		13	14	15	16	17	18	19	
		20	21	22	23	24	25	26	
		27	28	29	30				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2026年度 リハビリテーション学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	せいよう祭
11月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	1	2	3	4	5	
12月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	定期試験	22 定期試験	23 定期試験	24 定期試験	25 定期試験	26
	27	28	29	30	31	1	2	
1月	3	4	5	6	不合格発表	7	8	9
	10	11	12	再試験	13 再試験	14 再試験	15 再試験	16
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	OT 臨床実習Ⅱ	26 OT 臨床実習Ⅱ	27 OT 臨床実習Ⅱ	28 OT 臨床実習Ⅱ	29 OT 臨床実習Ⅱ	30
	31	1	PTOT 臨床実習Ⅱ	2 PTOT 臨床実習Ⅱ	3 PTOT 臨床実習Ⅱ	4 PTOT 臨床実習Ⅱ	5 PTOT 臨床実習Ⅱ	6
2月	7	8	PTOT 臨床実習Ⅱ	9 PTOT 臨床実習Ⅱ	10 PTOT 臨床実習Ⅱ	11	12	PTOT 臨床実習Ⅱ
	14	15	PTOT 臨床実習Ⅱ	16 PTOT 臨床実習Ⅱ	17 PTOT 臨床実習Ⅱ	18 PTOT 臨床実習Ⅱ	19 PTOT 臨床実習Ⅱ	20
	21	22	OT 臨床実習Ⅱ	23	24 OT 臨床実習Ⅱ	25 OT 臨床実習Ⅱ	26 OT 臨床実習Ⅱ	27
	28	1	2	3	4	5	6	
3月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb02					
	●	●		●							
科目名	生命倫理学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20	%
	O T	必修	3年		授業形態	講義	授業時間数		15 時間	受講態度	10
							授業回数		8 回		
授業の概要	医療は生物、心理、社会的な包括的アプローチが求められる。医学の進歩発展過程や学際的に問われる倫理（生殖技術・移植医療・遺伝子技術）、医療現場で問われている倫理的問題（人工妊娠中絶・安楽死・尊厳死）等を具体的な課題を通して学ぶ。医療従事者として必要とされる、相手を尊重し敬意を持って接する姿勢や、人間の尊厳についての考えを深め、倫理的態度を身につけることを目指す。										
到達目標	生命とは何か、生命科学とは何か、倫理とは何かを考えに入れながら、医療従事者として業務に携わるに当たっての中心になる心構えを培う。著しい医学・科学の発展と倫理との関係を学ぶ。まだ解決されていない課題が多いが、それに対しての各人の考えをまとめていくことを努力する。										
学修者への期待等	生命に対して、人間としてのあり方を深く考えながら、受講に臨むこと。自分ならどうするかなど、事柄を他人事ではなく、自身に即した事柄としてとらえていく態度を望む。										
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	生命倫理学総論				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命倫理とは、世の中の出来事での生命と倫理の関わりであることを理解する。			0	30		
2	医学・医療の歴史、近代科学の発展と医療倫理				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：近代になり特に科学が著しい発展を見せたことを理解し、それに伴って倫理的課題が生じていることを理解する。			0	30		
3	医学関連の出来事（医療事故、医療過誤を含む）				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：20世紀からの医学関連の出来事と医療倫理について理解する。			0	30		
4	生命科学の革命的発展と倫理				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：十数年前には考えられなかった医学の発展がある。倫理との兼ね合いについて理解を深める。			0	30		
5	生命倫理の歴史と現代への連携				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：人権がどう守られるようになったか。その思想的根拠について理解する。			0	30		
6	大災害と医療の関わり				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：今でもしばしば起きる大災害に際して、医学・医療がどうかかわるかを理解する。			0	30		
7	生命の始まりとつなぎ				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命誕生に係る倫理的考察、生命をいかにつなぐかの理解を深める。			0	30		
8	死の医学				【事前学修】：とくにありません 【事後学修】：生命の終わりである死について考える。			0	30		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	特になし										
参考文献											
備考	授業内課題については適宜フィードバックする。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb04			
			●						
科目名	老年学				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記・レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
	OT	必修	3年			授業時間数	15 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	<p>老年学とは老年者の疾患などを研究対象とする老年医学、老年者の社会的問題を研究対象とする老年社会学、老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を3つの柱とする学問である。本科目では、老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学修する。また、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、障害高齢者を受け入れる療養上の問題点についても学修する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化の生物学的意義と老化理論を理解し、説明できるようになる。 2. 加齢に伴う人体並びに諸臓器・器官の構造・機能の変化を理解し、説明できるようになる。 3. 老化現象及び老年症候群が生活機能(心身機能・身体構造、活動、参加)に及ぼす影響を理解し、理学療法、作業療法を实践できるようになる。 4. 高齢者をめぐる現状と課題について理解し、将来の変遷に対処できるようになる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間中に授業内容を理解できるように事前にUNIPA資料を学修する。解らないことは積極的に質問する。 ・授業後は、課題の解答で復習し、ノートやUNIPA資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと 								
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	老年学と老化学 I 老化とは II 老化の測定				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
2	III 老化の理解：細胞老化 老化の機序と制御				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
3	加齢による変化 総論 ①全般的身体的・機能的変化 ②組織レベルの変化 加齢による変化 各論(1)神経・筋系、骨関節系、感覚系				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
4	加齢による変化 各論(2) 内臓諸器官(呼吸・循環・消化・泌尿)、体温・代謝・内分泌機能、生体リズム、高次脳機能、心理社会				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
5	老年症候群(1) 概念、フレイル、サルコペニア、ロコモ				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
6	老年症候群(2) 健忘症候群と認知症				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
7	高齢者とリハビリテーション：高齢者の機能障害に影響する要因、高齢者のリハビリテーションの特異性				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
8	高齢者をめぐる現状と課題： 2025年問題、地域包括ケア、地域連携の重要性				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する。 事後学修：課題の解答で復習、板書の整理			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	指定せず								
参考文献	「最新リハビリテーション基礎講座 老年学」新井秀典・山田実編、医歯薬出版(図書館蔵) 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」大内尉義編、医学書院(図書館蔵)								
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OT合同授業 ・授業資料等はUNIPAに投稿する。 ・授業内課題の解答は次の授業資料の末尾に提示する。定期試験(筆記試験)の結果の講評はUNIPAに掲載する。 								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般を研修、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科に18年間勤務し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、4年制大学及び短期大学で老年学の講義を20年余にわたり担当した。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb12				
			●		●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	小林 淳子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	30 %
	OT	必修	3年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	公衆衛生とは地域社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延ばし、健康と活力を増進するための科学と技術と定義され、地域社会の組織的な努力に重点がおかれている学問である。本科目では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動及びその基盤となる保健・医療・福祉制度の概要について学修する。									
到達目標	1. 公衆衛生の目的・対象と公衆衛生活動の方法について概要を説明できる。 2. 健康について人間の特性と環境との関わりから概要を説明できる。 3. 公衆衛生活動の基盤となる保健・医療・福祉制度の概要について説明できる。									
学修者への期待等	公衆衛生(学)の基礎を学び、理学療法・作業療法との関連性について理解が深まることを期待します。授業計画に該当する教科書の章・節に目を通して授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	公衆衛生・公衆衛生学 導入				事前学修：教科書の「公衆衛生学序論」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
2	地域住民の健康と行政の役割				事前学修：教科書の「地域保健」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
3	環境と健康				事前学修：教科書の「環境保健」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
4	健康・疾病・行動に関わる統計資料				事前学修：教科書の「保健統計」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
5	健康状態・疾病の測定と評価：疫学の基礎				事前学修：教科書の「疫学」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
6	生活習慣の現状と対策、主要疾患の疫学と予防				事前学修：教科書の「疾病予防と健康管理」「主要疾患の疫学と予防」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
7	保健・医療・福祉の制度				事前学修：教科書の「保健・医療・福祉の制度」を読み予習して授業に臨む 事後学修：授業で取り上げた内容を復習する			30	30	
8	『公衆衛生学』学修のまとめ：グループワーク				事前学修：1回～7回までの授業内容を復習して授業に臨む 事後学修：グループワークも含めて本科目の学修内容を復習する			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク)									
教科書	『新編 衛生・公衆衛生学』、山本玲子監修、アイ・ケイ コーポレーション									
参考文献	『シンプル 衛生・公衆衛生学2026』、辻 一郎監修、南江堂 『国民衛生の動向2025/2026』、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。第8回の授業ではグループワークを行います。PTOT合同授業									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は保健師の資格と行政保健師として5年以上の公衆衛生看護実務経験を有しており、その経験を活かして学生が公衆衛生について理解が深まるよう授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb14			
科目名	臨床検査・画像診断学				単位 認定者	小山 周樹		試験(筆記・ レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	
	OT	必修	3年			授業時間数	15 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	本科目では、各種画像診断機器を用いた単純X線検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査、核医学検査、超音波検査など各種検査画像の特徴と読影方法について学ぶ。理学療法及び作業療法の対象となる代表的疾患の画像所見について理解し、疾患の症状と画像から得られる情報により病巣部位の同定と症状の因果関係について理解する。画像所見から効果的な治療介入を行うための、基礎的な知識を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な画像診断機器の原理・特徴を理解し説明できる。 2. 実臨床で使用される単純X線・CT・MRIにおける正常解剖を説明できる。 3. リハビリテーションの対象となる代表的疾患の画像所見を理解し説明できる。 4. リハビリテーションに必要な検査データを理解する。 								
学修者への期待等	さまざまな領域の知識を学び、講義で学ぶ画像解剖・疾患の知識を実地診療の人体解剖と所見にリンクさせ、リハビリテーションの実践に適用できるように予習・復習をしてください。								
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	画像診断学-1：X線検査の原理・特徴と胸部の正常解剖および画像診断（呼吸器）			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
2	画像診断学-2：CT検査の原理・特徴と胸腹部・心大血管の正常解剖および画像診断（呼吸器・中枢神経系）			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の心・大血管および中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
3	画像診断学-3：MRI検査の原理・特徴と中枢神経系の正常解剖および画像診断（中枢神経系）			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
4	画像診断学-4：核医学検査の原理・特徴と中枢神経系の正常解剖および画像診断（呼吸器・中枢神経系）			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部および中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
5	画像診断学-5：胸部疾患の画像診断			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の胸部の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
6	画像診断学-6：中枢神経系疾患の画像診断			事前学修：解剖学Iで指定されている教科書『標準解剖学』坂井建雄の中枢神経系の解剖を読んで理解してください。 事後学修：配布資料を読んで理解し、臨床の画像を把握しておいてください。			30	30	小山 周樹
7	臨床検査データの見方①Hb, CRP, A1b等			事前学修：Hb, CRP, A1bは何を表す検査か。異常値の場合、何が起りやすいか。簡単にまとめておく。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	三木 未佳
8	臨床検査データの見方②Na, Dダイマー, 血糖値等			事前学修：Na, Dダイマー, 血糖値は何を表す検査か。異常値の場合、何が起りやすいか。簡単にまとめておく。 事後学修：授業後には内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと。			30	30	三木 未佳
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）								
教科書	指定なし								
参考文献	石蔵礼一ほか：一目でわかる！脳のMRI 正常解剖と機能. 秀潤社, 2015 前田 眞治：標準理学療法学・作業療法学・言語療法学 別巻 脳画像. 医学書院, 2017. 日本離床学会監修：検査・データがまるごとわかる本 慧文社, 2020. 相澤純也ほか：PT症例レポート 羊土社, 2016.								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

(小山)放射線科専門医であり医学部においても東北大学医学部および東北医科薬科大学医学部にて臨床実習を通算30年以上担当しており、本学看護学部でも病態治療学Iを10年以上担当している。
(三木) 臨床検査技師として5年以上大病院での実務経験に基づき、検査データの見方について授業を行います。

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
3年生

- 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa03		
	●	●	●	●	●			
科目名	トランスレーショナルセミナーⅢ				単位認定者	金谷さとみ 坂上尚穂		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	
						授業時間数	30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、理学療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。							
到達目標	1. 設定した状況に応じた検査・測定方法の選択ができる 2. 自分が導き出せなかった考え方を他者から積極的に取り入れながら臨床推論ができる							
学修者への期待等	今まで学修した内容を統合して実際の理学療法評価の理解を深めて臨床実習Ⅱ（評価実習）に繋げてください。							
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	症例レポートの基礎知識				事前学修：教科書の該当部分をまとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
2	離床推論の方法と症例検討の進め方				事前学修：教科書の該当部分をまとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
3	グループワーク① 脳血管疾患事例から評価項目（問診や他部門情報なども含む）をリストアップ				事前学修：脳血管疾患の病態について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
4	グループワーク② 脳血管疾患事例からリストアップした評価項目の実技練習				事前学修：脳血管疾患の評価について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
5	グループワーク③ 例示された評価結果から統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定を行う				事前学修：脳血管疾患の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
6	グループワーク④ 例示された評価結果から統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定を行う				事前学修：脳血管疾患の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
7	グループワーク⑤ 治療計画を立案する				事前学修：脳血管疾患の一般的な治療内容を調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
8	グループワーク⑥ 整形外科疾患事例から評価項目（問診や他部門情報なども含む）をリストアップ				事前学修：大腿骨頸部骨折の病態について調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
9	グループワーク⑦ 整形外科疾患事例からリストアップした評価項目の実技練習				事前学修：大腿骨頸部骨折の評価について復習し、まとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
10	グループワーク⑧ 例示された評価結果から統合解釈・問題点抽出・目標設定を行う。				事前学修：大腿骨頸部骨折の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
11	グループワーク⑨ 例示された評価結果から統合解釈・問題点抽出・目標設定を行う。				事前学修：大腿骨頸部骨折の統合解釈・問題点抽出（ICF）・目標設定の方法を調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
12	グループワーク⑩ 治療計画を立案する				事前学修：大腿骨頸部骨折の一般的な治療内容について調べる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
13	グループワーク⑪ 発表準備				事前学修：発表の準備と練習 事後学修：発表内容を整理する		30	30
14	グループワーク⑫ 発表				事前学修：発表の準備と練習 事後学修：発表内容を整理する		30	30
15	グループワーク⑬ 講評と補足				事前学修：担当教員の意見をまとめる 事後学修：授業内容を整理する		30	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループディスカッション）							
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5 PT・OTのための臨床技能とOSCE-機能障害・能力低下への介入編 第2版 金原出版 ISBN：978-4-307-75067-7							
参考文献	「PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター」相澤純也ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8							
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治							
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)								
担当教員は臨床経験が5年以上あり、症例検討の指導にも長年従事したため、学生に対しより実践的な助言・指導が授業が可能です。								

科目ナンバリング
RPMc04

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
			●		

科目名	神経障害理学療法評価学実習				単位 認定者	小関 友記		評価の 方法	試験（実 技）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆 記）	40 %
						授業時間数	40 時間		授業内課題 （小テスト）	10 %
				授業形態	実習	授業回数	20 回			

授業の概要 本科目では、主として神経疾患の病態を把握するための検査手技や神経障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、神経障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、神経障害における理学療法評価について学修する。

到達目標

1. 神経障害に対する各種検査測定技術が実践できるようになる。
2. 神経障害の諸症候について理学療法士的視点で評価できるようになる。
3. 神経障害の症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。

学修者への期待等 神経障害に必要な検査測定技術とそこから得られた結果に対する評価について理解を深めることを期待します。本講義の理解には生理学や神経学の該当内容を復習することが効果的です。特に重要な部分は小テストを実施します。出題領域は各講義で説明しますので、積極的に参加してください。また検査測定技術の習得のために、実技練習には動きやすい服装で参加してください。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	中枢神経疾患における検査の目的と意義	事前学修：使用する教科書を確認し、学修する全体像を把握する 事後学修：小テストに備えて復習する	30	30	小関 友記 森永 雄
2	意識障害と認知機能の検査	事前学修：教科書①p210～220、教科書②p102～107を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
3	腱反射検査	事前学修：教科書①p126～141を予習する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
4	筋緊張検査の概要	事前学修：教科書①p62～69を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
5	筋緊張検査の実践	事前学修：該当検査手技を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
6	感覚検査（感覚概論、表在覚、深部覚）の概要	事前学修：教科書①p142～173を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
7	感覚検査（感覚概論、表在覚、深部覚）の実践	事前学修：該当検査手技を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
8	中枢神経運動麻痺概論：ブルンストロームステージ	事前学修：UNIPAの資料を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
9	中枢神経運動麻痺概論：上田式12段階	事前学修：UNIPAの資料を確認する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
10	協調運動障害（失調）検査の概要	事前学修：教科①p174～189、教科書②p308～p318を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
11	協調運動障害（失調）検査の実践	事前学修：該当検査手技を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
12	姿勢・歩行の評価の概要	事前学修：教科書①p110～124を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
13	姿勢・歩行の評価の実践	事前学修：UNIPAの資料を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
14	姿勢反射検査の概要	事前学修：教科書②p279～293を予習する 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
15	姿勢反射検査の実践	事前学修：該当検査手技を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
16	バランスパフォーマンステスト	事前学修：教科書②p293～307について予習する 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
17	脳神経検査の概要	事前学修：教科書①p8～61、教科書②p96～101を予習する。 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
18	脳神経検査の実践	事前学修：該当検査手技を確認する。 事後学修：手技体得のため実技練習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
19	脳卒中機能評価（SIAS・Fugl-Meyer・NIHSS・Motor Assessment Scale）	事前学修：教科書②p451～455を予習する 事後学修：小テストに備えて復習する。	30	30	小関 友記 森永 雄
20	医用画像と症例に対する検査測定の意味	事前学修：UNIPAの資料を確認する。 事後学修：提示画像から必要な検査を抽出できるように復習する。	30	60	小関 友記 森永 雄
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ペアワークによる実技練習を通じて、神経障害に対する検査測定手技の体得を目指します）				
教科書	①「神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ」第3版、鈴木則宏編、メジカルビュー社 ISBN978-4-7583-1812-9 ②「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」第2版、潮見泰蔵・下田信明編、羊土社 ISBN978-7581-245-2				
参考文献	「ベッドサイドの神経の診かた」第18版 田崎義昭、斎藤佳雄、南山堂				
備考	予習では教科書を一読し、不明な部分を確認して、講義内で解決するようにしてください。 実技可能な服装で参加してください。 小テストは実施後、授業内にてフィードバックを実施します。PTA・PTB 2クラス				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、神経障害に対する理学療法を実践してきました。その経験を活かして学生が神経障害に関する評価の意義の理解と実践ができるように授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMc05			
学修成果			●						
科目名	内部障害理学療法評価学演習				単位認定者	伊藤 大亮		試験(実技)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	試験(筆記)	40 %
						授業時間数	30 時間	授業内課題 (レポート等)	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、主として内部疾患の病態を把握するための検査手技や内部障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、内部障害の病態、病態を捉えるための画像所見、及び評価、リスク管理の把握、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント(視診・触診・聴診・打診)や各検査測定の方法について学修する。								
到達目標	1. 内部障害に対する各種評価の意義、方法、結果の解釈ができるようになる。 2. 内部障害疾患に対するリスク層別化と各種評価を実践できる。								
学修者への期待等	内部障害分野における臨床実践力の基礎を身に付けることを期待します。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	呼吸器系の身体機能評価の概要：視診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
2	呼吸器系の身体機能評価の実践：視診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
3	呼吸器系の身体機能評価の概要：触診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
4	呼吸器系の身体機能評価の実践：触診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
5	呼吸器系の身体機能評価：打診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
6	呼吸器系の身体機能評価の概要：聴診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
7	呼吸器系の身体機能評価の実践：聴診	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
8	呼吸器系の身体機能評価：ADLやQOLの評価	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
9	肺機能検査・酸塩基平衡(動脈血液ガス)	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
10	X線画像の評価	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
11	循環器系の身体機能評価：血圧・脈拍測定	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
12	循環器系の身体機能評価：運動機能検査	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
13	循環器系の身体機能評価：運動耐容能と身体活動量	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
14	循環器系の身体機能評価：ADLやQOLの評価	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
15	循環器系の身体機能評価：リスクの層別化	事前学修：左記内容についてテキストや他書籍で内容を確認しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(バイタルサイン)								
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」南江堂								
参考文献									
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

科目ナンバリング
RPMc06

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		

科目名	理学療法評価学総合実習				単位 認定者	大友篤 小関友記		評価の 方法	試験（実 技）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（レ ポート）	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間	
						授業回数	20 回			

授業の概要
 本科目では、各疾患における運動器障害、神経障害、内部障害の理学療法評価について、基本的な知識や技術及び検査結果の解釈など一連の理学療法評価について総合的に実践する。OSCE（客観的臨床能力試験）を通して、コミュニケーションスキル、医療従事者としての心構えや情意面（態度・習慣などの人間性）などを身につけることを目的とする。

到達目標
 1. 各症例を想定した患者に基本的な検査・測定ができ、状況に応じた対処（触れ方、話し方）が実践できる。
 2. 基本的な記録と報告ができ、検査結果の解釈ができるようになる。

学修者への期待等
 各評価の意義や測定方法を十分に復習したうえで授業に臨んでください。動きやすい服装で参加してください。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	客観的臨床能力試験（OSCE）の概要	事前学修：教科書p2～14を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	佐々木 広人
2	標準予防策、リスク管理	事前学修：教科書p16～34を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	30	伊藤 大亮
3	療法士面接	事前学修：教科書p120～139を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	30	伊藤 大亮
4	脈拍と血圧の測定	事前学修：教科書p140～156を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	30	伊藤 大亮
5	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価	事前学修：教科書p157～1171を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	30	伊藤 大亮
6	関節可動域測定	事前学修：教科書p172～193を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	大友 篤 佐々木 広人
7	筋力測定	事前学修：教科書p194～226を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	大友 篤 佐々木 広人
8	形態測定	事前学修：教科書p227～241を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	大友 篤 佐々木 広人
9	整形外科疾患別検査	事前学修：教科書p242～263を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	大友 篤 佐々木 広人
10	感覚検査	事前学修：教科書p275～290を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	小関 友記 森永 雄
11	反射検査（腱反射・病的反射）	事前学修：教科書p291～301を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	小関 友記 森永 雄
12	脳卒中の麻痺側運動機能の評価	事前学修：教科書p312～330を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	小関 友記 森永 雄
13	運動失調検査	事前学修：教科書p356～369を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	小関 友記 森永 雄
14	バランス検査	事前学修：教科書p370～381を予習する 事後学修：学習内容を基に実技練習を行う	30	60	小関 友記 森永 雄

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
15	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（評価項目の列挙）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
16	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（検査測定）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
17	医用画像を含む運動器障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（結果の解釈）	事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
18	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（評価項目の列挙）	事前学修：UNIPAの資料を予習する。 事後学修：模擬症例に対する評価について、必要な検査測定とリスク管理、得られた結果について考察する。	30	30	小関 友記 森永 雄
19	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（検査測定）		30	30	小関 友記 森永 雄
20	医用画像を含む神経障害の模擬症例に対する一連の検査・測定（結果の解釈）		30	30	小関 友記 森永 雄
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（OSCEならびに実習で必要となる検査測定手技を体得する。グループワークによる模擬症例を通じた課題解決型学修を行う。）				
教科書	「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5				
参考文献					
備考	予習では教科書を一読し、不明な部分を確認して、講義内で解決するようにしてください。 実技可能な服装で参加してください。 模擬症例に対するフィードバックは授業内にて実施します。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd01				
			●							
科目名	運動器障害理学療法学				単位認定者	原 和彦		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、運動器系疾患に対する理学療法を学修する。様々な運動器疾患の病態、画像所見の把握、リスク管理の把握、運動器疾患に関する各種検査や測定、整形外科疾患検査など、疾患の特異的な検査も含めた基本的技術を学ぶ。得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う一連の理学療法評価を理解し、治療プログラムの立案及びその治療技術について学修する。									
到達目標	1. 運動器障害の特徴と病態を説明することができる。 2. 各疾患の病態の特徴と理学療法評価および理学療法プログラムの関係性を説明することができる。									
学修者への期待等	運動器障害理学療法は理学療法士になって経験をすることが非常に多い疾患領域です。評価治療に必要なことは何かを考える力を身に付けられることを期待しています。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	運動器障害理学療法とは		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P1-15を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
2	組織修復と治癒過程		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P16-39を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
3	骨折、熱傷・創傷		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P40-58を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
4	上肢骨折		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P59-103を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
5	大腿骨骨折		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P104-166を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
6	膝・下腿骨骨折		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P168-189を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
7	変形性股関節症		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P190-239を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
8	変形性膝関節症		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P240-275を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
9	肩関節疾患（肩関節周囲炎）		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P276-311を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
10	肩関節疾患（腱板断裂）		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P312-369を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
11	頸部疾患		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P370-437を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
12	腰部疾患		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P370-437を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
13	膝靭帯損傷・半月板損傷		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P438-469を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
14	末梢神経損傷		事前学修：UNIPA上の講義資料を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
15	関節リウマチ		事前学修：UNIPA上の講義資料および教科書P542-575を予習すること 事後学修：教科書、当日資料を復習すること				60	60		
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	「Crosslink理学療法テキスト 運動器障害理学療法学」加藤浩 編、Medical View、ISBN 978-4-7583-2001-6									
参考文献	『最新理学療法学講座』木藤伸容 編著、医歯薬出版株式会社、ISBN978-4-263-26739-4 『シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版』細田多徳 監修、南江堂、ISBN 978-4-524-24983-1									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は理学療法分野で20年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、運動器理学療法の臨床経験を活かして講義を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd02				
			●	●						
科目名	運動器障害理学療法学演習				単位認定者	原 和彦 坂上 尚穂		試験 (実技)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	50 %
					授業形態		演習		授業回数	60 時間
							30 回			
授業の概要	本科目では、様々な運動器疾患における病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから骨関節障害の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を演習を通して実践する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、各疾患における理学療法の過程について理解できるようになることを目的とする。									
到達目標	1. 運動器障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法評価、治療プログラム立案・実践をすることができる。 2. 実践的に用いられる理学療法技術、臨床推論をもとに理解を深めることができる。									
学修者への期待等	実技中心の授業ですので、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	運動器障害に対する基本的理学療法評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	原 和彦 佐々木 広人	
2	関節可動域運動			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
3	ストレッチング			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
4	筋力増強運動			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	坂上 尚穂 佐々木 広人	
5	上腕骨骨折に対する評価と治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
6	前腕骨・手部の骨折の評価と治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
7	大腿骨骨折の評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
8	大腿骨骨折の治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
9	膝・下腿骨骨折の評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
10	膝・下腿骨骨折の治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
11	足関節疾患に対する評価			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
12	足関節疾患に対する治療			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
13	変形性股関節症の評価 (保存・手術)			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
14	変形性股関節症の治療 (保存・手術)			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	
15	変形性膝関節症の評価 (保存・手術)			事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する			30	30	大友 篤 佐々木 広人	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	変形性膝関節症の治療（保存・手術）	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
17	肩関節疾患の評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
18	肩関節疾患の治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
19	頸部疾患に対する評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
20	頸部疾患に対する治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
21	腰部疾患に対する評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
22	腰部疾患に対する治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
23	膝靭帯損傷・半月板損傷の評価	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
24	膝靭帯損傷・半月板損傷の治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
25	末梢神経損傷に対する評価と治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
26	関節リウマチに対する評価と治療	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	坂上 尚徳 佐々木 広人
27	症例検討1 グループワーク：情報収集、検査・測定項目の立案	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
28	症例検討2 グループワーク：統合と解釈、問題点抽出	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
29	症例検討3 グループワーク：ゴール設定、治療プログラム立案	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	大友 篤 佐々木 広人
30	症例検討4 グループワーク：治療プログラムの実践	事前学修：配付資料・教科書の該当ページを予習する 事後学修：配付資料を用いて復習する	30	30	原 和彦 大友 篤 佐々木 広人
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（PBL、グループワーク）				
教科書	『Crosslink理学療法テキスト 運動器障害理学療法学』加藤浩 編、Medical View、ISBN 978-4-7583-2001-6				
参考文献	『最新理学療法学講座』木藤伸容 編著、医歯薬出版株式会社、ISBN978-4-263-26739-4 『シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版』細田多穂 監修、南江堂、ISBN 978-4-524-24983-1				
備考	・提出されたレポートは、修正意見を付して返却します。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験を活かし上記病態を理解し、治療・指導を修得することで、実際の臨床現場に繋げることができるような授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd03		
			●					
科目名	神経障害理学療法学				単位 認定者	網本 和 大和田 宏美		試験(筆記) 100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	中枢神経障害は多くの機能形態障害が重複した障害像を呈し、全体的な障害像をイメージすることが難しい。本科目では、主として脳卒中の障害像を学び、その回復過程(急性期・回復期・生活期)に沿って脳卒中に対する理学療法の考え方や、具体的なアプローチについて学修する。はじめに、脳卒中の病態とリスク管理、脳画像所見、理学療法評価、理学療法プログラム、動作分析やADL評価等を、次に、脳卒中の急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法等を、また、外傷性脳損傷に対する理学療法についても学修する。							
到達目標	神経障害の理学療法に関する基礎医学および臨床医学、理学療法評価および基本的治療について学修する。 1. 神経系の構造について理解できるようになる。 2. 脳血管障害の病態や障害を理解できるようになる。 3. 急性期・回復期・生活期などそれぞれの時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 4. 頭部外傷の障害像および症状に合わせた理学療法を理解できるようになる。							
学修者への期待等	今後、神経理学療法学演習、臨床実習Ⅱ(評価実習)、臨床実習Ⅲ・Ⅳ(総合)で神経理学療法を実践していくための基礎になる科目です。予習・復習をしっかりとっておこなってください。							
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	神経障害理学療法学総論	事前学修：2年次に学修した神経学の復習をしておくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
2	中枢神経系の構造と機能の理解のための基礎知識	事前学修：教科書①第1章(P2~23)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
3	脳血管障害の定義と病態	事前学修：教科書②の脳動脈と脳血管障害(P56~73)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
4	脳血管障害の病態と障害像：脳画像評価	事前学修：教科書②の脳動脈と脳血管障害(P74~147)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
5	脳損傷とその回復メカニズム、予後予測	事前学修：教科書①の2章各論(P26~42)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
6	脳血管障害におけるリスク管理と合併症	事前学修：配付の講義資料を読んでおくこと。 事後学修：講義資料をもとに、講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
7	脳血管障害におけるリハビリテーション(急性期・回復期・生活期)の流れ	事前学修：教科書②のリハビリテーション(P148~163)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
8	脳血管障害の理学療法評価	事前学修：教科書①の理学療法評価(P43~83)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
9	脳血管障害に対する理学療法総論	事前学修：教科書①の理学療法評価(P43~83)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
10	脳血管障害に対する急性期理学療法の実践	事前学修：教科書①の理学療法(P83~92)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
11	脳血管障害に対する回復期理学療法(1)：歩行に向けて座位・立位を中心に	事前学修：教科書①の理学療法(P92~93)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
12	脳血管障害に対する回復期理学療法(2)：歩行障害のアプローチ	事前学修：教科書①の理学療法(P92~96)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
13	脳血管障害に対する回復期理学療法(3)：ADL障害および装具療法のアプローチ	事前学修：教科書①の理学療法(P72~83、P96~99)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
14	頭部外傷の理学療法：病態と評価	事前学修：教科書①の頭部外傷の理学療法(P132~149)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
15	頭部外傷の理学療法：理学療法の実践	事前学修：教科書①の頭部外傷の理学療法(P149~163)を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(脳血管障害の理学療法評価の練習をペアワークにて実施する。)							
教科書	①「Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」鈴木俊明編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2002-3 ②「病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版 諸橋 勇編集 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-686-4							
参考文献	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」第6版 川平和美編集 医学書院 ISBN978-4-260-05667-0 「理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 神経障害理学療法学」諸橋 勇編集 文光堂 ISBN 978-4-8306-4592-1							
備考	定期テスト等のフィードバックは、UNIPAの掲示機能を通じて行います。							

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が脳卒中について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践につながるように授業を行います。

科目ナンバリング
ReFb14

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●	●	

科目名	神経障害理学療法学演習				単位認定者	網本 和 大和田 宏美		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		試験（レポート）	20 %
						授業時間数	60 時間		試験（実技）	20 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

授業の概要
 本科目では、脳卒中の障害像を理解し、脳卒中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中の理学療法評価過程を理解した上で、治療プログラムを立案し、治療技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、脳卒中の理学療法について理解できるようにすることとする。

到達目標
 本講義においては、中枢神経に関する解剖学、生理学、運動学と神経系理学療法学で学んだ知識を基礎に、どのように臨床でその知識が用いられ、神経系理学療法治療技術が成立しているのかを学修する。そのためには、以下の具体的目標が到達されることが求められる。
 1. 脳卒中の理学療法を実施するために必要な脳画像所見を理解できるようになる。
 2. 脳卒中患者の姿勢・動作の分析ができるようになる。
 3. 脳卒中患者に対する理学療法評価および理学療法を立案することができるようになる。
 4. 脳卒中患者の症例検討を通じて、統合と解釈ができるようになる。

学修者への期待等
 この講義では、脳卒中患者の障害像を理解し、脳卒中患者の理学療法を実践する上でのリスク管理、理学療法評価、理学療法の治療について、演習をとおして学びます。脳卒中の理学療法を行う上で重要な科目となりますので、日々の学修の中で、予習・復習をしっかりとおこなってください。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	中枢神経障害に対する障害像	事前学修：神経障害の障害像について考えておく。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和
2	脳画像所見と理学療法評価①：脳出血症例など	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和
3	脳画像所見と理学療法評価②：脳梗塞症例など	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和
4	理学療法評価①：背臥位・座位・立位姿勢の評価	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 大和田 宏美
5	理学療法評価②：立ち上がり動作、歩行動作の評価	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 大和田 宏美
6	動作分析①脳卒中患者の基本動作分析について	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
7	動作分析②脳卒中患者の寝返り動作の障害と評価	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
8	動作分析③脳卒中患者の起き上がり動作の障害と評価	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
9	動作分析④脳卒中患者の立ち上がり動作の障害と評価	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
10	動作分析⑤脳卒中患者の歩行障害	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
11	動作分析⑥脳卒中患者の歩行評価と分析	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和 森永 雄
12	運動学習理論に基づいた理学療法	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	網本 和
13	理学療法の実践①：急性期のポジショニング、愛護的関節可動域練習	事前学修：教科書p34-41を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
14	理学療法の実践②：急性期の早期離床、ベッド上での理学療法	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	大和田 宏美 森永 雄
15	理学療法の実践③：基本動作練習	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	理学療法の実践④：歩行練習のアプローチ	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
17	理学療法の実践⑤：歩行に合わせた器具（長下肢装具と短下肢装具）の適応とその歩行練習のアプローチ	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
18	理学療法の実践⑥：日常生活活動・動作練習	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を基に実技練習を行う。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
19	理学療法の実践⑦：その他の理学療法アプローチ（CI療法など）	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	60	大和田 宏美 森永 雄
20	理学療法の実践⑧社会資源の活用と生活環境調整	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	大和田 宏美 森永 雄
21	認知神経リハビリテーション	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	30	30	大和田 宏美 小関 友記
22	症例検討①脳血管障害（急性期）：情報収集と理学療法評価の理解	事前学修：教科書p2, p21-p41を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
23	症例検討①脳血管障害（急性期）：ICFと治療アプローチの検討	事前学修：教科書p42-p46を予習する 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
24	症例検討①脳血管障害（急性期）：理学療法の実際	事前学修：症例に対する理学療法を検討する。 事後学修：発表のスライドを作成する。	30	60	大和田 宏美 小関 友記
25	症例検討①脳血管障害（急性期）：症例発表会	事前学修：発表に備えてスライド作成を行う。 事後学修：発表後のフィードバックから症例についてまとめておく。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
26	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：情報収集と理学療法評価の理解	事前学修：教科書p54-p107を予習する。 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
27	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：ICFと治療アプローチの検討	事前学修：教科書p54-p107を予習する 事後学修：授業内容を復習する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
28	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：理学療法の実際	事前学修：症例に対する理学療法を検討する。 事後学修：発表のスライドを作成する。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
29	症例検討②脳血管障害（回復期・生活期）：症例発表会	事前学修：発表に備えてスライド作成を行う。 事後学修：発表後のフィードバックから症例についてまとめておく。	60	30	大和田 宏美 小関 友記
30	脳卒中患者の理学療法予後予測と展望	事前学修：UNIPA資料を予習する。 事後学修：授業内容について総復習する。	30	60	網本 和
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技、グループワーク、症例検討後のグループ発表）				
教科書	「理学療法アクティブラーニングテキスト 神経障害理学療法学」 文光堂ISBN：978-4-8306-4592-1				
参考文献	①「病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版」 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-686-4 ②「Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋障害」 中山 恭秀編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2003-0 ③「Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」 鈴木俊明編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2002-3 ④「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」第6版 川平和美編集 医学書院 ISBN978-4-260-05667-0				
備考	試験およびレポート等のフィードバックは、UNIPAの掲示機能を通じて行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が脳卒中について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践につながるよう演習を通して学ぶ授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd05			
			●						
科目名	高次脳機能障害学				単位認定者	網本 和		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	15 時間		
						授業回数	8 回		
授業の概要	<p>本科目では、意識、言語、認知、行為、知能などの高次脳機能障害に焦点をあて、高次脳機能障害の主要な症候に関する評価の実際と基本的治療理論とその応用について学修する。主に、失行症、Pusher現象、半側空間無視、前頭葉機能障害や遂行機能障害などの基礎的な知識について学修する。</p>								
到達目標	<p>高次脳機能障害の主要な症候に関する評価の実際と基本的治療理論とその応用について理解できる。神経科学の方法論を学習することで論理的思考力を涵養できる。</p>								
学修者への期待等	<p>臨床実習Ⅱ（評価実習）、臨床実習Ⅲ・Ⅳ（総合）で神経理学療法を応用的に実践していくための科目です。予習・復習をしっかりとおこなってください。</p>								
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間（分）	事後学修時間（分）
1	神経解剖学との関連、診断学の進歩				事前学修：参考文献①p186以降を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
2	左半球症状の理解（失語症）				事前学修：参考文献①p49-74を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
3	失行症のメカニズムとアプローチ 運動の高次脳機能障害				事前学修：参考文献①p75-88を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
4	半側空間無視のメカニズム				事前学修：教科書第2章を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
5	半側空間無視への治療アプローチ				事前学修：教科書第4章を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
6	Pusher現象のメカニズム				事前学修：参考書②第2章・3章を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
7	Pusher現象のアプローチ				事前学修：参考書②の第6章を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
8	その他の高次脳機能障害				事前学修：UNIPAの配付資料を予習する 事後学修：講義の復習をすること			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）								
教科書	「夢幻の空間」 ヒューマンプレス								
参考文献	「高次脳機能障害ABC」 文光堂 「傾いた垂直性」 ヒューマンプレス								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員は大学病院等で20年以上の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd06			
科目名	内部障害理学療法学				単位認定者	伊橋 光二		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位		
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の理学療法などについて学修する。								
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、糖尿病に対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1.呼吸器系・循環器系・代謝系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2.各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3.各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。								
学修者への期待等	高齢化にともない内部障害者が増加しており、運動器や神経障害を主とする疾患でも内部障害を併発していることが増えているため、必須の知識と技術であるという認識で取り組むこと。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	内部障害学総論		事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書1章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
2	呼吸器障害と理学療法：呼吸器系の解剖学・生理学		事前学修：呼吸器系の解剖学・生理学を復習しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる			60	30	伊橋 光二	
3	呼吸器障害と理学療法：呼吸不全の病態と呼吸器疾患		事前学修：UNIPA配付資料を予習する。2年次「内科学」の該当部分を復習しておく。 事後学修：学んだ内容をまとめる			60	30	伊橋 光二	
4	呼吸器障害と理学療法：COPD		事前学修：UNIPA配付資料を予習する。2年次「内科学」の該当部分を復習しておく。教科書19章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
5	呼吸器障害と理学療法：拘束性障害		事前学修：UNIPA配付資料を予習する。2年次「内科学」の該当部分を復習しておく。教科書20章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
6	呼吸器障害と理学療法：胸部・腹部外科術後		事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書21、22章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊橋 光二	
7	循環器障害と理学療法：循環器系の解剖・生理学		事前学修：教科書まとめ課題 事後学修：小テスト振り返り			60	60	高田 拓明	
8	循環器障害と理学療法：心不全		事前学修：教科書まとめ課題 事後学修：小テスト振り返り			60	60	高田 拓明	
9	循環器障害と理学療法：虚血性心疾患		事前学修：教科書まとめ課題 事後学修：小テスト振り返り			60	60	高田 拓明	
10	循環器障害と理学療法：大動脈疾患・弁膜疾患		事前学修：教科書まとめ課題 事後学修：小テスト振り返り			60	60	高田 拓明	
11	循環器障害と理学療法：末梢循環障害		事前学修：教科書まとめ課題 事後学修：小テスト振り返り			60	60	高田 拓明	
12	腎臓障害と理学療法：腎機能や病態・合併症		事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮	
13	腎臓障害と理学療法：運動処方とリスク管理、運動療法の実際		事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	伊藤 大亮	
14	糖尿病と理学療法：糖代謝の機能や病態・合併症		事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	坂上 尚穂	
15	糖尿病と理学療法：リスク管理、運動療法の実際		事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる			30	30	坂上 尚穂	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」南江堂、ISBN 978-4-524-23117-1								
参考文献	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法ー第2版」日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、他、照林社 ISBN978-4-7965-2278-6								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

科目ナンバリング
RPMd07

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●	●	

科目名	内部障害理学療法学演習				単位認定者	伊橋 光二		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題 （レポート等）	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

授業の概要
 本科目では、内部障害における代表疾患の特性と病態を理解し、内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、リスク管理、画像所見、理学療法評価、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を修得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療を実践し、内部障害の理学療法について理解できるようになること目的とする。

到達目標
 内部障害領域の呼吸器系、循環器系、代謝系のリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。
 1. 呼吸器系・循環器系・代謝系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを実施できるようになる。
 2. 他疾患に合併する場合でも、疾患のリスクを把握し運動療法を実施できるようになる。

学修者への期待等
 呼吸障害に対する理学療法では治療技術の習得も重要であり、授業時間外での実技練習に励まれるよう期待する。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	内部障害に対する理学療法総論	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊橋 光二
2	呼吸器障害に対する理学療法：コンディショニング	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	30	伊橋 光二
3	呼吸器障害に対する理学療法：ADLトレーニング	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書18章を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	30	伊橋 光二
4	呼吸器障害に対する理学療法：運動療法	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	30	伊橋 光二
5	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸介助法①上部・下部胸郭介助手技	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	60	伊橋 光二
6	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸介助法②側臥位介助手技	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	60	伊橋 光二
7	呼吸器障害に対する理学療法：呼吸介助法③体位排痰法	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：技術習得のため実技練習をする。	30	60	伊橋 光二
8	呼吸器障害に対する理学療法：人工呼吸器（NPPV含む）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書22章を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊橋 光二
9	呼吸器障害に対する理学療法：在宅酸素療法	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊橋 光二
10	吸引と呼吸ケア①：吸引・口腔ケアの意義や基礎知識	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書23章を予習する。 事後学修：次回の実習に備えて復習する。	30	30	伊橋 光二
11	吸引と呼吸ケア②：吸引・口腔ケアの実習	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊橋 光二
12	症例検討：急性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書症例問題を予習する。 事後学修：発表の準備をする。	30	60	伊橋 光二
13	症例検討：急性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：レポートを作成する。	30	60	伊橋 光二
14	症例検討：慢性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 教科書症例問題を予習する。 事後学修：発表の準備をする。	30	60	伊橋 光二
15	症例検討：慢性期の呼吸器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：UNIPA配付資料を予習する。 事後学修：レポートを作成する。	30	60	伊橋 光二

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	簡易運動耐容能検査①：6分間歩行テストの実習	事前学修：運動耐容能検査について調べてまとめておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
17	簡易運動耐容能検査②：シャトルウォーキングテストの実習	事前学修：運動耐容能検査について調べてまとめておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
18	心電図①：成立ち、活動電位、刺激伝導系について	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
19	心電図②：心電図波形の基本	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
20	心電図③：主な異常心電図所見	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
21	心肺運動負荷試験①：運動生理	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
22	心肺運動負荷試験②：評価指標	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
23	心肺運動負荷試験③：実習	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮
24	循環器障害に対する理学療法：リスク管理	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
25	循環器障害に対する理学療法：運動強度と運動処方	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
26	症例検討：循環器疾患を通じたグループワーク①（問題点の抽出）	事前学修：これまで学んだ内容を復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
27	症例検討：循環器疾患を通じたグループワーク②（治療プログラムの立案）	事前学修：これまで学んだ内容を復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
28	代謝障害に対する理学療法：リスク管理	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
29	代謝障害に対する理学療法：運動強度と運動処方	事前学修：左記内容について、配付資料、テキスト、その他書籍で予習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
30	症例検討：代謝性疾患を通じたグループワーク	事前学修：学んだ代謝性疾患について復習しておく 事後学修：学んだ内容をまとめる	30	30	伊藤 大亮 高田 拓明
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（実技、グループワーク、問題点の抽出、治療プログラムの立案）				
教科書	「内部障害理学療法学テキスト」山崎裕司ら編、南江堂、ISBN□978-4-524-23117-1				
参考文献	「呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法ー第2版」日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、他、照林社 ISBN978-4-7965-2278-6				
備考					

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

担当教員はいずれも、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、かつ臨床および研究において内部障害分野に専門的に従事してきており、より専門的、具体的な教育が可能である

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd08			
学修成果			●						
科目名	神経筋疾患理学療法学				単位認定者	網本 和 大和田 宏美			
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		
					授業形態		講義	授業時間数	30 時間
									授業回数
授業の概要	本科目では、多岐にわたる障害像を有する神経筋疾患の理学療法について学ぶ。神経難病の特性をふまえた上で、それぞれの病態、主要症状などを理解し、予後と経過、各疾患の進行にあわせて理学療法について学修する。主に、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性神経炎、脊髄損傷に対する理学療法などについて学修する。								
到達目標	神経筋疾患および脊髄損傷の症状の理解を深め、解剖学・生理学・運動学に基づき、症状から起こるADL障害を説明でき、理学療法プログラムが実施できるようになる。筋原性疾患および神経原性疾患についての病態と障害を理解し、障害に対する理学療法（評価・治療法）を修得して、この疾患に対する理学療法を実践できるようになる。								
学修者への期待等	この科目で学ぶ神経筋疾患は、疾患特有の病態、リスク管理、理学療法評価、理学療法があります。症例に即した理学療法評価と治療介入ができるよう疾患別に知識の整理をしてください。また、国家試験の出題が多い領域です。国家試験に備えて取り組んでください。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	パーキンソン病の病態		事前学修：教科書① (P340～357) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
2	パーキンソン病に対する理学療法		事前学修：教科書② (P22～41) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
3	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法		事前学修：教科書① (P332～339)、教科書② (P84～101) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
4	脊髄小脳変性症の病態		事前学修：教科書① (P364～371) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
5	脊髄小脳変性症に対する理学療法		事前学修：教科書② (P42～61) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
6	多発性硬化症の病態と理学療法		事前学修：教科書① (P318～325)、教科書② (P102～115) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
7	多系統萎縮症に対する理学療法、その他の難病		事前学修：教科書① (P364～371) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
8	ギラン・バレー症候群 (GBS) の病態と理学療法		事前学修：教科書① (P302～305)、教科書② (P116～130) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
9	重症筋無力症 (MG) の病態と理学療法		事前学修：教科書① (P390～395) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
10	シャルコーマリートゥース病 (CMT)、遺伝性ATTRアミロイドーシス (FAP) の病態と理学療法		事前学修：教科書① (P308～309、310～311) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
11	多発神経炎、多発性筋炎・皮膚筋炎の病態と理学療法		事前学修：配付する講義資料を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
12	SLE、後縦靭帯骨化症		事前学修：教科書① (SLE:P300、326、392、OPLL:287) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	網本 和	
13	脊髄損傷の病態とリスク管理		事前学修：教科書③ (P164～180) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
14	脊髄損傷の理学療法評価		事前学修：教科書③ (P181～193) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
15	脊髄損傷のADL動作の実際		事前学修：教科書③ (P193～237) を読んでおくこと。 事後学修：講義内容をノートにまとめておくこと。			60	60	大和田 宏美	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（各疾患の理学療法評価の練習をペアワークにて実施する。）								
教科書	①「病気が見えるVol.7 脳・神経 第2版」 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-686-4 ②「Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋障害」 中山 恭秀編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2003-0 ③「Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」 鈴木俊明編集 MEDICALVIEW ISBN978-4-7583-2002-3								
参考文献	「理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 神経障害理学療法学」 諸橋 勇編集 文光堂 ISBN 978-4-8306-4592-1 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」第6版 川平和美編集 医学書院 ISBN978-4-260-05667-0								
備考	小テスト等のフィードバックは、UNIPAの掲示機能を通じて行います。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、理学療法分野で5年以上の実務経験と理学療法士資格を有しており、その経験や研究活動を活かして、学生が神経筋疾患について理解を深め、症例に即した理学療法評価および理学療法の実践ができるように授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd09				
			●							
科目名	小児理学療法学				単位認定者	楠本 泰士		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	課題提出	20 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	<p>本科目では、発達障害の特徴を理解し、評価の考え方や進め方、原始反射や正常姿勢反応と正常発達との関係について理解を深め、特に脳性麻痺の特徴を理解し、治療方法や指導方法などの実践力を身につける。主に、脳性麻痺、二分脊椎や水頭症、小児の神経・筋疾患、小児の整形外科疾患、重症心身障害児・者などの理学療法を行うにあたりそれぞれ必要な検査や評価、治療や指導、リスク管理について学修する。</p>									
到達目標	<p>1) 小児における理学療法評価の項目を列挙し、内容を説明できる。 2) 正常運動発達を理解を基に、各種疾患の異常運動発達について説明できる。 3) 脳性麻痺のタイプ別の特徴を理解し、各種薬性治療と装具の役割を理解し、説明できる。 4) 筋ジストロフィー症や染色体異常、小児における整形外科疾患の特徴を理解し、説明できる。</p>									
学修者への期待等	<p>・子どもの発達に関して興味を持ち、子どもの発達には、子ども自身のFUNが欠かせない事を理解して欲しい。 ・子どもの発達は、様々な要素が絡みあって発達している事を理解してほしい。そのため、多方面から評価する事の必要性について理解してほしい。</p>									
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	発達障害理学療法総論、正常運動発達	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	楠本 泰士		
2	小児の理学療法評価	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	楠本 泰士		
3	脳性麻痺の理学療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	楠本 泰士		
4	脳性麻痺における各種薬性治療と装具療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	楠本 泰士		
5	筋ジストロフィーの理学療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	高橋 恵里		
6	発達障害児の理学療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	高橋 恵里		
7	重症心身障害児・者の理学療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	高橋 恵里		
8	二分脊椎・骨系統疾患の理学療法 先天性神経筋疾患・染色体異常の理学療法	事前学修：人間発達学や本科目の教科書を参考に、発達全般、該当教科書ページについて復習をしてくる。 事後学修：講義中に下線を引いた教科書の該当部分を読み返し、覚える。				30	30	高橋 恵里		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（クリニカルリーズニング）									
教科書	最新理学療法講座 小児理学療法学 新田収、松田雅弘(編著) 医歯薬出版株式会社									
参考文献	PT・OTのための子どものリハビリテーション評価マニュアル 楠本泰士 医学書院									
備考										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
実務経験が5年以上、博士(理学療法学)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd12				
			●							
科目名	義肢装具学				単位 認定者	原 和彦		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	10 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、身体各部位ごとの代表的義肢・装具の名称及び機能(目的)を理解し、各疾患と機能・構造、障害との関連性を理解することにより、疾患や障害に適した義肢・装具を選択し、また義肢・装具の適合判定が行えることを目的とする。また、義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び義肢・装具を使ったリハビリテーションや義肢を利用する切断患者のリハビリテーションについても学修する。									
到達目標	①装具の種類、パーツの名称が言えるようになる。 ②各装具の機能(目的)を理解し、各疾患と機能構造障害との関連性が説明できるようになる。 ③義足の種類、ソケット・足部・各種パーツの名称が言えるようになる。 ④各義足の機能(目的)を理解し、異常歩行の種類が説明できるようになる。									
学修者への期待等	授業ごとに予習・復習を十分に行うこと。 理解に必要な解剖学、運動学についての復習、また疾患の知識についても自己学習を行うこと。									
回	授業計画・学修の主題	準備学修						事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	
1	義肢装具学総論Ⅰ(切断と義肢の定義、歴史、概念、リハビリテーションと多職種連携)	事前学修:教科書15義肢総論を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
2	義足歩行のバイオメカニクスと歩行分析Ⅰ	事前学修:教科書26義足歩行の特徴、立位歩行練習を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」1・2、「学習到達度自己評価問題」1・2を理解しておくこと。						30	30	
3	大腿義足とソケット適合	事前学修:教科書21大腿義足ソケット、22膝継手を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
4	下腿義足とソケット適合	事前学修:教科書23足継手、24下腿義足ソケットを読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」、「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
5	股義足・膝義足・足部義足	事前学修:教科書25股義足、膝義足、サイム義足、足部義足を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
6	義足の機能、適応、チェックアウト	事前学修:教科書27異常歩行分析と指導、アライメントを読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
7	上肢切断と義手	事前学修:教科書29義手を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
8	義肢装具学総論Ⅱ(装具の定義、概念、分類、機能、適応、装具支援と多職種連携)	事前学修:教科書1装具総論を読みP3の「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
9	装具歩行のバイオメカニクスと歩行分析Ⅱ	事前学修:教科書28C-3~6を読み「調べておこう」について復習しておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
10	下肢装具の対象疾患と機能構造障害	事前学修:教科書目次の10~14(Pxi~xii)を読み各疾患について調べておくこと。 事後学修:各疾患に適応する下肢装具について理解しておくこと。						30	30	
11	下肢装具① 短下肢装具	事前学修:教科書2短下肢装具を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
12	下肢装具② 長下肢装具	事前学修:教科書3長下肢装具を読みP25の「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
13	小児疾患の装具、靴型装具	事前学修:教科書4靴型装具、12小児疾患患者に対する装具を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
14	頸椎装具・体幹装具・上肢装具	事前学修:教科書6上肢装具、8頭部体幹装具を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
15	車いす・姿勢保持装具・自助具の種類と適応、支給制度	事前学修:教科書32~34を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修:授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。						30	30	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり:キーワード()									
教科書	『義肢装具学テキスト』細田多穂監修、改訂第4版、南江堂、ISBN974-524-20388-8									
参考文献	『切断と義肢 第3版』澤村誠志 著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26691-5									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 教員は運動器、中枢、切断の急性期、回復期の理学療法の長い臨床実務と研究を継続している。特に切断の理学療法に関する研究、学会活動を継続的にを行い、本科目教育との関連は深い。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd13			
科目名	義肢装具学演習				単位 認定者	原 和彦		授業内課題 (レポート等)	55 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題 (小テ スト)	45 %
					授業形態	演習	授業時間数	30 時間	
							授業回数	15 回	
授業の概要	本科目は、義肢装具学で学修した知識をもとに、義肢・装具の適合判定及び装具療法、義肢・装具を使用した理学療法を行うために必要な知識と技術を、実際の義肢装具を用いた演習で修得する。また、切断端管理法についての基本的な知識を修得し、切断患者の切断端管理や評価方法及び理学療法の実践についても学修する。								
到達目標	①装具の機能(目的)を理解し、適応となる疾患が説明できるようになる。 ②各疾患と機能構造障害との関連性をふまえて最適な装具を選択できるようになる。 ③義足の機能(目的)を理解し、患者さんの状況に合わせた義足を選択できるようになる。 ④義足・身体の問題と異常歩行との関連性が説明できるようになる。								
学修者への期待等	その人の生活や人生を支える義肢装具の適応を正しく評価する臨床マインドをもって演習に望むことを期待しています。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)	
1	義肢・装具の総論		事前学修：義肢装具学第1回、8回授業資料、教科書15、1を読み復習しておくこと。 事後学修：義肢装具学の授業資料を復習し義肢装具の分類、機能を復習し理解しておくこと。				30	30	
2	下肢装具のアライメントとチェックアウト		事前学修：教科書5下肢装具のチェックアウトを読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30	
3	下肢装具の適合評価		事前学修：第2回の復習を行っておくこと。 事後学修：下肢装具の調整によるアライメント変化と影響について理解しておくこと。				30	30	
4	装具歩行分析(装着・歩行)		事前学修：運動学実習にて行った歩行の各パラメータについて復習を行っておくこと。 事後学修：装具装着歩行で学んだ分析事項をまとめること。				30	30	
5	下肢装具の製作過程		事前学修：教科書33義肢、装具の製作工程を読み「調べておこう」について調べておくこと。また動画も一覧しておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30	
6	疾患別下肢装具の適応とチェックアウト		事前学修：第2・3回の授業資料、教科書5下肢装具のチェックアウトを復習し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
7	靴型装具の適応とチェックアウト		事前学修：義肢装具学第13回の授業資料、教科書5下肢装具のチェックアウトDを復習し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
8	上肢装具の適応とチェックアウト		事前学修：義肢装具学第14回の授業資料を復習、教科書6上肢装具のチェックアウトを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
9	体幹装具の適応とチェックアウト		事前学修：義肢装具学第14回の授業資料を復習、教科書9頸部体幹装具のチェックアウトを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
10	断端評価(前後径、左右径、断端長、周径、パッチテスト)		事前学修：教科書18、19切断者の評価①②を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30	
11	断端ケア(弾性包帯法、義足装着前練習)		事前学修：教科書20断端管理法を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：授業資料を復習し「行動目標」「学習到達度自己評価問題」を理解しておくこと。				30	30	
12	大腿義足の分類とアライメント評価(ソケット・パーツ適合評価)		事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
13	下腿義足の分類とアライメント評価(ソケット・パーツ適合評価)		事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントを読み、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
14	義足異常歩行の原因と分析(模擬義足装着歩行)		事前学修：義肢装具学第6回の授業資料を復習、教科書27異常歩行分析と指導、アライメントの動画を確認し、事前に提示する課題について確認しておくこと。 事後学修：課題についてまとめレポートを作成する。				30	30	
15	多職種連携の実際		事前学修：第5回の授業資料を復習、教科書3義肢装具の給付制度を読み「調べておこう」について調べておくこと。 事後学修：義肢装具の分類、目的、機能、適応、チェックアウト、評価について復習し理解しておくこと。				30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(義肢、装具体験、チェックアウト、レポート課題)								
教科書	『義肢装具学テキスト』細田多徳監修、改訂第4版、南江堂、ISBN974-524-20388-8								
参考文献	『切断と義肢 第3版』澤村誠志 著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26691-5								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
運動器、中枢、切断の急性期、回復期の理学療法の長い臨床実務と研究を継続している。切断の理学療法の研究、学会活動を継続的にを行い、本科目教育との関連は深い。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMe02			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	原 和彦		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間
				授業回数		集中			
授業の概要	<p>本科目では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」及び「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の修得を図る。</p>								
到達目標	<p>1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 理学療法の利用者に対して、基本的な理学療法評価（検査・測定）を体験し実践できる。 4) その検査・測定結果を解釈することができる。 5) 検査・測定結果をもとに、問題点の抽出、治療プログラムの立案および目標の設定ができるようになる。</p>								
学修者への期待等	<p>理学療法の検査・測定ならびに評価の理解を深めることを期待します。本講義の理解には理学療法評価学関連の講義内容を復習することが効果的です。実習施設で求められる医療人に相応しい接遇や行動を取るようになしてください。</p>								
授業計画・学修の主題						準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
<p>1. 実習期間 【1月第2週～2月第4週のうち4週】</p> <p>2. 実習計画</p> <p>1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内教員から、実習報告書の作成や、学内での実習セミナー（発表）について指導を受ける。 6) 以下を実施する。 ①実習前OSCE ②実習後OSCE</p> <p>3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。</p> <p>成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ・実習セミナー（発表） ・実習前OSCE / 実習後OSCE ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。</p>						<p>事前学修： ①理学療法検査・測定ならびに評価に関する知識・技術を確認する。 ②医療人・社会人に相応しい接遇や行動について再確認する。 ③実習施設の情報や理学療法の特色などについて調べる。</p> <p>事後学修： ①臨床実習Ⅱで体験したことや実習先で得られた知識などをデイリーノートにまとめる。 ②実習の成果をスライドにまとめ発表する。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次回の臨床実習との関係について検討する。</p>		60	60
教科書	<p>「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」相澤純也ら編、羊土社、ISBN 978-4-7581-0214-8 「基礎編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考」有馬慶美ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4579-2 「運動療法エビデンスレビュー」松永篤彦ら編、文光堂、ISBN 978-4-8306-4565-5 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版」金原出版 ISBN 978-4-307-75058-5</p>								
参考文献									
備考	<p>「臨床実習の手引き」（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治</p>								
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）									
<p>担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な指導を行います。</p>									

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMe05			
	●	●	●	●	●				
科目名	地域リハビリテーション実習				単位認定者	金谷 さとみ		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	本科目では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。								
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 医療保険制度や介護保険制度を理解し、その中での理学療法士の役割を説明できる。 4) 対象者の生活環境やその支援方法などを説明できる。								
学修者への期待等	地域医療ならびに地域リハビリテーションについて理解を深めることを期待します。本講義の理解には地域理学療法を復習することが効果的です。実習施設で求められる医療人に相応しい接遇や行動を取るようによしてください。								
授業計画・学修の主題						準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)
1. 実習期間 【7月第4週～10月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設の臨床実習指導者による指導のもと、地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録とケースノート(利用者に関する記録)を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録(自己学修内容も含む) ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。						事前学修： ①介護保険サービス、障害者サービス、ケアマネジメント等に関する知識を身に付ける。 ②医療人・社会人に相応しい接遇・行動について再確認する。 ③実習先の通所・訪問施設の情報や理学療法の特徴などについて調べる。 事後学修： ①地域リハビリテーション実習で体験したことや実習先で得られた知識などをデイリーノートにまとめる。 ②実習の成果をスライドにまとめ発表する。 ③グループ内で経験した実習について情報を共有し、次回の臨床実習との関係について検討する。		60	60
教科書	適時、資料を配付する。								
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院 「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」、相澤純也ら編、羊土社								
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、大友 篤、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は地域理学療法分野で30年以上の実務経験があり、介護支援専門員の資格を有し、地域理学療法の現場状況を深く理解しており、実践的な指導が可能です。また担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が理学療法評価について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような実践的な指導を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMf01			
		●	●		●				
科目名	地域理学療法学				単位認定者	金谷 さとみ		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間
				授業回数		8 回			
授業の概要	地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域でのくらしを主体的につくりあげられるよう探究する学問である。地域包括ケアシステムが展開されている現在、入所施設や通所施設、訪問における理学療法の知識を得るだけでなく、介護予防、健康増進、さらには災害時支援など医療機関以外でも理学療法が活用されていることを学び、理学療法の領域の広がりを理解する。そして、制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」「受け手」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が地域をともに創っていく社会「地域共生社会」について学修する。								
到達目標	1. 地域理学療法学の概念・考え方を理解することができる。 2. 地域理学療法の関連法規や多職種連携について理解を深めることができる。 3. 介護老人保健施設、通所・訪問施設などの理学療法の知識を深めることができる。								
学修者への期待等									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	地域理学療法学とは				事前学修：教科書の第1章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
2	地域包括ケアシステムと地域連携				事前学修：教科書の第2章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
3	地域理学療法に関する制度				事前学修：教科書の第3章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
4	地域理学療法の方法論① 介護老人保健施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
5	地域理学療法の方法論② 通所施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
6	地域理学療法の方法論③ 訪問				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
7	地域理学療法の方法論④ 健康増進・介護予防				事前学修：教科書の第5章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
8	地域理学療法の方法論⑤ 国際支援、災害時支援、これからの地域理学療法				事前学修：教科書の第7章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。			30	30
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）								
教科書	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院 ISBN:978-4-260-05007-4								
参考文献									
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 理学療法士のみならず、介護支援専門員の資格を有し、実務経験（介護老人保健施設副施設長10年、在宅総合ケアセンターのセンター長20年）があり、地域理学療法の実践的な講義が可能です。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMf02				
		●	●		●					
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	金谷 さとみ		試験（レポート）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題（レポート等）	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、地域理学療法学で学修した知識をもとに、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。事例を通して、高齢者・障害者・障害児を含むあらゆる地域住民に対する具体的な理学療法士の支援について理解し、相談支援、訪問理学療法・通所サービスなど地域における理学療法士としての役割と実践について学修する。									
到達目標	1. 在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援を理解することができる。 2. 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。 3. 地域における理学療法士としての役割を理解し、実践力を高めることができる。									
学修者への期待等										
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員	
1	地域理学療法学の理念と背景			事前学修：地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	金谷 さとみ	
2	施設のリスクマネジメント			事前学修：リスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	金谷 さとみ	
3	病院・施設外のリスクマネジメント			事前学修：病院と施設外のリスクマネジメントについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	金谷 さとみ	
4	行政における理学療法士の役割			事前学修：行政の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
5	学校保健および特別支援教育			事前学修：学校保健の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
6	スポーツ活動支援			事前学修：スポーツ理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
7	介護保険下の入所サービス			事前学修：入所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
8	介護保険下の通所サービス			事前学修：通所サービスについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
9	訪問における理学療法			事前学修：訪問リハについて再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
10	健康増進・介護予防			事前学修：健康増進、介護予防について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
11	産業理学療法			事前学修：産業理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
12	事例検討① 障害児と理学療法士の関わり			事前学修：障害児の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
13	事例検討② 在宅の脳血管障害と理学療法			事前学修：脳血管疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
14	事例検討③ 在宅の神経変性疾患と理学療法			事前学修：神経変性疾患の理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
15	事例検討④ 終末期の在宅理学療法			事前学修：終末期の地域理学療法について再学習する 事後学修：授業内容を整理する			30	30	森永 雄	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（症例ごとのグループワーク）									
教科書	指定しない									
参考文献	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は医療機関、介護サービス事業所等で理学療法士として35年以上の実務経験を有しており、経験を生かして実践的な指導が可能である。また、介護支援専門員の資格を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMg01			
			●	●	●				
科目名	理学療法学総合演習 I				単位 認定者	大和田宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	本科目は、3年間の学修総括として理学療法に関する知識と技術を整理し、これまで学修した基礎医学・臨床医学といった専門基礎科目について統合的な能力を身につけることを目的とする。また、理学療法専門科目の知識と技術を定着させるため、グループワークなどを通じて共同学習を行い、最終学年の臨床実習に向けての足掛かりとする。								
到達目標	①解剖・生理・運動学などの基礎医学領域の知識の確認を行う。 ②臨床医学領域の知識と技術を整理し、臨床医学と理学療法の知識をつなげることができる。 ③基礎医学・臨床医学・理学療法学の知識を関連づけて学修できるようになる。								
学修者への期待等	臨床実習(評価実習)に行く前に、基礎医学・臨床医学・専門理学療法学の知識を身につけてください。国家試験勉強にもつながりますので、計画的に学修してください。								
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	基礎医学領域①解剖生理学(骨学・筋学)			事前学修:教科書①の第1章～第4章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
2	基礎医学領域②解剖生理学(運動学)			事前学修:教科書①の第5章と6章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
3	基礎医学領域③解剖生理学(神経系)			事前学修:教科書①の第12章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	平山 和美
4	基礎医学領域④解剖生理学(感覚系)			事前学修:教科書①の第13章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	平山 和美
5	臨床医学領域①中枢神経障害と臨床医学			事前学修:教科書②の第9章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	平山 和美
6	臨床医学領域②末梢神経・筋の障害と臨床医学			事前学修:教科書②の第10章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	平山 和美
7	臨床医学領域③骨関節障害と臨床医学(1)変形性関節症			事前学修:教科書②の第7章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	非常勤講師
8	臨床医学領域④骨関節障害と臨床医学(2)脊椎・肩関節疾患			事前学修:教科書②の第7章を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	非常勤講師
9	運動障害理学療法領域①骨関節障害の理学療法			事前学修:教科書③の第4章A骨関節(P238～283)を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	原 和彦
10	運動障害理学療法領域②外傷などの理学療法			事前学修:教科書③の第4章A骨関節(P238～283)を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	原 和彦
11	神経障害理学療法領域①脳卒中の理学療法			事前学修:教科書③の第4章B中枢神経(P284～312)を予習しておくこと。 事後学修:講義ノートを整理し、国家試験問題を解いておくこと。			60	60	網本 和
12	神経障害理学療法領域②高次脳機能障害の理学療法			事前学修:UNIPA資料を予習しておくこと。 事後学修:講義ノートを整理し、国家試験問題を解いておくこと。			60	60	網本 和
13	内部障害理学療法領域①呼吸器系			事前学修:教科書③の第4章E呼吸(P373～383)を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	伊橋 光二
14	内部障害理学療法領域②循環器系			事前学修:教科書③の第4章F循環(P384～401)を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
15	内部障害理学療法領域③代謝系			事前学修:教科書③の第4章G代謝(P402～404)を予習しておくこと。 事後学修:国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり:キーワード(グループ学習、問題解決型学習)								
教科書	①国試の達人 2026 運動解剖生理学編 第31版 IPEC ISBN978-4-86415-137-5 ②国試の達人 2026 臨床医学編 第27版 IPEC ISBN978-4-86415-138-2 ③国試の達人 2026 理学療法編 第26版 IPEC ISBN978-4-86415-139-9								
参考文献	随時、紹介します。								
備考	授業内課題がある場合は、UNIPAあるいは授業内でフィードバックを行います。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は全員、医師あるいは理学療法士、作業療法士として10年以上の臨床経験を持ち、教育経験も同様である。そのため、基礎医学、臨床医学、作業療法の知識を理解、整理するための適切な教育をすることが可能である。

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
3年生

- 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa03				
			●	●						
科目名	基礎作業学演習 I				単位認定者	齋藤佑樹 須藤あゆみ		授業内課題 (技術)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート等)	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	作業療法士が治療に用いる作業活動を通して、作業の持つ効用や治療的応用について学修する。基礎作業学で学ぶ作業分析についての知識や考え方を意識しながら各種作業活動に取り組み、作業が心身機能や活動にどのような影響を与えるのか理解を深める。									
到達目標	1. 代表的な作業活動の一般的な意味・形態・機能が説明できる 2. 代表的な作業活動の手順を説明できる 3. 代表的な作業活動を実施し分析ができる									
学修者への期待等	作業が持つ力を実感できる科目です。作業に従事する自分自身の心身の変化を内観しながら授業に臨んでください。									
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	作業分析、包括的作業分析		事前学修：1年次科目「基礎作業学」で学んだ作業分析について復習すること 事後学修：授業内容をノートにまとめること			60	30	齋藤 佑樹		
2	作業分析ワークシートの使用方法		事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	齋藤 佑樹		
3	折り紙：作成		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
4	折り紙：作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
5	革細工：スタンピング、染色		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
6	革細工：金具付け、作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
7	エコクラフト：切り分ける、底を編む		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
8	エコクラフト：立ち上げる、側面を編む		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
9	エコクラフト：紐でかがる、作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
10	ペーパークラフト：パーツに切り分ける		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
11	ペーパークラフト：組み立てる、作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
12	オープン陶芸：成型、乾燥、素焼き		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
13	オープン陶芸：素焼き作品の絵付け、作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
14	七宝焼き：デザイン決め、磨き、裏引き		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
15	七宝焼き：絵の具を盛る、焼成、作成、作業分析		事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習を行うこと			0	30	須藤あゆみ 熊谷 竜太		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：実践能力を身につけるために、グループで対話をしながら作業活動を行います。									
教科書	「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学」医学書院 ISBN：978-4-260-05748-6									
参考文献	「「作業」って何だろう 作業科学入門」医歯薬出版株式会社 ISBN：978-4-263-21667-5									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、作業を評価・治療に用いる意義や具体的手法について授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa03				
	●	●	●	●	●					
科目名	トランスレーショナルセミナーⅢ				単位認定者	齋藤 佑樹		授業内課題 (レポート等)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表)	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。トランスレーショナルセミナーⅢでは、様々な疾患を想定した臨床推論を、グループワークを通じて学修し、作業療法への理解を深めることに重点を置く。また、グループワークにおける症例検討を通して、自身とは異なる見解を受け入れ、問題解決のための思考力を身につける。									
到達目標	1. PBL形式での課題遂行において、状況に応じた検査・測定方法の選択ができる 2. 症例検討において、適宜質問を行い、他者の意見をふまえながら自分の考えを持つことができる									
学修者への期待等	課題解決型授業（PBL）や、学年や専攻を跨いだ共同作業があります。主体的な姿勢で授業に参加してください。									
回	授業計画				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
1	【1～4年生合同】作業療法を学ぶ意義				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30	
2	【1～4年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30	
3	【3、4年生合同】グループワーク①作業療法の臨床現場、臨床実習について				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30	
4	【3、4年生合同】グループワーク②理想とする作業療法士像				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30	
5	グループワーク③PBL形式検査・測定①(バイタル)				事前学修：バイタルサインの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
6	グループワーク④PBL形式検査・測定②(ROM)				事前学修：ROMの測定方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
7	グループワーク⑤PBL形式検査・測定③(MMT)				事前学修：MMTの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
8	グループワーク⑥PBL形式検査・測定④(FMA等)				事前学修：FMAの評価方法について復習しておくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
9	グループワーク⑦事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30	
10	グループワーク⑧事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
11	グループワーク⑨事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
12	グループワーク⑩事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
13	グループワーク⑪事例検討(症例設定、評価項目の立案、評価結果の解釈)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
14	グループワーク⑫事例検討(統合と解釈、目標設定)				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
15	作業療法における臨床推論のまとめ				事前学修：前回の復習を行うこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：相互理解を深めるため、グループワークをベースとした授業を行います。									
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	適宜、紹介する。									
備考	【担当教員】外里 富佐江、酒井 弘美、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で5年以上の実務経験がある。その経験を活かし、臨床力を養うための実践的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa05				
			●	●	●					
科目名	作業療法研究法 I			単位認定者	外里 富佐江		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数		1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数		15 時間		
						授業回数	8 回			
授業の概要	本科目では、代表的な量的研究法、質的研究法、混合研究法について網羅的に紹介しながら、対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを避けるためのデザイン方法、データの記述方法について学ぶ。加えて、研究論文に記載されている図表の読み方、先行研究の調べ方についても学び、実践につながる基礎を身につける。									
到達目標	1. 文献検索および文献の批判的吟味ができる 2. リサーチクエスション (PICO/PECO) を理解できる 3. 研究デザインについて理解できる									
学修者への期待等	本授業では、研究法を単なる知識として覚えるのではなく、「研究を読む・考える・疑う」ための基礎的な思考態度を身につけることを期待する。授業を通して、文献検索や論文の図表を読み解く経験を積み、研究結果をそのまま受け取るのではなく、「どのような問いから、どのような方法で得られた結果なのか」を意識して考えられるようになってほしい。また、PICO/PECOに基づくリサーチクエスションや研究デザインの理解を通して、自分自身の疑問を研究の問いとして言語化する力を養うことを目指す。将来的に卒業研究や臨床・実践の場面において、根拠に基づいて判断し、説明できる専門職となるための土台を、本科目で築くことを期待する。									
回	授業計画			準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)		
1	作業療法研究とは・なぜ研究が必要なのか			事前学修：教科書 p 2-15までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題①を提示する			30	30		
2	Evidence-based practiceとはなにか			事前学修：教科書 p 122-131までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題②を提示する			30	30		
3	文献データベースの使い方			事前学修：ユニパにアップされた資料をよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題③を提示する			30	30		
4	文献クリティーク (PICOを抜き出す)			事前学修：教科書 p 22-25までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題④を提示する			30	30		
5	文献クリティーク (研究デザインとエビデンス)			事前学修：教科書 p 26-29、120-136までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題を提示する			30	30		
6	研究デザインについて① (文献研究)			事前学修：教科書 p 142-147までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題⑤を提示する			30	30		
7	研究デザインについて② (臨床研究)			事前学修：教科書 p 26-27までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題⑥を提示する			30	30		
8	研究計画と研究倫理について			事前学修：教科書 p 28-32までをよみ、事前の資料に目を通してくる 事後学修：授業の後半に課題⑦を提示する			30	30		
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード (反転授業、課題解決型学修 (PBL)、グループワーク、ディスカッション、発表)									
教科書	作業で創るエビデンス～作業療法士のための研究法の学びかた～ 978-4-260-63662-9									
参考文献	研究法に関しては作業療法に限らず多くの成書があるため、適宜、授業で紹介する									
備考	本科目では、授業内容に限らず、日常的に目にするニュースや医療・福祉に関する記事、研究論文などにも関心を向けてほしい。その際、内容をそのまま理解しようとするよりも、「なぜこの結果が得られたのか」「他の見方はないか」と問いをもつ姿勢を大切にして学修してほしい。完璧な理解を目指すのではなく、疑問をもち、調べ、考える経験を積み重ねることが、研究法を学ぶ上で重要である。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、20年以上の教育経験があり、地域リハビリテーション領域、高次脳機能障害、神経神経学領域、専門職連携教育における研究実績があり、わかりやすく指導できる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd01				
			●	●						
科目名	作業療法理論				単位認定者	齋藤 佑樹		試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位			評価の方法
					授業形態		講義	授業回数	15 回	
授業の概要	<p>本科目では、人を作業的存在として捉える視点を学ぶとともに、作業が人や社会に与える影響を学ぶことで、作業の持つ力を作業療法に活用するための思考を深めていく。また、作業療法における主要な広範囲理論について学ぶことで、人をダイナミックシステムとして捉えるとともに、様々な側面から臨床的推論を行うための俯瞰的な視点を身につける。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業が人に与える影響を説明できる 2. 自分の心身の状態を作業の視点から言語化することができる 3. 代表的な広範囲理論の構造を説明することができる 4. 対象事例の状態を特定の広範囲理論に当てはめて推論することができる 									
学修者への期待等	作業療法実践を行ううえで重要な内容を多く含みます。授業の難易度が高いので、事前・事後学修を十分にを行い、主体的に授業に参加してください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	作業科学①：作業の側面、作業バランス				事前学修：「基礎作業学」の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
2	作業科学②：作業の文脈、作業的存在としての諸次元				事前学修：「基礎作業学」の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
3	行動変容理論①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30
4	行動変容理論②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
5	人-環境-作業モデル①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめる				0	30
6	人-環境-作業モデル②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
7	カナダモデル①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30
8	カナダモデル②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
9	人間作業モデル①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30
10	人間作業モデル②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
11	川モデル①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30
12	川モデル②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
13	OBP2.0①：理論の構造				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること				0	30
14	OBP2.0②：事例を通して理解を深める				事前学修：前回の復習を行う 事後学修：授業内容をノートにまとめる				30	30
15	理論から考える作業療法の普遍性				事前学修：これまでの内容を復習すること 事後学修：授業内容をノートにまとめること				60	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：講義が中心ですが、理解を深めるためにペアワークやグループワークも実施します。									
教科書	「作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方」医学書院 ISBN：978-4-260-05025-8									
参考文献	「作業」ってなんだろう 作業科学入門」医歯薬出版株式会社 ISBN：978-4-263-21667-5									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有し、作業療法分野で14年の実務経験がある。また、作業療法理論に関連した学術論文や書籍を多数執筆している。これらの経験を活かし授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd02			
			●						
科目名	身体障害作業療法学 I				単位認定者	酒井 弘美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、作業に焦点を当てた実践について学ぶとともに、脳卒中をはじめ、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症等、作業療法士が担当する主要な身体障害の病態や症状について学ぶ。また、目標設定の方法、予後予測、病期別の支援に加え、諸機能の回復、技能の修得、環境調整など、疾患・障害特性を踏まえた作業療法評価と支援の実践についても網羅的に学んでいく。								
到達目標	1. 各疾患の病態を理解した上で、治療の考え方が説明できるようになる 2. 各疾患の障害像から適切な評価項目の列挙ができ、その目的を説明できるようになる 3. 各疾患の病期に合わせた適切な治療の視点が説明できるようになる								
学修者への期待等	2年時に履修した臨床医学の知識が必要です。その時の授業資料やノートを活用してください。また、事前に教科書や UNIPA に掲載される配付資料等を読み、質問事項を用意して授業に臨んでください。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員			
1	作業に焦点を当てた実践①：作業療法の目的と手段	事前学修：1年の「基礎作業学」「作業療法学概論」の授業資料、ノートを見直しておくこと 事後学修：提示された課題を行うこと		30	30	齋藤 佑樹			
2	作業に焦点を当てた実践②：作業療法評価、支援	事前学修：2年の「作業評価学」の授業資料、ノートを見直しておくこと 事後学修：提示された課題を行うこと		30	30	齋藤 佑樹			
3	作業に焦点を当てた実践③：効果判定 (MCID 等含む)	事前学修：2年の「作業評価学」の授業資料を見直しておくこと 事後学修：提示された課題を行うこと		30	30	齋藤 佑樹			
4	脳血管障害①：病態と症状	事前学修：2年時の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	齋藤 佑樹			
5	脳血管障害②：作業療法評価の実際	事前学修：UNIPAに提示された資料を読んでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと		30	60	齋藤 佑樹			
6	脳血管障害③：作業療法支援の実際	事前学修：UNIPAに提示された資料を読んでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと		30	60	齋藤 佑樹			
7	外傷性脳損傷①：病態と症状	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
8	外傷性脳損傷②：作業療法評価と支援	事前学修：UNIPAに提示された資料を読んでおくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
9	パーキンソン病①：病態と症状	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
10	パーキンソン病②：作業療法評価と支援	事前学修：事前に提示された講義資料に目とおしておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
11	筋萎縮性側索硬化症：病態と症状、作業療法評価と支援	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
12	脊髄小脳変性症：病態と症状、作業療法評価と支援	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
13	多発性硬化症：病態と症状、作業療法評価と支援	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
14	ギランバレー症候群：病態と症状、作業療法評価と支援	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
15	重症筋無力症：病態と症状、作業療法評価と支援	事前学修：2年の神経学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと		30	60	酒井 弘美			
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード ()								
教科書	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」医学書院								
参考文献	随時提示する								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 単位認定者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハビリテーションセンター等での20年以上の臨床経験があり、長年地域での作業療法にも関わってきた。その経験を活かし、現場で求められている作業療法について、より具体的に教育する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd03			
			●						
科目名	身体障害作業療法学Ⅱ				単位 認定者	酒井 弘美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位		
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
							授業回数	15 回	
授業の概要	<p>本科目では、脊髄損傷や大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折等の主要な運動器障害に加え、呼吸器疾患や循環器疾患、代謝性疾患等の内部障害の特性を踏まえ、目標設定の方法、予後予測、急性期・回復期・生活期の支援内容について、必要な知識を学ぶ。また、病期別の支援に加え、諸機能の回復、技能の修得、環境調整など、疾患・障害特性を踏まえた作業療法評価と支援の実践についても網羅的に学んでいく。</p>								
到達目標	<p>1. 各疾患の病態を理解した上で、治療の考え方が説明できるようになる 2. 各疾患の障害像から適切な評価項目の列挙ができ、その目的を説明できるようになる 3. 各疾患の病期に合わせた適切な治療の視点が説明できるようになる</p>								
学修者への期待等	2年時の臨床医学の知識が必要です。その時の配付資料やノートを活用してください。また、事前に教科書や UNIPA へ掲載の資料等を読み、質問事項を用意して授業に臨んでください。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修				事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	骨関節疾患①：病態と症状	事前学修：UNIPAで事前提示された資料をよんでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと				30	60	齋藤 佑樹	
2	骨関節疾患②：作業療法評価・支援	事前学修：UNIPAで事前提示された資料をよんでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと				30	60	齋藤 佑樹	
3	切断：病態と症状、作業療法評価・支援	事前学修：UNIPAで事前提示された資料をよんでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと				30	60	齋藤 佑樹	
4	手外科①：病態と症状	事前学修：UNIPAで事前提示された資料をよんでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと				30	60	齋藤 佑樹	
5	手外科②：作業療法評価・支援	事前学修：UNIPAで事前提示された資料をよんでおくこと 事後学修：授業内容を確認し、提示された課題を行うこと				30	60	齋藤 佑樹	
6	脊髄損傷①：病態と症状	事前学修：2年の整形外科で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
7	脊髄損傷②：作業療法評価・支援	事前学修：教科書の該当箇所 (p218～233) を読んでおくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
8	呼吸器疾患：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：2年の内科学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
9	循環器疾患：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：2年の内科学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
10	廃用症候群：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：教科書の該当箇所 (p135～142) を読み、UNIPA の配付資料に目を通しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
11	熱傷：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：教科書の該当箇所 (p321～333) を読み、UNIPA の配付資料に目を通しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
12	糖尿病：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：2年の内科学で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
13	リウマチ①：病態、症状	事前学修：2年の整形外科で学修した同疾患について、配付資料やノートを見直して、疾患の概要を再確認しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
14	リウマチ②：作業療法評価・支援	事前学修：教科書の該当箇所 (p264～274) を読んでおくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
15	がん：病態、症状、作業療法評価・支援	事前学修：教科書の該当箇所 (p460～479) を読み、UNIPA の配付資料に目を通しておくこと 事後学修：内容の復習、関連資料の確認、課題への取り組みを行うこと				30	60	酒井 弘美	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード(グループワーク、計画立案)								
教科書	「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」医学書院								
参考文献									
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

単位認定者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハビリテーションセンター等での20年以上の臨床実務経験がある。その経験を活かし、より具体的に現場で求められる作業療法について教育する。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		●

科目ナンバリング
ROMd04

科目名	身体障害作業療法学演習				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	授業内課題(技術)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題(レポート等)	50 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

授業の概要	<p>本科目では、身体障害作業療法学 I・II で学修した知識を基盤として、身体障害を持つ対象者に対する評価・治療技術(喀痰・吸引を含む)を演習を通して修得することを目的とする。また、演習を通して得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、問題点に対して治療プログラムを立案し、実践する。演習への主体的な取り組みにより、作業療法を実践する能力を高めていく。最終的には、作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践するべきかを検討しながら学修を進める。</p>
-------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表疾患の障害像が説明できるようになる 2. 代表疾患に必要な評価手技が実施できるようになる 3. 代表疾患に必要な治療手技を実施できるようになる 4. 代表疾患の評価計画、治療計画を立案し説明できる
------	--

学修者への期待等	臨床で使用頻度の高い治療手技を学修するとともに、事例検討を通して評価・目標設定・臨床推論・介入などの一連の流れを学びます。難しい内容が多いので、事前学習をしっかりと行って授業に参加してください。
----------	---

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	関節可動域の拡大	事前学修：教科書①のP76-86を読んでおくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	齋藤 佑樹
2	筋力の維持・増強	事前学修：教科書①のP88-100を読んでおくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	齋藤 佑樹
3	感覚・知覚再教育	事前学修：教科書①のP128-135を読んでおくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	齋藤 佑樹
4	喀痰吸引	事前学修：教科書①のP151-156を読んでおくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	齋藤 佑樹 戸田 祐子 高橋 慧
5	脳血管障害①：事例提示、評価計画立案	事前学修：教科書①のP176-202を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	齋藤 佑樹
6	脳血管障害②：評価の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	齋藤 佑樹
7	脳血管障害③：評価のまとめ、治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	齋藤 佑樹
8	脳血管障害④：治療の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	齋藤 佑樹
9	脊髄損傷①：事例提示、評価計画立案	事前学修：教科書①のP214-233を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	戸田 祐子
10	脊髄損傷②：評価の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	戸田 祐子
11	脊髄損傷③：評価のまとめ、治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	戸田 祐子
12	脊髄損傷④：治療の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	戸田 祐子
13	パーキンソン病①：事例提示、評価計画立案	事前学修：教科書①のP380-390を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	戸田 祐子
14	パーキンソン病②：評価の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	戸田 祐子
15	パーキンソン病③：評価のまとめ、治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	戸田 祐子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
16	パーキンソン病④：治療の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	戸田 祐子
17	大腿骨頸部骨折①：事例提示、 評価計画立案	事前学修：教科書①のP247-250を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	高橋 慧
18	大腿骨頸部骨折②：評価の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	高橋 慧
19	大腿骨頸部骨折③：評価のまとめ、 治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	高橋 慧
20	大腿骨頸部骨折④：治療の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	高橋 慧
21	関節リウマチ①：事例提示、 評価計画立案	事前学修：教科書①のP260-272を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	高橋 慧
22	関節リウマチ②：評価の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	高橋 慧
23	関節リウマチ③：評価のまとめ、 治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	高橋 慧
24	関節リウマチ④：治療の実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	高橋 慧
25	筋萎縮性側索硬化症①：事例提示、 評価計画立案	事前学修：教科書①のP400-406を読んでおくこと 事後学修：要点をノートにまとめること	30	30	齋藤 佑樹
26	筋萎縮性側索硬化症②：評価の 実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	齋藤 佑樹
27	筋萎縮性側索硬化症③：評価の まとめ、治療計画立案	事前学修：特にありません 事後学修：要点をノートにまとめること	0	30	齋藤 佑樹
28	筋萎縮性側索硬化症④：治療の 実施	事前学修：特にありません 事後学修：実技の復習を行うこと	0	30	齋藤 佑樹
29	評価手技の振り返り	事前学修：これまで学修した評価手技を復習して おくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	戸田 祐子 高橋 慧
30	治療手技の振り返り	事前学修：これまで学修した評価手技を復習して おくこと 事後学修：実技の復習を行うこと	30	30	戸田 祐子 高橋 慧
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：ペアまたはグループで実技課題を行います。				
教科書	①「標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学」医学書院 ②「PT・OTビジュアルテキスト、リハビリテーション評価学」羊土社				
参考文献					
備考					

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有し、身体障害作業療法分野で14年の実務経験がある。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd05			
			●						
科目名	精神障害作業療法学				単位認定者	平山 和美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	本科目では、精神障害領域の主たる対象疾患の臨床像を理解し、各精神疾患における適切な作業療法の評価法や治療、援助内容、実践領域について学修し、各対象疾患における作業療法の役割を理解する。								
到達目標	1. 作業療法の対象となる精神疾患の回復過程と、各過程の作業療法の役割を説明できる 2. 疾患別の障害の特性、作業療法の目的、作業療法実施上の留意点を説明できる 3. 精神科作業療法における集団の用い方を学び、具体的に企画立案、運営、評価が実施できる								
学修者への期待等	臨床現場で出会うことの多い疾患・障害に対する作業療法を学びます。主体的に授業に参加し理解を深めて下さい。								
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	精神障害に対する作業療法の基礎理論		事前学修：教科書② p 350～342を読んでおくこと 事後学修：資料を確認し理解すること			30	30	須藤 あゆみ	
2	作業療法の構造と実施形態		事前学修：教科書② p 86～103 p 117～130を読んでおくこと 事後学修：資料を確認し理解すること			30	30	須藤 あゆみ	
3	統合失調症①：症状と病型、経過と予後、治療		事前学修：教科書① p 112～116を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 220～225を読んで理解を深めること			30	30	平山 和美	
4	統合失調症②：認知機能障害と行動特性		事前学修：教科書① p 133～141を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 269～278を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
5	統合失調症③：作業療法の実際		事前学修：教科書① p 133～141を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 269～278を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
6	気分障害①：疾患の病態生理、経過と予後		事前学修：教科書① p 141～149を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 278～285を読んで理解を深めること			30	30	平山 和美	
7	気分障害②：作業療法の実際		事前学修：教科書① p 141～149を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 278～285を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
8	物質依存：疾患の病態生理と作業療法の実際		事前学修：教科書① p 194～198を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 296～300を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
9	パーソナリティ障害①：疾患の病態		事前学修：教科書① p 161～167を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 300～304を読んで理解を深めること			30	30	平山 和美	
10	パーソナリティ障害②：作業療法の実際		事前学修：教科書① p 161～167を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 300～304を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
11	神経症性障害①：疾患の病態		事前学修：教科書① p 149～154を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 286～290を読んで理解を深めること			30	30	平山 和美	
12	神経症性障害②：作業療法の実際		事前学修：教科書① p 149～154を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 286～290を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
13	摂食障害 疾患の病態と作業療法の実際		事前学修：教科書① p 154～161を読んでおくこと 事後学修：教科書② p 290～296を読んで理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
14	てんかん 疾患の病態と作業療法の実際		事前学修：教科書① p 188～193を読んでおくこと 事後学修：配付資料を確認し理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
15	知的障害 疾患の病態と作業療法の実際		事前学修：「精神医学」で学習した該当箇所を復習しておくこと 事後学修：配付資料を確認し理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ	
アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	①「作業療法学全書 改訂版第3版 第5巻 作業治療学精神障害」協同医書出版 ISBS978-4-7639-2122-2 ②「精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 精神認知系作業療法の理論と実践」山根寛著 三輪書店								
参考文献									
備考									
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)									
須藤) 担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。									

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd06			
			●		●				
科目名	精神障害作業療法学演習				単位認定者	平山和美 須藤あゆみ		授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、精神障害作業療法学において学修した評価や治療に関する知識、技術を発展させ、精神疾患・障害に対する作業療法の知識や技術を演習を通して修得することを目的とする。また、事例を通して評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、介入案を立案し、実践する。作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践すべきかグループワーク等にて検討しながら学修を進める。								
到達目標	1. 精神障害作業療法における作業療法実践に関して説明でき、紙上で、作業療法の一連の流れが実施できる 2. 精神科作業療法における集団の用い方を理解し、企画立案、運営、評価が実施できる								
学修者への期待等	グループワークを行いながら授業を進めるため、積極的に授業に参加して下さい。								
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員		
1	集団作業療法：概要	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	平山 和美		
2	作業を手段に用いるプログラム①：計画	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
3	作業を手段に用いるプログラム②：発表	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
4	作業を手段に用いるプログラム③：実践	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
5	作業を手段に用いるプログラム④：まとめ	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：第2回から第5回までの振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
6	デイケアの作業療法①：概要	事前学修：精神障害作業療法学で学んだ内容を復習しておくこと 事後学修：配布資料を確認し理解しておくこと			30	30	須藤 あゆみ		
7	デイケアの作業療法②：作業療法支援の実践	事前学修：前回の配布資料を確認しておくこと 事後学修：課題を提出すること			30	30	須藤 あゆみ		
8	訪問作業療法：概要と作業療法支援の実践	事前学修：精神障害作業療法学で学んだ内容を復習しておくこと 事後学修：配布資料を確認し理解しておくこと			30	30	須藤 あゆみ		
9	司法領域の作業療法：概要と作業療法の実践	事前学修：教科書 p 256～263 を読んでくること 事後学修：教科書 p 263～267 を読み理解を深めること			30	30	須藤 あゆみ		
10	制度・社会資源の利用	事前学修：教科書 p 11～19 を読んでくること 事後学修：配布資料を確認し理解しておくこと			30	30	須藤 あゆみ		
11	症例を通して学ぶ①：病態理解	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
12	症例を通して学ぶ②：評価計画	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
13	症例を通して学ぶ③：評価	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
14	症例を通して学ぶ④：プログラム実施	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：次回に向け授業の振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
15	症例を通して学ぶ⑤：まとめ	事前学修：UNIPAの資料に目を通しておくこと 事後学修：第11回から第15回までの振り返りを行うこと			30	30	須藤 あゆみ 熊谷 竜太		
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループ学習 発表）								
教科書	「標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学」医学書院								
参考文献	「作業療法学全書 改訂版第3版 第5巻 作業治療学精神障害」協同医書出版 ISBS978-4-7639-2122-2 「精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 精神認知系作業療法の理論と実践」山根寛著 三輪書店								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

須藤、熊谷) 担当教員は作業療法分野で5年以上の実務経験と作業療法士資格を有しており、精神障害に対する作業療法を実践してきた。その経験を活かして学生が精神障害の作業療法について理解を深める実践的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd07				
			●							
科目名	高齢期作業療法学				単位認定者	外里 富佐江		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	高齢化に伴い、疾患や障害像が多様化し、作業療法の介入の機会が増えている。本科目では、一般高齢者の特徴を学び、その上で、近年急激に増加している認知症を呈する高齢者について、医学的知識に基づき、認知症と共に生きる高齢者の生活を考え、作業療法士の役割を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会施策を理解する 2. 健康高齢者について説明できる 3. 老年期障害を引き起こす疾患の原因や、病態生理、症候を説明できる 4. 認知症の疫学的な理解と共に、認知症者に必要な環境支援について説明できる 									
学修者への期待等	本授業では、高齢者を一括りに捉えるのではなく、身体的・心理的・社会的背景の多様性をもつ一人の生活者として高齢者を理解する姿勢を期待する。認知症については「疾患」としての理解にとどまらず、認知症と共に生きる高齢者の生活や思いに目を向け、環境や支援のあり方を主体的に考える力を養うことを期待する。作業療法士として将来関わる対象者像を具体的に思い描きながら、医学的知識と生活支援の視点を統合して考察できる学修態度を求める。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修 時間 (分)	事後学修 時間 (分)	
1	高齢化の進展 高齢者の定義、高齢社会、高齢化率上昇の要因				事前学修：教科書p1-4まで目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題①を提示する			30	30	
2	社会施策の変遷				事前学修：p5-16まで目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題②を提示する			30	30	
3	高齢期の課題				事前学修：p17-25まで目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題③を提示する			30	30	
4	高齢期作業療法の目的 高齢期障害と障害受容、一般高齢者の状況				事前学修：ユニパにアップした資料を読んでくること 事後学修：授業の後半に課題④を提示する			30	30	
5	老年症候群と作業療法（評価・治療）				事前学修：教科書p27-33まで目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題⑤を提示する			30	30	
6	高齢期に多い疾患				事前学修：教科書p155-169に目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題⑥を提示する			30	30	
7	認知症 認知症の定義、認知症の疫学、分類と原因				事前学修：教科書p111-138に目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題⑦を提示する			30	30	
8	認知症 中核症状、BPSD 認知症と共に生きるということ				事前学修：ユニパの資料に目を通して課題について考えてくる 事後学修：授業の後半に課題⑧を提示する			30	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（反転授業、課題解決型学修（PBL）、グループワーク、ディスカッション、発表）									
教科書	シンプル作業療法学シリーズ 老年期作業療法学テキスト 978-4-524-21049-7									
参考文献	「人間発達学」中外医学社 福田恵美子監修、その他 授業で資料配布									
備考	講義内容を受動的に記憶するのではなく、新聞・ニュース・身近な高齢者との関わりなど、日常生活の中で得られる情報と結び付けながら学修を進めてほしい。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教員は、10年以上の臨床経験があり、20年以上の「高齢期作業療法」の教育経験を持つ。この授業を担当する高齢期の作業療法について十分な経験がある。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd08	
			●		●		
科目名	高齢期作業療法学演習				単位 認定者	外里 富佐江	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位
					授業形態	演習	授業時間数
							授業回数
授業の概要	本科目では、高齢期作業療法学において学修した評価や治療に関する知識、技術を発展させ、作業療法の知識や技術を演習を通して修得することを目的とする。また、事例を通して評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、介入案を立案し、実践する。作業療法評価や作業療法プログラムを具体的にどのように実践すべきかグループワーク等にて検討しながら学修を進める。						
到達目標	1. 高齢者の意味ある大切な作業に焦点を当てることができる 2. 対象者のライフストーリーを俯瞰的に捉えることができる 3. 高齢者の評価結果に基づいた統合解釈を行い介入計画を立案、実施できる						
学修者への期待等	本授業では、これまでに学修してきた高齢期作業療法学の知識や評価技術を前提として、対象者一人ひとりの「意味ある作業」やライフストーリーに目を向けながら、評価結果を統合的に解釈し、実践につなげる力を身につけることを期待する。事例検討やグループワークを通して、単なる知識の再生にとどまらず、評価から問題点の抽出、介入計画の立案・実施までを一連の思考として捉え、自身の考えを他者に説明し、相互に検討できる姿勢が求められる。また、高齢者の生活背景や価値観の多様性を理解し、作業療法士としてどのような支援が可能かを主体的に考え続ける態度をもって、積極的に授業に参加することを期待する。						
回	授業計画・学修の主題	準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	作業療法士が理解しておくべき人権と尊厳	事前学修：教科書p～16までよく読んでおくこと 事後学修：課題①を提示する			30	30	外里 富佐江
2	高齢者の生活のみかた	事前学修：事前に配付した資料を確認し課題を考えてくること 事後学修：課題②を提示する			30	30	外里 富佐江
3	高齢期作業療法の評価～実施、再評価、地域移行の流れ	事前学修：事前に配付した資料を確認し課題を考えてくること 事後学修：課題②を提示する			30	30	外里 富佐江
4	MTDLPを用いたクラスメイトの大切な作業の聞き取り	事前学修：2年次の作業療法評価学のMTDLPの資料を確認しておくこと 事後学修：授業の復習をすること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
5	MTDLPを用いて、ライフストーリーを知る	事前学修：前回の聞き取り内容をまとめておくこと 事後学修：課題③を完成させ提出する			30	60	戸田 祐子 高橋 慧
6	高齢期の対象者がたどる病期の流れ 急性期、回復期	事前学修：高齢期の病期について調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
7	生活期リハビリテーションとは現状と課題	事前学修：生活期リハビリテーションについて調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
8	生活期リハビリテーションマネジメント	事前学修：前回の授業内容を確認しておくこと 事後学修：課題④を完成させ提出すること			60	30	戸田 祐子 高橋 慧
9	終末期リハビリテーションの在り方	事前学修：終末期リハビリテーションについて調べておくこと 事後学修：授業内容を復習すること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
10	実施場所に応じた治療・援助内容のちがいを①認知症病棟 事例を通して学ぶ	事前学修：認知症病棟について調べておくこと 事後学修：授業の復習をすること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
11	実施場所に応じた治療・援助内容のちがいを②介護老人保健施設 事例を通して学ぶ	事前学修：介護老人保健施設、福祉施設について調べておくこと 事後学修：授業の復習をすること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
12	認知症高齢者の作業療法①疾患別の作業療法の視点	事前学修：アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症とその特徴について調べておくこと 事後学修：授業内容の復習をすること			60	30	戸田 祐子 高橋 慧
13	認知症高齢者の作業療法②認知症と共に生きるということ	事前学修：前回の授業内容を整理しておくこと 事後学修：自分の考えなどをまとめておくこと			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
14	認知症高齢者の作業療法③介護家族の支援、地域資源の活用	事前学修：認知症高齢者の家族支援について調べておくこと 事後学修：課題となることなどをまとめること			30	30	戸田 祐子 高橋 慧
15	介護予防の作業療法 介護予防教室の計画	事前学修：介護予防についてしらべておくこと。また、介護予防教室の計画をたて発表します。しっかり調べ学習など準備をしておきましょう 事後学修：発表の振り返りをし、提出すること。			60	30	戸田 祐子 高橋 慧
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、問題解決型学習、TBL、課題フィードバック）						
教科書	シンプル作業療法学シリーズ 老年期障害作業療法学テキスト 南江堂 978-4-524-21049-7						
参考文献	「標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学」医学書院 その他適時、資料を配布する。						
備考	本科目では、授業内容に限らず、日常的に目にするニュースや医療・福祉に関する記事、研究論文などにも関心を向けてほしい。						

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 全教員は、作業療法士として10年以上の臨床経験があり、「高齢期作業療法演習」の教育経験を持つためわかりやすく指導が可能である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd09				
			●							
科目名	発達障害作業療法学				単位認定者	橋浦 樹里		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	脳性麻痺や筋ジストロフィーなどの代表的な小児疾患の病態や障害特性について学ぶ。また、作業療法を行う上で必要な各評価の基本的な実施方法、手順の理論的根拠を学び、的確に実施できる技術を身につける。加えて評価方法だけでなくリスク管理や対象者への接し方、触れ方など、作業療法士として必要な態度・姿勢についても必要性和意味を考え、実践できるよう理解を深める。									
到達目標	各疾患の病態や障害を理解し、それぞれの作業療法の役割について説明できるようになる。実践現場とライフステージについて理解し、役割をふまえて作業療法評価が実践できるようになる。リスク管理や子どもへの関わりについて理解し、作業療法を実践できるようになる。									
学修者への期待等	授業の中で各疾患の事例を提示します。事例に対する積極的なディスカッションを通して、作業療法の知識が広がることを期待します。									
回	授業計画・学修の主題			準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	発達障害に対する作業療法 新生児(NICU対象児)			事前学修：とくにありません 事後学修：とくにありません				0	0	
2	脳性麻痺			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
3	重症心身障害(者)			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
4	筋ジストロフィー			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
5	骨関節疾患・二分脊椎			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
6	知的障害			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
7	神経発達症			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
8	内部障害・小児がん まとめ			事前学修：教科書を読み、わからない予後や内容を確認する 事後学修：とくにありません				30	0	
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()									
教科書	『標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学』第3版、加藤寿宏編集、医学書院									
参考文献										
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有しており、小児領域において5年以上の実務経験があります。その経験を生かして、学生が発達や小児疾患への理解を深め、臨床現場で作業療法士としての役割を実践できるよう、具体的に授業を行います。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd10			
			●						
科目名	高次脳機能障害作業療法学				単位認定者	酒井 弘美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間
				授業回数		8 回			
授業の概要	人の認知・行動と脳機能の関係について学ぶとともに、高次脳機能障害の種類や症状の詳細について学び、それぞれの障害が対象者の生活にどのような弊害を及ぼすのかを理解する。また、高次脳機能障害の状態を正確に評価し、作業療法士として行うべき支援が提供できるよう、必要な知識・技術を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の症状・生活への影響・評価・支援の要点を理解し説明できる 2. 高次脳機能障害者の主観的世界をイメージし言語化できる 3. 障害像に合わせて適切な意思疎通・評価方法・支援方法を選択できる 4. 脳画像から対象者に生じる高次脳機能障害の種類・生活への影響を予測できる 								
学修者への期待等	脳の機能解剖、神経学の知識が必要となります。事前に2年次の神経学の授業資料を見直し、毎回予習をして授業に臨んでください								
回	授業計画・学修の主題	準備学修						事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	失語：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
2	失認：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
3	注意障害：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
4	半側空間無視：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
5	失行：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
6	遂行機能障害：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
7	記憶障害：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	30
8	社会的行動障害：病態、症状、作業療法支援	事前学修：2年次の神経学の授業で使用した高次脳機能障害①の時の配付資料、ノートを確認し、教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：配付資料等を見直し、授業の内容を復習すること						30	60
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード()								
教科書	「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学」医学書院								
参考文献	随時提示する								
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は作業療法士の資格を有し、大学病院、総合病院、リハセンターで20年以上の実務経験がある。また、東京都大田区で高次脳機能障害者の機能訓練事業、就労支援事業に13年間携わってきた。その経験を活かし、高次脳機能障害者の急性期、回復期、生活期の全てに対応する作業療法士の教育を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMd11			
			●						
科目名	日常生活活動学				単位認定者	齋藤 佑樹		試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本科目では、日常生活活動 (Activities of Daily Living : ADL) 及び手段的日常生活活動 (Instrumental Activities of Daily Living : IADL) について、各作業の側面 (意味・形態・機能) の理解を深めるとともに、代表的な疾患に対する作業療法支援の実践について学修する。								
到達目標	1. 日常生活活動・手段的日常生活活動の概念を説明できる 2. 日常生活活動・手段的日常生活活動の評価について説明できる 3. 日常生活活動・手段的日常生活活動における作業別の支援について説明できる								
学修者への期待等	対象者の生活を支援する作業療法士にとって、日常生活活動 (ADL) の知識は大変重要です。事前・事後学修を十分に行い、主体的な参加を期待します。								
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	オリエンテーション 日常生活活動の概念と範囲				事前学修：教科書P7-25を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
2	起居・移動：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P53-68を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
3	食事：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P69-85を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
4	整容：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P86-95を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
5	更衣：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P96-110を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
6	排泄：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P8111-124を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
7	入浴：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P125-134を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
8	睡眠：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P135-136を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
9	栄養：作業の側面と作業療法支援				事前学修：教科書P137-138を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること			30	30
10	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援① (脳血管疾患)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
11	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援② (骨関節疾患)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
12	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援③ (神経筋疾患)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
13	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援④ (老年期障害)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
14	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援⑤ (精神障害)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
15	日常生活活動・手段的日常生活活動における疾患別の作業療法支援⑥ (発達障害)				事前学修：特にありません 事後学修：授業内容をノートにまとめること			0	30
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：理解を深めるために、ペアワーク・グループワークを行います。								
教科書	「標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学」医学書院								
参考文献									
備考									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士資格を有し、身体障害作業療法分野で14年の実務経験がある。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。

科目ナンバリング
ROMd12

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力
			●		

科目名	義肢装具学				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の 方法	試験（筆 記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	2 単位		試験（実 技）	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要
義肢や装具は、リハビリテーション医療において日常生活や社会復帰を可能とする重要な手段のひとつである。リハビリテーション治療において義肢装具を用いるためには、上肢切断や関節リウマチなどの病態の理解が不可欠であるとともに、疾患の特性に応じた適応を十分に理解することが必要である。本科目では、義肢装具の構造、機能、種類、特徴、その適応、使用方法、義肢や装具の仕組みを学修し、実際の治療や日常生活での障害に応じた義肢装具の選択、使用方法に関する基本的な知識を修得する。

到達目標
1. 義肢と装具の違いについて説明できる
2. 疾患別に適応する装具を理解し、作業療法的手段として適用できる

学修者への期待等
解剖学・運動学から日常生活活動まで、幅広い知識を必要とする科目です。事前・事後学修を十分に行い、主体的に授業に参加することを期待します。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	授業ガイダンス 義肢装具学概論	事前学修：教科書P2-7を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	原 和彦
2	義肢学総論(歴史・切断の原因・部位・分類)	事前学修：教科書P12-19を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	原 和彦
3	上肢切断の評価・ソケットの種類	事前学修：教科書P19-27を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	齋藤 祐樹
4	下肢切断の評価・ソケットの種類	事前学修：配付資料を事前に読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	原 和彦
5	切断の作業療法(断端の管理、筋力訓練、ADL訓練)	事前学修：教科書P15を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	大山 峰生
6	義肢(適応・分類・構造)	事前学修：教科書P18-41を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	大山 峰生
7	義肢(装着・操作訓練・義手のチェックアウト)	事前学修：教科書P53-64を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	大山 峰生
8	装具学総論(歴史・目的・分類)	事前学修：教科書P204-214を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	大山 峰生
9	疾患別適応装具①(関節リウマチ)	事前学修：教科書P278-294を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	齋藤 祐樹
10	疾患別適応装具②(末梢神経損傷)	事前学修：教科書P334-351を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	齋藤 祐樹
11	疾患別適応装具③(頸髄損傷)	事前学修：教科書P294-302を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	齋藤 祐樹
12	スプリント制作準備	事前学修：教科書P215-222を読んでおくこと 事後学修：授業内容をノートにまとめること	30	30	齋藤 祐樹
13	スプリント作成①(型紙作り) 実技	事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること	0	30	齋藤 祐樹
14	スプリント作成②(加工) 実技	事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること	0	30	齋藤 祐樹
15	スプリント作成③(チェックアウト・まとめ)	事前学修：特にありません 事後学修：要点の復習をすること	0	30	齋藤 祐樹
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：ペアワークを通してスプリント作成を行います。				
教科書	「義肢装具と作業療法 評価から実践まで」医歯薬出版株式会社				
参考文献	「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学」羊土社				
備考					

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は作業療法士資格を有する。身体障害作業療法分野で14年の実務経験があり、義肢装具を用いた作業療法介入を多く経験してきた。この経験を活かし、臨床実践力を養う授業を行う。□

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMe02				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	酒井 弘美		実習内容	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	5 単位	評価の方法		
					授業形態	実習	授業時間数		225 時間	
				授業回数		集中				
授業の概要	医療チームの一員として臨床場面に参加しながら作業療法を経験し、技能を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習の前後には、学内で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、知識、技能、態度等を総合的に評価するとともに、実習後セミナーを通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 臨床実習施設の特長や施設における作業療法(士)の役割と機能を学ぶ 今まで学んだ作業療法の知識と技術・技能および態度を臨床場面に応用し、基本的な作業療法を実践することを体験する リハビリテーションチームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける 作業療法士としての基本的な態度を身につける 									
学修者への期待等	大学で学んだ知識や技術を自分なりに理解・整理してから実習に望むことで、実習が充実したものになるよう十分に準備してください。									
授業計画・学修の主題								準備学修	事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
<ol style="list-style-type: none"> 実習期間 【1月第2週～2月第4週のうち4週】 実習計画 <ol style="list-style-type: none"> 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、作業療法の利用者に対して作業療法評価を実施する。 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 学内教員から、実習報告書の作成や、学内での実習セミナー（発表）について指導を受ける。 以下を実施する。 ①実習前OSCE ②実習後OSCE 成績評価 以下を成績評価項目とする。なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ・実習セミナー（発表） ・実習前OSCE / 実習後OSCE ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。 								事前学修：担当した症例について、疾患の概要や作業療法評価・介入等、これまでの授業内容を確認すること 事後学修：日々の臨床経験の記録と臨床実習指導者から提示された課題を行うこと	60	90
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献										
備考	【担当教員】外里 富佐江、酒井 弘美、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 龍太、高橋 慧									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMe03			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅲ（地域実習）				単位認定者	齋藤 佑樹		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法は、作業や環境を改善することを目指しており、人だけでなく地域とも関わることを前提としている。通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける実習を通して、現在我が国で推進されている地域包括ケアシステムの中での作業療法士の役割やマネジメント等を学ぶ。また、生活障害の理解と他職種との連携を踏まえた生活課題を明らかにできる作業療法の実践について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における施設の役割や施設における作業療法（士）の役割と機能を学ぶ 2. リハビリテーション・チームの一員としての役割を理解し、協調性のある態度を身につける 3. 作業療法士としての基本的な態度を修得し、専門職としての資質の向上・充実を図る 4. 実習施設の組織をはじめ、リハビリテーション部門、作業療法部門の運営や、スタッフ間の連携の重要性を認識する 								
学修者への期待等	対象者の生活の場（地域）で行う実習であり、医療機関では見ることが難しい対象者の実生活に触れる貴重な機会です。主体的に行動し、多くの経験を持ち帰ってきてください。								
授業計画・学修の主題					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1. 実習期間 【7月第4週～10月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 臨床実習施設の臨床実習指導者による指導のもと、地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録とケースノート（利用者に関する記録）を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					事前学修： 実習に臨むにあたり、これまでに学修した関連領域の知識を整理するとともに、実習配属先の施設概要や対象となる領域について調べる。また、自身の課題を明確にし、実習で求められる基本的な知識・技術・態度について、事前学修を行う。 事後学修： 実習で学んだ知識・技術について振り返りを行い、対象者の作業や生活との関連を整理する。また、セミナー（発表会）を通じて実習成果を発表し、指導教員および学生間の相互フィードバックを踏まえ、今後の学修課題を明確にする。			30	30
教科書	適時、資料を配付する。								
参考文献									
備考	【担当教員】外里 富佐江、酒井 弘美、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf02			
		●	●		●				
科目名	地域作業療法学				単位認定者	外里 富佐江		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
					授業形態	講義	授業時間数	15 時間	
				授業回数			8 回		
授業の概要	超高齢社会の進行に伴い、リハビリテーションサービスを必要とする対象者が増加している。対象者が住み慣れた地域での生活を継続するために必要な介護保険法や障害者総合支援法など制度の活用も含めた作業療法の支援について学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの概念について説明できる 2. 地域リハビリテーションにおける医学モデルと生活モデルの視点について説明できる 3. 地域包括ケアシステムや各事業との連携や作業療法との関係を説明できる 4. 実践の場に応じた作業療法について説明・模擬実践できる 								
学修者への期待等	将来、作業療法士として地域で活動する際に求められる以下を身につけることを期待する。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活全体を見る視点 ・他職種・他制度とつながる意識 ・実践を想像しながら考える力 								
回	授業計画・学修の主題		準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	地域包括ケアシステムとは生活行為向上マネジメント(MTDLP)の活用		事前学修：教科書p1～15までよく読んでおくこと 事後学修：課題①について復習する			30	30	外里 富佐江	
2	介護保険制度と社会資源（障害者総合支援法等）		事前学修：教科書35～43までよく読んでおくこと 事後学修：課題②について復習する			30	30	外里 富佐江	
3	地域保健法、学校保健法、産業保健法		事前学修：事前にアップされた資料をよく読んでおくこと 事後学修：課題③について復習する			30	30	外里 富佐江	
4	訪問作業療法、通所作業療法、施設における作業療法		事前学修：教科書 p 92～121までよく読んでおくこと 事後学修：課題④について復習する			30	30	外里 富佐江	
5	地域リハビリテーションの歴史、概念、動向		事前学修：教科書p13～19を読んでおくこと 事後学修：授業内容の復習をすること			30	30	戸田 祐子	
6	家族関係の調整、家族への介護指導		事前学修：教科書p74～79を読んでおくこと 事後学修：授業内容をまとめておくこと			30	30	戸田 祐子	
7	地域における生活スタイルの見直しと再構築		事前学修：教科書p80～89を読んでおくこと 事後学修：授業内容をまとめておくこと			30	30	戸田 祐子	
8	疾病の予防、再発、障害、重症化の予防		事前学修：教科書p317～325を読んでおくこと 事後学修：授業内容をまとめておくこと			30	30	戸田 祐子	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、課題フィードバック、問題解決学習）								
教科書	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 地域作業療法学 ISBN978-4-7583-2049-8								
参考文献	「標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学」医学書院 その他、授業前や授業中に資料を配付する、あるいは参考文献を紹介する。								
備考	将来、地域で活動する作業療法士として求められるのは、与えられた情報を待つ姿勢ではなく、自ら情報を収集し、考え、支援につなげていく力である。本授業では、教科書や配付資料だけでなく、日常生活の中で地域やリハビリテーションに関する情報に目を向ける姿勢を大切にほしい。ニュース、新聞記事、自治体の広報、街で目にする福祉サービスや高齢者・障害者の生活場面など、身近な情報の中には、地域作業療法を考えるための多くのヒントが含まれている。								

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、10年以上、地域、施設、病院の臨床に携わり豊富な知識と臨床経験があり、20年以上の教育経験があるため、わかりやすく地域リハビリテーションを教授が可能である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf03				
			●		●					
科目名	職業リハビリテーション論 I				単位認定者	酒井 弘美		試験（筆記）	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		15 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	<p>本科目では、職業リハビリテーションの理念や歴史的発展、現在の法制度、社会資源など職業リハビリテーションに携わる上で必要な基本的知識を学修する。職業関連活動の基礎である就労支援制度、職業評価、職業リハビリテーションについての基礎的な理解や、障害者雇用促進法や障害者就労支援に関する作業療法士の役割を理解することで、就労支援のために必要となる作業療法評価から介入までのプロセスを学修する。さらには、各種法制度と社会資源を学修し、就労支援における作業療法実践力を修得することを目的とする。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労の意義を理解し説明できる 2. 職業リハビリテーションの基本的な考え方を説明できる 3. 就労に必要な福祉関連機器の種類や用途について説明できる 									
学修者への期待等	グループワークを多く行うため、積極的に参加してほしい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
1	職業の定義、意味、構成要素				事前学修：特になし 事後学修：特になし			0	0	
2	職業リハビリテーション活動の概念				事前学修：特になし 事後学修：特になし			0	0	
3	就労支援に関する理論(マズローの欲求階層モデルなど)				事前学修：教科書 p 25～35を読んでおくこと 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			30	30	
4	障害者の就労・就労制度				事前学修：教科書 p 10～21を読んでおくこと 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			30	30	
5	就労支援の基本的な考え方				事前学修：教科書 p 38～21を読んでおくこと 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			30	30	
6	職業関連活動と就労支援における作業療法士の役割				事前学修：UNIPAに提示された講義資料を読んでおくこと 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			30	30	
7	関連職種・関連機関との連携				事前学修：教科書 p 44～51を読んでおくこと 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			30	30	
8	作業療法の対象者と実施施設について				事前学修：特になし 事後学修：授業内で提示された課題を行うこと			0	30	
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、発表、ケーススタディ）									
教科書	「就労支援と作業療法－基礎から臨床実践まで－」中村俊彦 他 編 医歯薬出版									
参考文献	職業リハビリテーションの基礎と実践 日本職業リハビリテーション学会編 中央法規									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は作業療法士として、20年以上の医療機関での実務経験を持つほか、東京都大田区で高次脳機能障害者の就労支援事業に13年間携わり、自立支援協議会の就労部員としての経験も有している。その経験を活かし、職業リハビリテーションについて多職種との連携も含めて教育する。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●	●	●

科目ナンバリング
ROMg01

科目名	作業療法学総合演習 I				単位認定者	平山 和美 酒井 弘美		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	本科目は、3年間の学修総括として作業療法及びリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を身につけることを目的とする。総合実習に向けて、これまで学修した基礎医学・臨床医学分野の知識を統合し、また専門領域の知識と技術を定着させるため、グループワークなどを通じて確実なものにする。									
到達目標	1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める 2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる 3. 臨床医学の知識と技術を修得し、作業療法を実践的に展開できるようになる									
学修者への期待等	適切な作業療法を行う上で大切な、基礎医学、臨床医学の知識を復習・整理し、専門的理解につなげてください。復習には、基礎医学、臨床医学で使用した講義資料やノートを活用してください。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	担当教員
1	基礎医学領域①解剖生理学(骨学・筋学)				事前学修：教科書①の第1章～第4章を予習しておくこと。 事後学修：国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
2	基礎医学領域②解剖生理学(運動学)				事前学修：教科書①の第5章と6章を予習しておくこと。 事後学修：国家試験問題を解いておくこと。			60	60	大和田 宏美
3	基礎医学領域③解剖生理学(神経系)				事前学修：1年時の該当箇所の生理学の講義資料、ノート等を確認しておくこと			30	60	平山 和美
4	基礎医学領域④解剖生理学(感覚系)				事後学修：講義内容を確認し、出された課題を行うこと			30	60	平山 和美
5	臨床医学領域①中枢神経障害				事前学修：2年時の神経学の講義資料、ノート等を確認しておくこと 事後学修：講義内容を確認し、出された課題を行うこと			30	60	平山 和美
6	臨床医学領域②末梢神経・筋の障害				事前学修：2年時の整形外科の講義資料、ノート等を確認しておくこと 事後学修：講義内容を確認し、出された課題を行うこと			30	60	平山 和美
7	作業と生活のつながり				事前学修：事前提示された課題に目を通しておくこと 事後学修：授業内容を確認し、出された課題を行うこと			30	60	齋藤 佑樹
8	身体障害・高齢期障害・発達障害の評価							30	60	齋藤 佑樹
9	身体障害・高齢期障害・発達障害の評価に関する検討、考察							30	60	齋藤 佑樹
10	精神障害・高次脳機能障害の評価							30	60	酒井 弘美
11	精神障害・高次脳機能障害の評価に関する検討、考察							30	60	酒井 弘美
12	脳血管系疾患、運動器疾患の作業療法実践							30	60	外里 富佐江
13	精神障害領域、高齢期障害領域の作業療法実践							30	60	平山 和美
14	発達障害領域の作業療法実践							30	60	酒井 弘美
15	義肢装具の作業療法への適用				30	60	齋藤 佑樹			
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード(グループ学習、問題解決型学習)									
教科書	①国試の達人 2026 運動解剖生理学編 第31版 IPEC ISBM978-4-86415-137-5 ②国試の達人 2026 臨床医学編 第27版 IPEC ISBN978-4-86415-138-2 ③国試の達人 2026 作業療法編改訂3版									
参考文献	随時、紹介します。									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は全員、医師あるいは理学療法士、作業療法士として10年以上の臨床経験を持ち、教育経験も同様である。そのため、基礎医学、臨床医学、作業療法の知識を理解、整理するための適切な教育をすることが可能である。

リハビリテーション学部

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
リハビリテーション学部リハビリテーション学科 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science)	Re
リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Physical Therapy)	RP
リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Occupational Therapy)	RO

②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目（Liberal Arts subjects）	L
専門基礎科目（Foundations of Major subjects）	F
専門科目（Major subjects）	M

③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

【ナンバリング例】

例1) リハビリテーション学部リハビリテーション学科

「解剖学Ⅰ」（理学療法学専攻、作業療法学専攻の共通科目）の場合、①Re②F③a④01

→ ナンバリングは「ReFa01」

例2) リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

「理学療法学概論」の場合、①RP②M③a④01

→ ナンバリングは「RPMa01」

例3) リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

「作業療法学概論」の場合、①RO②M③a④01

→ ナンバリングは「ROMa01」

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 RP

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	ReLa01
		英語Ⅰ	ReLa02
		英語Ⅱ	ReLa03
		英語Ⅲ	ReLa04
		情報処理Ⅰ	ReLa05
		情報処理Ⅱ	ReLa06
		ICT活用技術	ReLa07
	人文科学系 b	哲学	ReLb01
		生命倫理学	ReLb02
		心理学	ReLb03
		教育心理学	ReLb04
		宗教と民族	ReLb05
		人間関係論	ReLb06
	社会科学系 c	法学入門	ReLc01
		日本国憲法	ReLc02
		経済と政策	ReLc03
		教育学概論	ReLc04
		社会学	ReLc05
		社会保障論	ReLc06
	自然科学系 d	物理学	ReLd01
		生物学	ReLd02
		自然環境と災害	ReLd03
		統計学入門	ReLd04
		健康スポーツⅠ	ReLd05
健康スポーツⅡ		ReLd06	
専門基礎科目 F	人体の構造と機能及び心身の発達 a	解剖学Ⅰ	ReFa01
		解剖学Ⅱ	ReFa02
		解剖学演習	ReFa03
		解剖学実習	ReFa04
		生理学Ⅰ	ReFa05
		生理学Ⅱ	ReFa06
		生理学実習	ReFa07
		運動学総論	ReFa08
		運動学演習Ⅰ	ReFa09
		運動学演習Ⅱ	ReFa010
		運動学実習	ReFa011
		機能解剖学実習	ReFa012
		臨床運動学	ReFa013
		人間発達学	ReFa014
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 b	薬理学	ReFb01
		病理学	ReFb02
		小児科学	ReFb03
		老年学	ReFb04
		内科学	ReFb05
		神経学	ReFb06
		整形外科学	ReFb07
		精神医学	ReFb08
		臨床心理学	ReFb09
		栄養学	ReFb10
保健医療福祉とリハビリテーションの理念 c	救急救命学	ReFb11	
	公衆衛生学	ReFb12	
	言語聴覚療法概論	ReFb13	
	臨床検査・画像診断学	ReFb14	
	リハビリテーション概論	ReFc01	
	チームアプローチ入門	ReFc02	
保健医療福祉連携論	ReFc03		

…PTOT共通			
科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
専門科目 M	基礎理学療法学 a	理学療法学概論	RPMa01
		トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
		トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
		トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
		トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04
		理学療法研究法Ⅰ	RPMa04
		理学療法研究法Ⅱ	RPMa03
	理学療法管理学b	理学療法管理学	RPMb01
	理学療法評価学 c	理学療法評価学	RPMc01
		基礎理学療法評価学実習	RPMc02
		運動器障害理学療法評価学実習	RPMc03
		神経障害理学療法評価学実習	RPMc04
		内部障害理学療法評価学演習	RPMc05
		理学療法評価学総合実習	RPMc06
	理学療法治療学 d	運動器障害理学療法学	RPMd01
		運動器障害理学療法学演習	RPMd02
		神経障害理学療法学	RPMd03
		神経障害理学療法学演習	RPMd04
		高次脳機能障害学	RPMd05
内部障害理学療法学		RPMd06	
内部障害理学療法学演習		RPMd07	
神経筋疾患理学療法学		RPMd08	
小児理学療法学		RPMd09	
物理療法学		RPMd10	
物理療法学演習		RPMd11	
義肢装具学		RPMd12	
義肢装具学演習	RPMd13		
日常生活活動学	RPMd14		
日常生活活動学実習	RPMd15		
予防理学療法学	RPMd16		
スポーツ理学療法	RPMd17		
疼痛理学療法	RPMd18		
先端理学療法	RPMd19		
臨床実習 e	臨床実習Ⅰ(体験実習)	RPMe01	
	臨床実習Ⅱ(評価実習)	RPMe02	
	臨床実習Ⅲ(総合実習)	RPMe03	
	臨床実習Ⅳ(総合実習)	RPMe04	
	地域リハビリテーション実習	RPMe05	
地域理学療法学 f	地域理学療法学	RPMf01	
	地域理学療法学演習	RPMf02	
	生活環境論	RPMf03	
特別演習 g	理学療法学総合演習Ⅰ	RPMg01	
	理学療法学総合演習Ⅱ	RPMg02	

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 RO

科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
教養科目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	ReLa01
		英語Ⅰ	ReLa02
		英語Ⅱ	ReLa03
		英語Ⅲ	ReLa04
		情報処理Ⅰ	ReLa05
		情報処理Ⅱ	ReLa06
		ICT活用技術	ReLa07
	人文科学系 b	哲学	ReLb01
		生命倫理学	ReLb02
		心理学	ReLb03
		教育心理学	ReLb04
		宗教と民族	ReLb05
	社会科学系 c	人間関係論	ReLb06
		法学入門	ReLc01
		日本国憲法	ReLc02
		経済と政策	ReLc03
		教育学概論	ReLc04
		社会学	ReLc05
	自然科学系 d	社会保障論	ReLc06
		物理学	ReLd01
		生物学	ReLd02
		自然環境と災害	ReLd03
		統計学入門	ReLd04
		健康スポーツⅠ	ReLd05
		健康スポーツⅡ	ReLd06
	専門基礎科目 F	人体の構造と機能及び心身の発達 a	解剖学Ⅰ
解剖学Ⅱ			ReFa02
解剖学演習			ReFa03
解剖学実習			ReFa04
生理学Ⅰ			ReFa05
生理学Ⅱ			ReFa06
生理学実習			ReFa07
運動学総論			ReFa08
運動学演習Ⅰ			ReFa09
運動学演習Ⅱ			ReFa010
運動学実習			ReFa011
機能解剖学実習			ReFa012
臨床運動学			ReFa013
人間発達学			ReFa014
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 b		薬理学	ReFb01
		病理学	ReFb02
		小児科学	ReFb03
		老年学	ReFb04
		内科学	ReFb05
		神経学	ReFb06
		整形外科学	ReFb07
		精神医学	ReFb08
		精神医学演習	ROFb01
		臨床心理学	ReFb09
		栄養学	ReFb10
		救急救命学	ReFb11
公衆衛生学	ReFb12		
言語聴覚療法概論	ReFb13		
臨床検査・画像診断学	ReFb14		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念 c	リハビリテーション概論	ReFc01	
	チームアプローチ入門	ReFc02	
	保健医療福祉連携論	ReFc03	

…PTOT共通			
科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	
専門科目 M	基礎作業療法学 a	作業療法学概論	ROMa01
		基礎作業学	ROMa02
		基礎作業学演習Ⅰ	ROMa03
		基礎作業学演習Ⅱ	ROMa04
		トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
		トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
		トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
	トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04	
	作業療法管理学b	作業療法研究法Ⅰ	ROMa05
		作業療法研究法Ⅱ	ROMa06
	作業療法評価学 c	作業療法管理学	ROMb01
		作業療法評価学	ROMc01
		身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	ROMc02
		身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	ROMc03
精神障害作業療法評価学演習		ROMc04	
作業療法治療学 d	高次脳機能障害作業療法評価学演習	ROMc05	
	作業療法理論	ROMd01	
	身体障害作業療法Ⅰ	ROMd02	
	身体障害作業療法Ⅱ	ROMd03	
	身体障害作業療法演習	ROMd04	
	精神障害作業療法	ROMd05	
	精神障害作業療法演習	ROMd06	
	高齢期作業療法	ROMd07	
	高齢期作業療法演習	ROMd08	
	発達障害作業療法	ROMd09	
	高次脳機能障害作業療法	ROMd10	
	日常生活活動学	ROMd11	
	義肢装具学	ROMd12	
	福祉レクリエーション論	ROMd13	
先端作業療法	ROMd14		
臨床実習 e	臨床実習Ⅰ（体験実習）	ROME01	
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	ROME02	
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	ROME03	
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	ROME04	
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	ROME05	
地域作業療法学 f	地域生活支援論	ROMf01	
	地域作業療法学	ROMf02	
	職業リハビリテーション論Ⅰ	ROMf03	
	職業リハビリテーション論Ⅱ	ROMf04	
	生活環境論	ROMf05	
	福祉住環境論	ROMf06	
特別演習 g	作業療法学総合演習Ⅰ	ROMg01	
	作業療法学総合演習Ⅱ	ROMg02	

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seyogakuin.ac.jp
5	とごと ふさえ 外里 冨佐江		f_tozato@seyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seyogakuin.ac.jp
7	さかい ひろみ 酒井 弘美		h_sakai@seyogakuin.ac.jp
8	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seyogakuin.ac.jp
9	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seyogakuin.ac.jp
10	おおとも あつし 大友 篤		a_ootomo@seyogakuin.ac.jp
11	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seyogakuin.ac.jp
12	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seyogakuin.ac.jp
13	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seyogakuin.ac.jp
14	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seyogakuin.ac.jp
15	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seyogakuin.ac.jp
16	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seyogakuin.ac.jp
17	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seyogakuin.ac.jp
18	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seyogakuin.ac.jp
20	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seyogakuin.ac.jp
21	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seyogakuin.ac.jp
22	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての経験や研究活動を通して、人体の解剖学について理学療法学・作業療法学に必要な知識を教授し、今後学修していく様々な疾患に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	原…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で基礎となる演習を行う。 坂上…理学療法士としての経験が豊富で本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。
臨床運動学	2年	2	網本 和彦 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
高次脳機能障害学	3年	1	網本 和彦	理学療法士としての実務経験や研究業績から、高次脳機能障害について教授するとともに、高次脳機能障害の理学療法学について臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
神経筋疾患理学療法学	3年	2	網本 和彦 大和田 宏美	網本…理学療法士としての実務経験から、自身が経験してきた難病である神経筋疾患患者の理学療法について教授する。 大和田…理学療法士としての実務経験や研究活動から、神経筋疾患患者の理学療法について理解を深められるような授業を展開する。
義肢装具学	3年	2	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
義肢装具学演習	3年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての経験や研究活動を通して、人体の解剖学について理学療法学・作業療法学に必要な知識を教授し、今後学修していく様々な疾患に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	原…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で基礎となる演習を行う。 坂上…理学療法士としての経験が豊富で本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。
臨床運動学	2年	2	網本 和彦 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
作業療法管理学	4年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、リハビリテーション科の係長として9年、回復期リハビリテーション病棟の作業療法部門責任者として7年の経験がある。また、管理・運営に特化した教科書の編集も行っている。以上の経験を活かし、作業療法管理学を担当する。
作業療法理論	3年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、人間作業モデルやカナダ作業遂行モデルなど、作業療法領域の広範囲理論を臨床実践に活用してきた。また、作業療法理論を解説している教科書や専門書を多数編集・執筆している。以上の経験を活かし、作業療法理論を担当する。
日常生活活動学	3年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、対象者の日常生活活動能力の向上に特化した病棟である「回復期リハビリテーション病棟」に約10年間勤務してきた。また、日常生活活動に焦点を当てた目標設定を行うアプリケーションの開発も行っている。以上の経験を踏まえ、日常生活活動学を担当する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

2026(令和8)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。